

工 事 設 計 書 等

工事設計書等のダウンロードにあたって

知り得た情報は、関東地方整備局以外の者の権利を含む場合があるため、ダウンロードを行った個人又は法人における1次利用に限るものとし、有償無償に関わらず「第三者への提供行為※」を行わないでください。

※「他の第三者への提供行為」・・・PDFデータのまま、あるいは、紙に出力して等の手段に関わらず、ダウンロードを行った個人又は法人以外の他者による2次利用につながる一切の行為を指します。

国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所

鏡

1. 工事名

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事
工事地名	自）茨城県土浦市佐野子地先 至）茨城県土浦市虫掛地先（桜川橋）他 3 箇所

2. 工事内容

1) 発注年月	令和 8 年 4 月	1 2) 設 計 年 月	令和 8 年 7 月
2) 事務所名	常陸河川国道事務所 道路管理第二課	1 3) 機械損料一括補正	0 労務費一括割増 0%
3) 工事番号	2025040017	1 4) 単価適用年月	2026 年 7 月
4) 契約区分	単年度（繰越を含む）の分任官	1 5) 歩掛適用年月	2026 年 7 月
5) 変更回数	0 回	1 6) 前請負工事費	0
6) 主 工 種	橋梁保全工事	1 7) 前請負代金額	0
7) 工 事 量	一式	1 8) 調 整 区 分	0
8) 工 期	193 日間 自 令和 8 年 7 月 21 日 (当初) 至 令和 9 年 1 月 29 日 (0 回変更) 至 年 月 日	1 9) 共通仮設費対象額	
9) 施 工 県	茨城県	2 0) 現場管理費対象額	
1 0) 地 区	土浦地区	2 1) 一般管理費等対象額	
1 1) 河川・路線	一般国道 6 号	2 2) 処 分 費 等	319
		2 3) 公 告 日	令和 8 年 4 月 30 日
		2 4) 入 札 締 切 日	年 月 日
舗装工	一式	仮設工	一式
橋梁付属物工	一式		
橋梁補修工	一式		
構造物撤去工	一式		
応急処理工	一式		

3. 予算科目

1) 予算科目：	2) 目：	3) 目の細分：	4) 事業名：

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
橋梁保全工事 （土浦地区） 桜川橋（下り）		式	1		53,597,239				
橋梁付属物工		式	1		16,072,380				
伸縮継手工		式	1		16,072,380				
伸縮装置非排水化	TYPE-150	m	52.2	307,900	16,072,380			単-1号	
橋梁補修工		式	1		6,584,809				
亀裂補修工		式	1		4,562,760				
亀裂補修 (1)	TYPE-A1	箇所	23	60,500	1,391,500			単-2号	
亀裂補修 (2)	TYPE-A2	箇所	16	57,390	918,240			単-3号	
亀裂補修 (3)	TYPE-A3	箇所	14	85,530	1,197,420			単-4号	
亀裂補修 (4)	TYPE-A4	箇所	10	74,960	749,600			単-5号	
亀裂補修 (5)	ソールプレート補修	箇所	3	102,000	306,000			単-6号	
当て板補修工		式	1		186,940				

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
当て板補修 (1)		SM400A SS400	箇所	1	73,810	73,810			単-7号
当て板補修 (2)		SM400A SS400		1	45,270	45,270			単-8号
当て板補修 (3)		SM400A SS400		1	67,860	67,860			単-9号
支承補修工			式	1		151,054			
沓座モルタル補修 (1)		無収縮モルタル	箇所	1	3,124	3,124			単-10号
沓座モルタル補修 (2)		無収縮モルタル		3	12,390	37,170			単-11号
沓座モルタル補修 (3)		無収縮モルタル		4	27,690	110,760			単-12号
ひび割れ補修工			式	1		197,500			
低圧注入工法		25m以下 エポキシ	構造物	1	197,500	197,500			単-13号
断面修復工				式	1		645,611		
左官工法 (1)		0.1m3以下 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理無	構造物	1	312,600	312,600			単-14号
左官工法 (2)		0.1m3以下 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有		1	332,100	332,100			単-15号

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
コンクリート殻積込・運搬(断面修復工)		コンクリート殻(無筋)	m3	0.09	6,607	594			単-16号
殻処分		コンクリート殻(無筋)							
			m3	0.09	3,525	317			
紫外線硬化型FRPシート工			式	1		840,944			
紫外線硬化型FRPシート(1)		0.01m2以上0.07m2未満/枚	m2	0.27	338,200	91,314			単-18号
紫外線硬化型FRPシート(2)		0.07m2以上0.15m2未満/枚							
			m2	0.72	199,600	143,712			単-19号
紫外線硬化型FRPシート(3)		0.15m2以上/枚	m2	3.34	115,700	386,438			単-20号
部分塗装		RC-II 素地調整 中塗り 上塗り							
			m2	4	54,870	219,480			単-21号
仮設工			式	1		30,940,050			
足場工			式	1		30,108,450			
足場		吊足場 両側朝顔 シート防護	m2	1,975	15,110	29,842,250			単-22号
登り栈橋									
			箇所	1	266,200	266,200			単-23号
交通管理工			式	1		831,600			

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事 (当 初)					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
交通誘導警備員 (1)	誘導員A	人日	22	19,300	424,600			単-24号	
交通誘導警備員 (2)	誘導員B	人日	22	18,500	407,000			単-25号	
直接工事費		式	1		53,597,239				
共通仮設費		式	1		9,736,225				
共通仮設費		式	1		530,225				
技術管理費		式	1		64,225				
道路施設基本データ作成費用		式	1		64,225			内-1号	
現場環境改善費（率計上）		式	1		466,000				
共通仮設費（率計上）		式	1		9,206,000				
純工事費		式	1		63,333,464				
現場管理費		式	1		31,721,000				
工事原価		式	1		147,293,391				

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
橋梁保全工事 （桜川地区） 鉾田・若宮歩道橋		式	1		12,721,759				
舗装工		式	1		2,980,417				
橋面防水工		式	1		637,939				
橋面防水 （1）	塗膜防水	m2	112	2,920	327,040			単-1号	
橋面防水 （2）	塗膜防水	m2	93	3,343	310,899			単-2号	
薄層カー舗装工		式	1		2,342,478				
薄層カー舗装 （1）	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2	112	9,750	1,092,000			単-3号	
薄層カー舗装 （2）	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2	93	9,750	906,750			単-4号	
セメントモルタル敷設	普通 1:3	m2	93	3,696	343,728			単-5号	
橋梁補修工		式	1		1,610,676				
シール材設置工		式	1		1,610,676				
シール材設置 （通路部）	シーリング系	m	81	3,556	288,036			単-6号	

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮 歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
シール材設置 (階段部)	シーリング 系	m	360	3, 674	1, 322, 640			単-7号	
構造物撤去工		式	1		1, 202, 166				
構造物取壊し工		式	1		1, 202, 166				
既設舗装剥ぎ取り (1)	舗装版厚 60mm以下	m2	110	5, 922	651, 420			単-8号	
既設舗装剥ぎ取り (2)	舗装版厚 60mm以下	m2	93	5, 922	550, 746			単-9号	
応急処理工		式	1		6, 040, 500				
応急処理作業工		式	1		6, 040, 500				
応急作業 (1)		式	1		2, 262, 000			内-1号	
応急作業 (1)-1【夜間】		式	1		758, 250			内-2号	
応急作業 (2)		式	1		2, 262, 000			内-3号	
応急作業 (2)-1【夜間】		式	1		758, 250			内-4号	
仮設工		式	1		888, 000				

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮 歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要	
交通管理工		式	1		888,000				
交通誘導警備員	誘導員B	人日	48	18,500	888,000			単-10号	
直接工事費		式	1		12,721,759				
共通仮設費		式	1		3,874,000				
共通仮設費		式	1		151,000				
現場環境改善費（率計上）		式	1		151,000				
共通仮設費（率計上）		式	1		3,723,000				
純工事費		式	1		16,595,759				
現場管理費		式	1		11,071,000				
工事原価		式	1		27,666,759				

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
橋梁保全工事 （桜川地区） 山王歩道橋			式	1		11,054,168			
舗装工			式	1		1,355,690			
橋面防水工			式	1		312,440			
橋面防水		塗膜防水							単-1号
			m2	107	2,920	312,440			
薄層カー舗装工			式	1		1,043,250			
薄層カー舗装		樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm							単-2号
			m2	107	9,750	1,043,250			
橋梁補修工			式	1		5,013,028			
モルタル充填工			式	1		273,807			
モルタル充填		無収縮モルタル							単-3号
			箇所	1	273,800	273,800			
殻運搬		コンクリート殻(無筋)							単-4号
			m3	0.001	5,236	5			
殻処分		コンクリート殻(無筋)							単-5号
			m3	0.001	2,350	2			
シール材設置工			式	1		1,600,008			

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
シール材設置 (1) (通路部)		シーリング 系	m	78	3,556	277,368			単-6号
シール材設置 (2) (階段部)		シーリング 系	m	360	3,674	1,322,640			単-7号
紫外線硬化型FRPシート工			式	1		3,139,213			
紫外線硬化型FRPシート (1)		0.01m2以上0.07m2未満 /枚	m2	4.18	338,200	1,413,676			単-8号
紫外線硬化型FRPシート (2)		0.07m2以上0.15m2未満 /枚	m2	5.88	199,600	1,173,648			単-9号
紫外線硬化型FRPシート (3)		0.15m2以上/枚	m2	4.77	115,700	551,889			単-10号
構造物撤去工			式	1		592,200			
構造物取壊し工			式	1		592,200			
既設舗装剥ぎ取り		舗装版厚 60mm以下	m2	100	5,922	592,200			単-11号
応急処理工			式	1		3,020,250			
応急処理作業工			式	1		3,020,250			
応急作業 (1)			式	1		2,262,000			内-1号

設計内訳書

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋）（当 初）					事業区分	道路維持・修繕		
						工事区分	橋梁保全工事		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
応急作業 (2)【夜間】			式	1		758, 250			内-2号
仮設工			式	1		1, 073, 000			
交通管理工			式	1		1, 073, 000			
交通誘導警備員		誘導員B							単-12号
			人日	58	18, 500	1, 073, 000			
直接工事費			式	1		11, 054, 168			
共通仮設費			式	1		3, 536, 000			
共通仮設費			式	1		135, 000			
現場環境改善費（率計上）			式	1		135, 000			
共通仮設費（率計上）			式	1		3, 401, 000			
純工事費			式	1		14, 590, 168			
現場管理費			式	1		9, 982, 000			
工事原価			式	1		24, 572, 168			

一式当たり内訳書

[自) 茨城県土浦市佐野子地先 至) 茨城県土浦市虫掛]

道路施設基本データ作成費用
第 1号内訳書

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
道路施設基本データ作成費用		式	1		64, 225			
合 計					64, 225			

一式当たり内訳書

[自) 茨城県桜川市鉾田 至) 茨城県桜川市岩瀬]

第 1号内訳書 応急作業 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	5	40, 800	204, 000			
橋りょう特殊工		人	5	36, 400	182, 000			
橋りょう塗装工		人	40	36, 300	1, 452, 000			
土木一般世話役		人	5	32, 200	161, 000			
特殊作業員		人	5	27, 200	136, 000			
普通作業員		人	5	25, 400	127, 000			
合 計					2, 262, 000			

一式当たり内訳書

[自) 茨城県桜川市鉾田 至) 茨城県桜川市岩瀬]

第 2号内訳書 応急作業 (1)-1【夜間】

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-50

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	2	61, 200	122, 400			
橋りょう特殊工		人	2	54, 600	109, 200			
橋りょう塗装工		人	5	54, 450	272, 250			
土木一般世話役		人	2	48, 300	96, 600			
特殊作業員		人	2	40, 800	81, 600			
普通作業員		人	2	38, 100	76, 200			
合 計					758, 250			

一式当たり内訳書

[自) 茨城県桜川市鉾田 至) 茨城県桜川市岩瀬]

第 3号内訳書 応急作業 (2)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	5	40, 800	204, 000			
橋りょう特殊工		人	5	36, 400	182, 000			
橋りょう塗装工		人	40	36, 300	1, 452, 000			
土木一般世話役		人	5	32, 200	161, 000			
特殊作業員		人	5	27, 200	136, 000			
普通作業員		人	5	25, 400	127, 000			
合 計					2, 262, 000			

一式当たり内訳書

[自) 茨城県桜川市鉾田 至) 茨城県桜川市岩瀬]

第 4号内訳書 応急作業
(2)-1【夜間】

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-50

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	2	61, 200	122, 400			
橋りょう特殊工		人	2	54, 600	109, 200			
橋りょう塗装工		人	5	54, 450	272, 250			
土木一般世話役		人	2	48, 300	96, 600			
特殊作業員		人	2	40, 800	81, 600			
普通作業員		人	2	38, 100	76, 200			
合 計					758, 250			

一式当たり内訳書

[茨城県桜川市東桜川地先

]

第 1号内訳書 応急作業 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	5	40, 800	204, 000			
橋りょう特殊工		人	5	36, 400	182, 000			
橋りょう塗装工		人	40	36, 300	1, 452, 000			
土木一般世話役		人	5	32, 200	161, 000			
特殊作業員		人	5	27, 200	136, 000			
普通作業員		人	5	25, 400	127, 000			
合 計					2, 262, 000			

一式当たり内訳書

[茨城県桜川市東桜川地先

]

第 2号内訳書 応急作業
(2) 【夜間】

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-50

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【労務】								
橋りょう世話役		人	2	61, 200	122, 400			
橋りょう特殊工		人	2	54, 600	109, 200			
橋りょう塗装工		人	5	54, 450	272, 250			
土木一般世話役		人	2	48, 300	96, 600			
特殊作業員		人	2	40, 800	81, 600			
普通作業員		人	2	38, 100	76, 200			
合 計					758, 250			

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一1号	伸縮装置非排水化	TYPE-150	単位	m	数量	1	単価	307, 900
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
乾式止水材		TYPE-150	m	1	38, 800	38, 800		
【労務】								
既設排水樋撤去工			m	1	76, 930	76, 930		
下地処理工			m	1	26, 560	26, 560		
支持金具設置工			m	1	56, 880	56, 880		
乾式止水材設置工			m	1	55, 850	55, 850		
止水ゴム設置工			m	1	26, 560	26, 560		
仕上げ工			m	1	26, 320	26, 320		
計						307, 900		
単価						307, 900	円／m	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一2号	亀裂補修 (1)	TYPE-A1	単位	箇所	数量	1	単価	60, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	7	1, 800	12, 600		
工場製作材料費 (k g)			k g	5	1, 710	8, 550		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 5	組	4	215. 7	862. 8		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 0	組	2	234. 7	469. 4		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 047	1, 810	85. 07		
弱溶剤形変性球状樹脂下塗り			k g	0. 078	1, 660	129. 48		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 027	1, 910	51. 57		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 023	5, 930	136. 39		
【労務】								
素地調整		2種ケレン	m 2	0. 328	20, 810	6, 825. 68		

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一2号	亀裂補修 (1)	TYPE-A1	単位	箇所	数量	1	単価 60, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
現場孔明			孔	5	1, 486	7, 430	
当て板取付			箇所	1	13, 430	13, 430	
ボルト締付			本	6	1, 042	6, 252	
継手部下塗り（新橋現場・新橋継手部現場塗装）		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m 2	0. 109	1, 114	121. 42	
継手部下塗り（新橋現場・新橋継手部現場塗装）		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m 2	0. 109	5, 002	545. 21	
中塗り・上塗り（新橋現場・新橋継手部現場塗装）		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m 2	0. 109	1, 278	139. 3	
中塗り・上塗り（新橋現場・新橋継手部現場塗装）		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m 2	0. 109	1, 927	210. 04	
現場塗装		RC-II	m 2	0. 197	13, 500	2, 659. 5	
計						60, 497. 86	
単価						60, 500	円／箇所

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一3号	亀裂補修 (2)	TYPE-A2	単位	箇所	数量	1	単価	57, 390
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	6	1, 800	10, 800		
工場製作材料費 (k g)			k g	4	1, 710	6, 840		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 5	組	4	215. 7	862. 8		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 0	組	2	234. 7	469. 4		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 043	1, 810	77. 83		
弱溶剤形変性球* 樹脂下塗			k g	0. 072	1, 660	119. 52		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 025	1, 910	47. 75		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 021	5, 930	124. 53		
【労務】								
素地調整		2種ケレン	m 2	0. 295	20, 810	6, 138. 95		

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一3号	亀裂補修 (2)	TYPE-A2	単位	箇所	数量	1	単価 57, 390
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
現場孔明			孔	6	1, 486	8, 916	
当て板取付			箇所	1	13, 430	13, 430	
ボルト締付			本	6	1, 042	6, 252	
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m 2	0. 091	1, 114	101. 37	
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m 2	0. 091	5, 002	455. 18	
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m 2	0. 091	1, 278	116. 29	
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m 2	0. 091	1, 927	175. 35	
現場塗装		RC-II	m 2	0. 182	13, 500	2, 457	
計						57, 383. 97	
単価						57, 390	円/箇所

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一4号	亀裂補修 (3)	TYPE-A3	単位	箇所	数量	1	単価	85, 530
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	13	1, 800	23, 400		
工場製作材料費 (k g)			k g	10	1, 710	17, 100		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 0	組	4	234. 7	938. 8		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 5	組	4	241. 2	964. 8		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 047	1, 810	85. 07		
弱溶剤形変性球状樹脂下塗り			k g	0. 078	1, 660	129. 48		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 027	1, 910	51. 57		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 023	5, 930	136. 39		
【労務】								
素地調整		2種ケレン	m 2	0. 386	20, 810	8, 032. 66		

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単-4号	亀裂補修 (3)	TYPE-A3	単位	箇所	数量	1	単価	85, 530
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
現場孔明			孔	6	1, 486	8, 916		
当て板取付			箇所	1	13, 430	13, 430		
ボルト締付			本	8	1, 042	8, 336		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m ²	0. 146	1, 114	162. 64		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m ²	0. 146	5, 002	730. 29		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m ²	0. 146	1, 278	186. 58		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m ²	0. 146	1, 927	281. 34		
現場塗装		RC-II	m ²	0. 196	13, 500	2, 646		
計						85, 527. 62		
単価						85, 530	円/箇所	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一5号	亀裂補修 (4)	TYPE-A4	単位	箇所	数量	1	単価 74, 960
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】							
工場製作材料費 (k g)			k g	12	1, 800	21, 600	
工場製作材料費 (k g)			k g	4	1, 710	6, 840	
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 0	組	4	234. 7	938. 8	
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 5	組	4	241. 2	964. 8	
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 042	1, 810	76. 02	
弱溶剤形変性球状樹脂下塗			k g	0. 07	1, 660	116. 2	
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 024	1, 910	45. 84	
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 021	5, 930	124. 53	
【労務】							
素地調整		2種ケレン	m 2	0. 341	20, 810	7, 096. 21	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単-5号	亀裂補修 (4)	TYPE-A4	単位	箇所	数量	1	単価	74, 960
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
現場孔明			孔	8	1, 486	11, 888		
当て板取付			箇所	1	13, 430	13, 430		
ボルト締付			本	8	1, 042	8, 336		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m ²	0. 122	1, 114	135. 9		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m ²	0. 122	5, 002	610. 24		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m ²	0. 122	1, 278	155. 91		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m ²	0. 122	1, 927	235. 09		
現場塗装		RC-II	m ²	0. 175	13, 500	2, 362. 5		
計						74, 956. 04		
単価						74, 960	円/箇所	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一6号	亀裂補修 (5)	ソールプレート補修	単位	箇所	数量	3	単価	102, 000
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	67	1, 800	120, 600		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 5						
			組	12	215. 7	2, 588. 4		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 8 0						
			組	27	234. 7	6, 336. 9		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜						
			k g	0. 085	1, 810	153. 85		
弱溶剤形変性球状樹脂下塗り								
			k g	0. 143	1, 660	237. 38		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り								
			k g	0. 05	1, 910	95. 5		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り								
			k g	0. 042	5, 930	249. 06		
【労務】								
素地調整		2種ケレン						
			m 2	1. 165	20, 810	24, 243. 65		
現場孔明								
			孔	39	1, 486	57, 954		

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一6号	亀裂補修 (5)	ソールプレート補修	単位	箇所	数量	3	単価	102, 000
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
当て板取付			箇所	3	13, 430	40, 290		
ボルト締付			本	39	1, 042	40, 638		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m ²	0. 807	1, 114	898. 99		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m ²	0. 807	5, 002	4, 036. 61		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m ²	0. 807	1, 278	1, 031. 34		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m ²	0. 807	1, 927	1, 555. 08		
現場塗装		RC-II	m ²	0. 358	13, 500	4, 833		
計						305, 741. 76		
単価						102, 000	円/箇所	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一7号	当て板補修 (1)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価	73, 810
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	8	1, 800	14, 400		
工場製作材料費 (k g)			k g	3	1, 710	5, 130		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 5	組	6	215. 7	1, 294. 2		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 7 0	組	1	222. 2	222. 2		
六角ボルト		M24×80	本	1	95. 4	95. 4		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 006	1, 810	10. 86		
弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗			k g	0. 01	1, 660	16. 6		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 003	1, 910	5. 73		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 003	5, 930	17. 79		
【労務】								

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一7号	当て板補修 (1)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価 73, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
	芯出し調整工		m 2	0. 108	37, 840	4, 086. 72	
	補修塗装工 (素地調整)		m 2	0. 058	25, 910	1, 502. 78	
	鋼桁孔明工	400N鋼	本	7	2, 299	16, 093	
	補強部材取付工	W≦20	部材	1	15, 070	15, 070	
	高力ボルト本締め工	トルシア形高力ボルト	本	7	2, 029	14, 203	
	継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m 2	0. 139	1, 114	154. 84	
	継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m 2	0. 139	5, 002	695. 27	
	中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)	新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m 2	0. 139	1, 278	177. 64	
	中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)	新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m 2	0. 139	1, 927	267. 85	
	現場塗装	RC-II	m 2	0. 027	13, 500	364. 5	
	計					73, 808. 38	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一8号	当て板補修 (2)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価	45, 270
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	5	1, 800	9, 000		
工場製作材料費 (k g)			k g	2	1, 710	3, 420		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 0	組	1	209	209		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 7 5	組	2	228. 5	457		
六角ボルト		M24×75	本	1	82. 9	82. 9		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 003	1, 810	5. 43		
弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗			k g	0. 006	1, 660	9. 96		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 002	1, 910	3. 82		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 001	5, 930	5. 93		
【労務】								

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一8号	当て板補修 (2)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価 45, 270
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
芯出し調整工			m 2	0. 063	37, 840	2, 383. 92	
補修塗装工 (素地調整)			m 2	0. 028	25, 910	725. 48	
鋼桁孔明工		400N鋼	本	3	2, 299	6, 897	
補強部材取付工		W≦20	部材	1	15, 070	15, 070	
高力ボルト本締め工		トルシア形高力ボルト	本	3	2, 029	6, 087	
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m 2	0. 076	1, 114	84. 66	
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m 2	0. 076	5, 002	380. 15	
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m 2	0. 076	1, 278	97. 12	
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m 2	0. 076	1, 927	146. 45	
現場塗装		RC-II	m 2	0. 015	13, 500	202. 5	
計						45, 268. 32	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一8号	当て板補修 (2)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価	45, 270
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
単価						45, 270	円／箇所	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一9号	当て板補修 (3)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価	67, 860
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
工場製作材料費 (k g)			k g	5	1, 800	9, 000		
工場製作材料費 (k g)			k g	3	1, 710	5, 130		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 0	組	1	209	209		
摩擦接合用高力ボルト (トルシア)		S 1 0 T M 2 2 × 6 5	組	6	215. 7	1, 294. 2		
六角ボルト		M24×75	本	1	82. 9	82. 9		
ジンクリッチ ペイント		有機厚膜	k g	0. 006	1, 810	10. 86		
弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗			k g	0. 011	1, 660	18. 26		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	0. 003	1, 910	5. 73		
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	0. 003	5, 930	17. 79		
【労務】								

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一9号	当て板補修 (3)	SM400A SS400	単位	箇所	数量	1	単価	67, 860
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
芯出し調整工			m 2	0. 099	37, 840	3, 746. 16		
補修塗装工 (素地調整)			m 2	0. 055	25, 910	1, 425. 05		
鋼桁孔明工		400N鋼	本	7	2, 299	16, 093		
補強部材取付工		W≦20	部材	1	15, 070	15, 070		
高力ボルト本締め工		トルシア形高力ボルト	本	7	2, 029	14, 203		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し 無し	m 2	0. 126	1, 114	140. 36		
継手部下塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し 無し	m 2	0. 126	5, 002	630. 25		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	m 2	0. 126	1, 278	161. 02		
中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継手部現場塗装)		新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	m 2	0. 126	1, 927	242. 8		
現場塗装		RC-II	m 2	0. 028	13, 500	378		
計						67, 858. 38		

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一10号	沓座モルタル補修 (1)	無収縮モルタル	単位	箇所	数量	1	単価	3, 124
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【撤去】								
構造物とりこわし		無筋構造物 人力施工 無し 無し	m 3	0. 004	35, 880	143. 52		
【復旧】								
コンクリート (沓座拡幅工)		各種 全ての費用	m 3	0. 006	374, 900	2, 249. 4		
型枠		一般型枠 鉄筋・無筋構造物	m 2	0. 07	10, 440	730. 8		
計						3, 123. 72		
単価						3, 124	円／箇所	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一11号	沓座モルタル補修 (2)	無収縮モルタル	単位	箇所	数量	1	単価	12, 390
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【撤去】								
構造物とりこわし		無筋構造物 人力施工 無し 無し	m 3	0. 019	35, 880	681. 72		
【復旧】								
コンクリート (沓座拡幅工)		各種 全ての費用	m 3	0. 026	374, 900	9, 747. 4		
型枠		一般型枠 鉄筋・無筋構造物	m 2	0. 187	10, 440	1, 952. 28		
計						12, 381. 4		
単価						12, 390	円／箇所	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一12号	沓座モルタル補修 (3)	無収縮モルタル	単位	箇所	数量	1	単価	27, 690
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【撤去】								
構造物とりこわし		無筋構造物 人力施工 無し 無し	m 3	0. 018	35, 880	645. 84		
【復旧】								
コンクリート (沓座拡幅工)		各種 全ての費用	m 3	0. 024	374, 900	8, 997. 6		
型枠		一般型枠 鉄筋・無筋構造物	m 2	1. 728	10, 440	18, 040. 32		
計						27, 683. 76		
単価						27, 690	円／箇所	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一13号	低圧注入工法	25m以下 ｺﾎﾟﾔｼ	単位	構造物	数量	1	単価	197, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
ひび割れ補修工（低圧注入工法）		25m以下 1. 696kg 1. 813kg 39個	構造物	1	197, 500	197, 500		
計						197, 500		
単価						197, 500	円／構造物	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一14号	左官工法 (1)	0. 1m3以下 ｺﾚ ﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 無	単位	構造物	数量	1	単価	312, 600
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工（左官工法）		無し 0. 1m3以下 0. 087m3	構造物	1	312, 600	312, 600		
計						312, 600		
単価						312, 600	円／構造物	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一15号	左官工法 (2)	0. 1m3以下 ホ リマセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有	単位	構造物	数量	1	単価	332, 100
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工 (左官工法)		有り 0. 1m3以下 0. 005m3	構造物	1	332, 100	332, 100		
計						332, 100		
単価						332, 100	円／構造物	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一16号	コンクリート殻積込・運搬(断面修復工)	コンクリート殻(無筋)	単位	m3	数量	1	単価	6, 607
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
コンクリート殻積込・運搬 (断面修復工)		有り 8. 5 k m以下 良好	m 3	1	6, 607	6, 607		
計						6, 607		
単価						6, 607	円／m3	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一17号	殻処分	コンクリート殻(無筋)	単位	m3	数量	1	単価	3, 525
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 (m 3)			m 3	1	3, 525	3, 525		
計						3, 525		
単価						3, 525	円／m3	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一18号	紫外線硬化型FRPシート (1)	0. 01m2以上0. 07m2未満/枚	単位	m2	数量	1	単価	338, 200
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 01m2/枚以上0. 07m2/枚未満 無	m 2	1	338, 200	338, 200		
計						338, 200		
単価						338, 200	円／m2	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一19号	紫外線硬化型FRPシート (2)	0. 07m2以上0. 15m2未満/枚	単位	m2	数量	1	単価	199, 600
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 07m2/枚以上0. 15m2/枚未満 無	m 2	1	199, 600	199, 600		
計						199, 600		
単価						199, 600	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一20号	紫外線硬化型FRPシート (3)	0. 15m2以上/枚	単位	m2	数量	1	単価	115, 700
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 15m2/枚以上 無	m 2	1	115, 700	115, 700		
計						115, 700		
単価						115, 700	円／m2	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
単一21号	部分塗装	RC-II 素地調整 中塗り 上塗り	単位	m2	数量	100	単価 54, 870
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】							
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り			k g	17	1, 910	32, 470	
弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り			k g	14	5, 930	83, 020	
【労務】							
素地調整		2種ケレン	m 2	100	20, 810	2, 081, 000	
現場塗装		RC-II 防食下地 下塗り 中塗り 上塗り	m 2	100	32, 900	3, 290, 000	
計						5, 486, 490	
単価						54, 870	円／m2

1 次単価表

1 次単価表						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数		2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一22号	足場	吊足場 両側朝顔 シート防護	単位	m2	数量	1, 975	単価	15, 110	
名 称		規 格	単位	数量	単価	金 額	摘 要		
【A1～P1】									
パイプ吊足場工		1. 5m以上 263円 8. 19円 2月 橋梁点検車	m 2	608. 5	15, 220	9, 261, 370			
【P1～P2】									
パイプ吊足場工		1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 8月 橋梁点検車	m 2	543. 8	15, 120	8, 222, 256			
【P2～P3】									
パイプ吊足場工		1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 7月 橋梁点検車	m 2	524. 1	15, 070	7, 898, 187			
【P3～P4】									
パイプ吊足場工		1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 3月 橋梁点検車	m 2	299	14, 880	4, 449, 120			
計						29, 830, 933			
単 価						15, 110	円／m2		

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一23号	登り栈橋		単位	箇所	数量	1	単価	266, 200
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
登り栈橋工 (箇所)		設置・撤去・損料 1.9月 6.6m	箇所	1	266, 200	266, 200		
計						266, 200		
単価						266, 200	円／箇所	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一24号	交通誘導警備員 (1)	誘導員A	単位	人日	数量	1	単価	19, 300
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員A			人日	1	19, 300	19, 300		
計						19, 300		
単価						19, 300	円／人日	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一25号	交通誘導警備員 (2)	誘導員B	単位	人日	数量	1	単価	18, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員 B			人日	1	18, 500	18, 500		
計						18, 500		
単価						18, 500	円／人日	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	既設排水樋撤去工		単位	m	数量	10	単価	76, 930
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	4	40, 800	163, 200		
	橋りょう特殊工		人	8	36, 400	291, 200		
	普通作業員		人	8	25, 400	203, 200		
	諸雑費 (率+まるめ) 17%		式	1		111, 700		
	計					769, 300		
	単価					76, 930	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	下地処理工		単位	m	数量	10	単価	26, 560
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	1	40, 800	40, 800		
	橋りょう特殊工		人	4	36, 400	145, 600		
	普通作業員		人	2	25, 400	50, 800		
	諸雑費 (率+まるめ) 12%		式	1		28, 400		
	計					265, 600		
	単価					26, 560	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	支持金具設置工		単位	m	数量	10	単価	56, 880
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	3	40, 800	122, 400		
	橋りょう特殊工		人	2	36, 400	72, 800		
	普通作業員		人	6	25, 400	152, 400		
	溶接工		人	4	35, 700	142, 800		
	諸雑費 (率+まるめ) 16%		式	1		78, 400		
	計					568, 800		
	単価					56, 880	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	乾式止水材設置工		単位	m	数量	10	単価	55, 850
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	2	40, 800	81, 600		
	橋りょう特殊工		人	6	36, 400	218, 400		
	普通作業員		人	8	25, 400	203, 200		
	諸雑費 (率+まるめ) 11%		式	1		55, 300		
	計					558, 500		
	単価					55, 850	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	止水ゴム設置工		単位	m	数量	10	単価	26, 560
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	1	40, 800	40, 800		
	橋りょう特殊工		人	4	36, 400	145, 600		
	普通作業員		人	2	25, 400	50, 800		
	諸雑費 (率+まるめ) 12%		式	1		28, 400		
	計					265, 600		
	単価					26, 560	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	仕上げ工		単位	m	数量	10	単価	26, 320
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	1	40, 800	40, 800		
	橋りょう特殊工		人	4	36, 400	145, 600		
	普通作業員		人	2	25, 400	50, 800		
	諸雑費 (率+まるめ) 11%		式	1		26, 000		
	計					263, 200		
	単価					26, 320	円/m	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
	工場製作材料費 (k g)		単位	k g	数量	1	単価 1, 800
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
当て板		SM400A 工場塗装含む	k g	1	1, 800	1, 800	
計						1, 800	
単価						1, 800	円／k g

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
	工場製作材料費 (k g)		単位	k g	数量	1	単価 1, 710
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
当て板		SS400 工場塗装含む	k g	1	1, 710	1, 710	
計						1, 710	
単価						1, 710	円／k g

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	現場孔明		単位	孔	数量	100	単価	1, 486
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう世話役			人	0. 68	40, 800	27, 744		
橋りょう特殊工			人	2. 03	36, 400	73, 892		
普通作業員			人	0. 68	25, 400	17, 272		
諸雑費（率＋まるめ） 25%			式	1		29, 692		
計						148, 600		
単価						1, 486	円／孔	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	当て板取付		単位	箇所	数量	10	単価	13, 430
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要		
橋りょう世話役		人	0. 63	40, 800	25, 704			
橋りょう特殊工		人	1. 88	36, 400	68, 432			
普通作業員		人	0. 63	25, 400	16, 002			
諸雑費 (率+まるめ) 22%		式	1		24, 162			
計					134, 300			
単価					13, 430	円／箇所		

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ボルト締付		単位	本	数量	100	単価	1, 042
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	0. 51	40, 800	20, 808		
	橋りょう特殊工		人	1. 52	36, 400	55, 328		
	普通作業員		人	0. 51	25, 400	12, 954		
	諸雑費 (率+まるめ) 17%		式	1		15, 110		
	計					104, 200		
	単価					1, 042	円／本	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	継手部下塗り (新橋現場・新橋継手 部現場塗装)	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層) 無し	単位	m ²	数量	100	単価	1, 114
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋梁塗装工 新橋塗装 下塗り		昼間 ミストコート 変性エポキシ樹脂(1層) 制約無	m ²	100	1, 113. 12	111, 312		
諸雑費 (まるめ)			式	1		88		
計						111, 400		
単価						1, 114	円／m ²	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	継手部下塗り (新橋現場・新橋継手 部現場塗装)	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回塗り/層) 無し	単位	m ²	数量	100	単価	5, 002
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋梁塗装工 新橋塗装 下塗り		昼間 超厚膜形エポキシ(2回塗り/層) 制約無	m ²	100	5, 001. 12	500, 112		
諸雑費 (まるめ)			式	1		88		
計						500, 200		
単価						5, 002	円／m ²	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継 手部現場塗装)	新橋継手部現場塗装 中塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料用 淡彩	単位	m 2	数量	100	単価	1, 278
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋梁塗装工 新橋塗装 中塗り		昼間 ふっ素樹脂塗料用 淡彩 制約無	m 2	100	1, 277. 28	127, 728		
諸雑費 (まるめ)			式	1		72		
計						127, 800		
単価						1, 278	円／m 2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	中塗り・上塗り (新橋現場・新橋継 手部現場塗装)	新橋継手部現場塗装 上塗り 無し 無し ふっ素樹脂塗料 淡彩	単位	m 2	数量	100	単価	1, 927
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋梁塗装工 新橋塗装 上塗り		昼間 ふっ素樹脂 淡彩 制約無	m 2	100	1, 926. 72	192, 672		
諸雑費 (まるめ)			式	1		28		
計						192, 700		
単価						1, 927	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	現場孔明		単位	孔	数量	100	単価	1, 486
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう世話役			人	0. 68	40, 800	27, 744		
橋りょう特殊工			人	2. 03	36, 400	73, 892		
普通作業員			人	0. 68	25, 400	17, 272		
諸雑費（率＋まるめ） 25%			式	1		29, 692		
計						148, 600		
単価						1, 486	円／孔	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ポルト締付		単位	本	数量	100	単価	1, 042
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	0. 51	40, 800	20, 808		
	橋りょう特殊工		人	1. 52	36, 400	55, 328		
	普通作業員		人	0. 51	25, 400	12, 954		
	諸雑費 (率+まるめ) 17%		式	1		15, 110		
	計					104, 200		
	単価					1, 042	円／本	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	現場孔明		単位	孔	数量	100	単価	1, 486
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	0. 68	40, 800	27, 744		
	橋りょう特殊工		人	2. 03	36, 400	73, 892		
	普通作業員		人	0. 68	25, 400	17, 272		
	諸雑費 (率+まるめ) 25%		式	1		29, 692		
	計					148, 600		
	単価					1, 486	円／孔	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	現場孔明		単位	孔	数量	100	単価	1, 486
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう世話役			人	0. 68	40, 800	27, 744		
橋りょう特殊工			人	2. 03	36, 400	73, 892		
普通作業員			人	0. 68	25, 400	17, 272		
諸雑費（率＋まるめ） 25%			式	1		29, 692		
計						148, 600		
単価						1, 486	円／孔	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	当て板取付		単位	箇所	数量	10	単価	13, 430
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう世話役			人	0. 63	40, 800	25, 704		
橋りょう特殊工			人	1. 88	36, 400	68, 432		
普通作業員			人	0. 63	25, 400	16, 002		
諸雑費（率＋まるめ） 22%			式	1		24, 162		
計						134, 300		
単価						13, 430	円／箇所	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ポルト締付		単位	本	数量	100	単価	1, 042
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう世話役			人	0. 51	40, 800	20, 808		
橋りょう特殊工			人	1. 52	36, 400	55, 328		
普通作業員			人	0. 51	25, 400	12, 954		
諸雑費（率＋まるめ） 17%			式	1		15, 110		
計						104, 200		
単価						1, 042	円／本	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	芯出し調整工		単位	m 2	数量	10	単価	37, 840
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	1. 2	40, 800	48, 960		
	橋りょう特殊工		人	5. 4	36, 400	196, 560		
	普通作業員		人	4. 8	25, 400	121, 920		
	諸雑費 (率+まるめ) 3%		式	1		10, 960		
	計					378, 400		
	単価					37, 840	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	補修塗装工（素地調整）		単位	m 2	数量		単価	
						10		25, 910
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう塗装工		人	6. 8	36, 300	246, 840		
	諸雑費（率＋まるめ） 5%		式	1		12, 260		
	計					259, 100		
	単価					25, 910	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	鋼桁孔明工	400N鋼	単位	本	数量	100	単価	2, 299
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	1. 1	40, 800	44, 880		
	橋りょう特殊工		人	3. 4	36, 400	123, 760		
	普通作業員		人	1. 1	25, 400	27, 940		
	諸雑費 (率+まるめ) 17%		式	1		33, 320		
	計					229, 900		
	単価					2, 299	円／本	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	補強部材取付工	W≤20	単位	部材	数量	10	単価	15, 070
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう世話役		人	0. 9	40, 800	36, 720		
	橋りょう特殊工		人	2. 5	36, 400	91, 000		
	普通作業員		人	0. 9	25, 400	22, 860		
	補強部材	※別途計上	部材	10	0	0		
	諸雑費 (率＋まるめ) 0. 1%		式	1		120		
	計					150, 700		
	単価					15, 070	円／部材	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
	高力ボルト本締め工	トルシア形高力ボルト	単位	本	数量	100	単価 2, 029
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
	橋りょう世話役		人	1. 2	40, 800	48, 960	
	橋りょう特殊工		人	3. 3	36, 400	120, 120	
	普通作業員		人	1. 1	25, 400	27, 940	
	高力ボルト	※別途計上	組	100	0	0	
	諸雑費 (率+まるめ) 3%		式	1		5, 880	
	計					202, 900	
	単価					2, 029	円/本

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	構造物とりこわし	無筋構造物 人力施工 無し 無し	単位	m 3	数量	1	単価	35, 880
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
無筋構造物		昼間 人力施工 制約無	m 3	1	35, 880	35, 880		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						35, 880		
単価						35, 880	円／m 3	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
	ひび割れ補修工 (低圧注入工法)	25m以下 1. 696kg 1. 813kg 39個	単位	構造物	数量	1	単価 197, 500
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役		人	1. 5	32, 200	48, 300		
特殊作業員		人	2. 4	27, 200	65, 280		
普通作業員		人	1. 8	25, 400	45, 720		
注入材	エポキシ	k g	1. 696	3, 400	5, 766		
シーリング材	エポキシ	k g	2. 484	2, 630	6, 532		
低圧注入器具		個	39	420	16, 380		
諸雑費 (率+まるめ) 6%		式	1		9, 522		
計					197, 500		
単価					197, 500	円／構造物	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	断面修復工 (左官工法)	無し 0. 1m3以下 0. 087m3	単位	構造物	数量	1	単価	312, 600
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	2. 4	32, 200	77, 280		
	特殊作業員		人	4. 5	27, 200	122, 400		
	普通作業員		人	2. 3	25, 400	58, 420		
	ホﾟ リマセメントモルタル		m 3	0. 103	379, 000	39, 037		
	諸雑費 (率+まるめ) 6%		式	1		15, 463		
	計					312, 600		
	単価					312, 600	円／構造物	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	断面修復工 (左官工法)	有り 0. 1m3以下 0. 005m3	単位	構造物	数量	1	単価	332, 100
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	2. 8	32, 200	90, 160		
特殊作業員			人	5. 3	27, 200	144, 160		
普通作業員			人	2. 8	25, 400	71, 120		
ホ リマセメントモルタル			m 3	0. 006	379, 000	2, 274		
諸雑費 (率+まるめ) 8%			式	1		24, 386		
計						332, 100		
単価						332, 100	円／構造物	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	コンクリート殻積込・運搬（断面修復工）	有り 8.5 k m以下 良好	単位	m 3	数量	10	単価	6, 607
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	普通作業員		人	1. 3	25, 400	33, 020		
	ダンプトラック運転	良好	日	0. 94	35, 150	33, 041		
	諸雑費（まるめ）		式	1		9		
	計					66, 070		
	単価					6, 607	円／m 3	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	処分費 (m 3)		単位	m 3	数量	100	単価	3, 525
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 (Co設 (無筋))		日東エンジニアリング (株) NESTP	m 3	100	3, 525	352, 500		
計						352, 500		
単価						3, 525	円 / m 3	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0. 01m2/枚以上0. 07m2/枚未満 無	単位	m 2	数量	1	単価	338, 200
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置 (照射有) 昼間		時間制約無 区分A 固定足場	m 2	1	338, 200	338, 200		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						338, 200		
単価						338, 200	円 / m 2	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0. 07m2/枚以上0. 15m2/枚未満 無	単位	m 2	数量	1	単価	199, 600
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置(照射有) 昼間		時間制約無 区分B 固定足場	m 2	1	199, 600	199, 600		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						199, 600		
単価						199, 600	円/m 2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0. 15m2/枚以上 無	単位	m 2	数量	1	単価	115, 700
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置(照射有) 昼間		時間制約無 区分C 固定足場	m 2	1	115, 700	115, 700		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						115, 700		
単価						115, 700	円/m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	素地調整	2種ケレン	単位	m 2	数量	10	単価	20, 810
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋りょう塗装工			人	5. 26	36, 300	190, 938		
諸雑費（率＋まるめ） 9%			式	1		17, 162		
計						208, 100		
単価						20, 810	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	パイプ吊足場工	1. 5m以上 263円 8. 19円 2月 橋梁点検車	単位	m 2	数量	1	単価	15, 220
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう特殊工		人	0. 271	36, 400	9, 864		
	足場材質料		月	2	1, 477. 56	2, 955		
	トラック運転	パイプ吊足場	日	0. 032	43, 010	1, 376		
	橋梁点検車運転		日	0. 012	85, 250	1, 023		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		2		
	計					15, 220		
	単価					15, 220	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	パイプ吊足場工	1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 8月 橋梁点検車	単位	m 2	数量	1	単価	15, 120
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう特殊工		人	0. 271	36, 400	9, 864		
	足場材質料		月	1. 8	1, 587	2, 856		
	トラック運転	パイプ吊足場	日	0. 032	43, 010	1, 376		
	橋梁点検車運転		日	0. 012	85, 250	1, 023		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		1		
	計					15, 120		
	単価					15, 120	円/m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	パイプ吊足場工	1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 7月 橋梁点検車	単位	m 2	数量		単価	15, 070
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう特殊工		人	0. 271	36, 400	9, 864		
	足場材質料		月	1. 7	1, 651. 37	2, 807		
	トラック運転	パイプ吊足場	日	0. 032	43, 010	1, 376		
	橋梁点検車運転		日	0. 012	85, 250	1, 023		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		0		
	計					15, 070		
	単価					15, 070	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	パイプ吊足場工	1. 5m以上 263円 8. 19円 1. 3月 橋梁点検車	単位	m 2	数量	1	単価	14, 880
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう特殊工		人	0. 271	36, 400	9, 864		
	足場材質料		月	1. 3	2, 007. 91	2, 610		
	トラック運転	パイプ吊足場	日	0. 032	43, 010	1, 376		
	橋梁点検車運転		日	0. 012	85, 250	1, 023		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		7		
	計					14, 880		
	単価					14, 880	円/m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	登り栈橋工 (箇所)	設置・撤去・損料 1.9月 6.6m	単位	箇所	数量	1	単価	266, 200
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	橋りょう特殊工		人	5. 379	36, 400	195, 795		
	登り栈橋損料		月	1. 9	37, 023. 56	70, 344		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		61		
	計					266, 200		
	単価					266, 200	円／箇所	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	交通誘導警備員A		単位	人日	数量	1	単価	19, 300
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員A			人	1	19, 300	19, 300		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						19, 300		
単価						19, 300	円／人日	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	交通誘導警備員B		単位	人日	数量	1	単価	18, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員B			人	1	18, 500	18, 500		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						18, 500		
単価						18, 500	円／人日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	道路施設基本データ作成費用		単位	式	数量	1	単価	64, 225
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
技術員			人	1. 75	36, 700	64, 225		
計						64, 225		
単価						64, 225	円／式	

参考資料 (2)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ダンプトラック運転	良好	単位	日	数量	1	単価	35, 150
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
運転手 (一般)			人	0. 89	24, 800	22, 072		
軽油			L	19. 2	148	2, 841		
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	通称 4 t 積級		供用日	1. 02	9, 760	9, 955		
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	タイヤ (供用日当り)		供用日	1. 02	268	273		
諸雑費 (まるめ)			式	1		9		
計						35, 150		
単価						35, 150	円／日	

参考資料 (2)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	トラック運転	パイプ吊足場	単位	日	数量	1	単価	43, 010
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
運転手 (特殊)			人	1	30, 300	30, 300		
軽油			L	23	148	3, 404		
トラック [クレーン装置付]			日	1. 32	7, 050	9, 306		
諸雑費 (まるめ)			式	1		0		
計						43, 010		
単価						43, 010	円／日	

参考資料 (2)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	橋梁点検車運転		単位	日	数量	1	単価	85, 250
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
運転手 (一般)			人	1	24, 800	24, 800		
軽油			L	19	148	2, 812		
橋梁点検車		作業高約 6 m 積載質量 2 0 0 k g	日	1. 13	51, 000	57, 630		
諸雑費 (まるめ)			式	1		8		
計						85, 250		
単価						85, 250	円／日	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一1号	橋面防水 (1)	塗膜防水	単位	m2	数量	1	単価	2, 920
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
塗膜系防水		補修 無 無 無	m 2	1	2, 920	2, 920		
計						2, 920		
単価						2, 920	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一2号	橋面防水 (2)	塗膜防水	単位	m2	数量	1	単価	3, 343
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
塗膜系防水		補修 無 有 78.88m/100m2 無	m 2	1	3, 343	3, 343		
計						3, 343		
単価						3, 343	円／m2	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一3号	薄層カラー舗装 (1)	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	単位	m2	数量	1	単価	9, 750
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
樹脂モルタル舗装工・景観透水性舗装工		樹脂モルタル舗装工 厚8mm超え10mm以下 無 50m2以上(標準) 無 無	m 2	1	9, 750	9, 750		
計						9, 750		
単価						9, 750	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一4号	薄層カラー舗装 (2)	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	単位	m2	数量	1	単価	9, 750
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
樹脂モルタル舗装工・景観透水性舗装工		樹脂モルタル舗装工 厚8mm超え10mm以下 無 50m2以上(標準) 無 無	m 2	1	9, 750	9, 750		
計						9, 750		
単価						9, 750	円／m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単-5号	セメントモルタル敷設	普通 1:3	単位	m2	数量	1	単価	3, 696
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
モルタル練		普通 全ての費用	m 3	0. 035	105, 600	3, 696		
計						3, 696		
単価						3, 696	円／m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一6号	シール材設置 (通路部)	シーリング系	単位	m	数量	1	単価	3, 556
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
シール材		シリコン系 プライマー含む	L	0. 24	6, 000	1, 440		
【労務】								
シーリング材設置		通路部 シーリング材	m	1	2, 116	2, 116		
計						3, 556		
単価						3, 556	円／m	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一7号	シール材設置 (階段部)	シーリング系	単位	m	数量	1	単価	3, 674
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
シール材		シリコン系 プライマー含む	L	0. 24	6, 000	1, 440		
【労務】								
シーリング材設置		階段部 シーリング材	m	1	2, 234	2, 234		
計						3, 674		
単価						3, 674	円／m	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一8号	既設舗装剥ぎ取り (1)	舗装版厚 60mm以下	単位	m2	数量	1	単価	5, 922
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
既設舗装はぎ取り工			m 2	1	5, 922	5, 922		
計						5, 922		
単価						5, 922	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一9号	既設舗装剥ぎ取り (2)	舗装版厚 60mm以下	単位	m2	数量	1	単価	5, 922
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
既設舗装はぎ取り工			m 2	1	5, 922	5, 922		
計						5, 922		
単価						5, 922	円／m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一10号	交通誘導警備員	誘導員B	単位	人日	数量	1	単価	18, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員 B			人日	1	18, 500	18, 500		
計						18, 500		
単価						18, 500	円／人日	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	塗膜系防水	補修 無 無 無	単位	m 2	数量	100	単価	2, 920
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋面防水工	塗膜系防水（アスファルト系）	補修	m 2	100	2, 920	292, 000		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						292, 000		
単価						2, 920	円／m 2	

参考資料 (1)

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0
	塗膜系防水	補修 無 有 78.88m/100m2 無	単位	m 2	数量	100	単価 3, 343
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要
橋面防水工	塗膜系防水 (アスファルト系)	補修	m 2	100	2, 920	292, 000	
目地材		35×5 セロシールSS同等品	m	82. 824	510	42, 240	
諸雑費 (まるめ)			式	1		60	
計						334, 300	
単価						3, 343	円／m 2

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	樹脂モルタル舗装工・景観透水性舗装工	樹脂モルタル舗装工 厚8mm超え10mm以下 無 50m2以上(標準) 無 無	単位	m 2	数量	1	単価	9, 750
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	樹脂モルタル舗装工	厚8mm超え10mm以下	m 2	1	9, 750	9, 750		
	諸雑費 (まるめ)		式	1		0		
	計					9, 750		
	単価					9, 750	円／m 2	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	シーリング材設置	通路部 シーリング材	単位	m	数量	10	単価	2, 116
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0. 18	32, 200	5, 796		
	特殊作業員		人	0. 36	27, 200	9, 792		
	普通作業員		人	0. 18	25, 400	4, 572		
	諸雑費 (率+まるめ) 5%		式	1		1, 000		
	計					21, 160		
	単価					2, 116	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	シーリング材設置	階段部 シーリング材	単位	m	数量	10	単価	2, 234
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	0. 19	32, 200	6, 118		
	特殊作業員		人	0. 38	27, 200	10, 336		
	普通作業員		人	0. 19	25, 400	4, 826		
	諸雑費 (率+まるめ) 5%		式	1		1, 060		
	計					22, 340		
	単価					2, 234	円/m	

参考資料 (1)

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	既設舗装はぎ取り工		単位	m 2	数量	1	単価	5, 922
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	0. 04	32, 200	1, 288		
特殊作業員			人	0. 08	27, 200	2, 176		
普通作業員			人	0. 09	25, 400	2, 286		
諸雑費 (率+まるめ) 3%			式	1		172		
計						5, 922		
単価						5, 922	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	交通誘導警備員B		単位	人日	数量	1	単価	18, 500
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	交通誘導警備員B		人	1	18, 500	18, 500		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					18, 500		
	単価					18, 500	円／人日	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一1号	橋面防水	塗膜防水	単位	m2	数量	1	単価	2, 920
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
塗膜系防水		補修 無 無 無	m 2	1	2, 920	2, 920		
計						2, 920		
単価						2, 920	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一2号	薄層ｶｰ舗装	樹脂モﾙﾀﾙ舗装 舗装厚 10mm	単位	m2	数量	1	単価	9, 750
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
樹脂モﾙﾀﾙ舗装工・景観透水性舗装工		樹脂モﾙﾀﾙ舗装工 厚8mm超え10mm以下 無 50m2以上(標準) 無 無	m 2	1	9, 750	9, 750		
計						9, 750		
単価						9, 750	円／m2	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一3号	モルタル充填	無収縮モルタル	単位	箇所	数量	1	単価	273, 800
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
断面修復工（左官工法）		無し 0. 1m3以下 0. 001m3	構造物	1	273, 800	273, 800		
計						273, 800		
単価						273, 800	円／箇所	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一4号	殻運搬	コンクリート殻(無筋)	単位	m3	数量	1	単価	5, 236
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
コンクリート殻積込・運搬（断面修復工）		無し 6. 0 k m以下 良好	m 3	1	5, 236	5, 236		
計						5, 236		
単価						5, 236	円／m3	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単-5号	殻処分	コンクリート殻(無筋)	単位	m3	数量	1	単価	2, 350
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 (m 3)			m 3	1	2, 350	2, 350		
計						2, 350		
単価						2, 350	円／m3	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一6号	シール材設置 (1) (通路部)	シーリング 系	単位	m	数量	1	単価	3, 556
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
シール材		シリコン系 プライマー含む	L	0. 24	6, 000	1, 440		
【労務】								
シーリング 設置		通路部 シーリング 材	m	1	2, 116	2, 116		
計						3, 556		
単価						3, 556	円／m	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一7号	シール材設置 (2) (階段部)	シーリング 系	単位	m	数量	1	単価	3, 674
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
【材料】								
シール材		シリコン系 プライマー含む	L	0. 24	6, 000	1, 440		
【労務】								
シーリング 設置		階段部 シーリング 材	m	1	2, 234	2, 234		
計						3, 674		
単価						3, 674	円／m	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一8号	紫外線硬化型FRPシート (1)	0. 01m2以上0. 07m2未満/枚	単位	m2	数量	1	単価	338, 200
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 01m2/枚以上0. 07m2/枚未満 無	m 2	1	338, 200	338, 200		
計						338, 200		
単価						338, 200	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一9号	紫外線硬化型FRPシート (2)	0. 07m2以上0. 15m2未満/枚	単位	m2	数量	1	単価	199, 600
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 07m2/枚以上0. 15m2/枚未満 無	m 2	1	199, 600	199, 600		
計						199, 600		
単価						199, 600	円／m2	

1 次単価表

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一10号	紫外線硬化型FRPシート (3)	0. 15m2以上/枚	単位	m2	数量	1	単価	115, 700
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置		無し 無し 紫外線照射 有 0. 15m2/枚以上 無	m 2	1	115, 700	115, 700		
計						115, 700		
単価						115, 700	円／m2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
単一11号	既設舗装剥ぎ取り	舗装版厚 60mm以下	単位	m2	数量	1	単価	5, 922
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
既設舗装はぎ取り工			m 2	1	5, 922	5, 922		
計						5, 922		
単価						5, 922	円／m2	

1 次単価表

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

単一12号	交通誘導警備員	誘導員B	単位	人日	数量	1	単価	18, 500
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員 B			人日	1	18, 500	18, 500		
計						18, 500		
単価						18, 500	円／人日	

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	塗膜系防水	補修 無 無 無	単位	m 2	数量	100	単価	2, 920
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
橋面防水工	塗膜系防水（アスファルト系）	補修	m 2	100	2, 920	292, 000		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						292, 000		
単価						2, 920	円／m 2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	樹脂モルタル舗装工・景観透水性舗装工	樹脂モルタル舗装工 厚8mm超え10mm以下 無 50m2以上(標準) 無 無	単位	m 2	数量	1	単価	9, 750
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
樹脂モルタル舗装工		厚 8 mm超え 1 0 mm以下	m 2	1	9, 750	9, 750		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						9, 750		
単価						9, 750	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	断面修復工（左官工法）	無し 0. 1m3以下 0. 001m3	単位	構造物	数量	1	単価	273, 800
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	土木一般世話役		人	2. 4	32, 200	77, 280		
	特殊作業員		人	4. 5	27, 200	122, 400		
	普通作業員		人	2. 3	25, 400	58, 420		
	無収縮モルタル		m 3	0. 001	311, 250	311		
	諸雑費（率＋まるめ） 6%		式	1		15, 389		
	計					273, 800		
	単価					273, 800	円／構造物	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	コンクリート殻積込・運搬（断面修復工）	無し 6.0 k m以下 良好	単位	m 3	数量	10	単価	5, 236
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
普通作業員			人	1. 3	25, 400	33, 020		
ダンプトラック運転		良好	日	0. 55	35, 150	19, 332		
諸雑費（まるめ）			式	1		8		
計						52, 360		
単価						5, 236	円／m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	処分費（m 3）		単位	m 3	数量	100	単価	2, 350
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	処分費 (Co殻 (無筋))	(株)アタチ商会	m 3	100	2, 350	235, 000		
	計					235, 000		
	単価					2, 350	円／m 3	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ｼｰﾘﾝｸﾞ 設置	通路部 ｼｰﾘﾝｸﾞ 材	単位	m	数量	10	単価	2, 116
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	0. 18	32, 200	5, 796		
特殊作業員			人	0. 36	27, 200	9, 792		
普通作業員			人	0. 18	25, 400	4, 572		
諸雑費（率＋まるめ） 5%			式	1		1, 000		
計						21, 160		
単価						2, 116	円／m	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	シーリング 設置	階段部 シーリング 材	単位	m	数量	10	単価	2, 234
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	0. 19	32, 200	6, 118		
特殊作業員			人	0. 38	27, 200	10, 336		
普通作業員			人	0. 19	25, 400	4, 826		
諸雑費（率＋まるめ） 5%			式	1		1, 060		
計						22, 340		
単価						2, 234	円／m	

参考資料（１）

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0.01m2/枚以上0.07m2/枚未満 無	単位	m 2	数量	1	単価	338, 200
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置(照射有) 昼間		時間制約無 区分A 固定足場	m 2	1	338, 200	338, 200		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						338, 200		
単価						338, 200	円／m 2	

						単価使用年月 歩掛使用年月 労務調整係数	2026. 07 2026. 07 1. 000-00-00-2-0	
	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0.07m2/枚以上0.15m2/枚未満 無	単位	m 2	数量	1	単価	199, 600
名称		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
紫外線硬化型FRPシート設置(照射有) 昼間		時間制約無 区分B 固定足場	m 2	1	199, 600	199, 600		
諸雑費（まるめ）			式	1		0		
計						199, 600		
単価						199, 600	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	紫外線硬化型FRPシート設置	無し 無し 紫外線照射 有 0. 15m2/枚以上 無し	単位	m 2	数量		単価	115, 700
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	紫外線硬化型FRPシート設置(照射有) 昼間	時間制約無し 区分C 固定足場						
			m 2	1	115, 700	115, 700		
	諸雑費（まるめ）							
			式	1		0		
	計					115, 700		
	単価					115, 700	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	既設舗装はぎ取り工		単位	m 2	数量	1	単価	5, 922
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役			人	0. 04	32, 200	1, 288		
特殊作業員			人	0. 08	27, 200	2, 176		
普通作業員			人	0. 09	25, 400	2, 286		
諸雑費（率＋まるめ） 3%			式	1		172		
計						5, 922		
単価						5, 922	円／m 2	

参考資料（１）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	交通誘導警備員B		単位	人日	数量	1	単価	18, 500
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	交通誘導警備員B		人	1	18, 500	18, 500		
	諸雑費（まるめ）		式	1		0		
	計					18, 500		
	単価					18, 500	円／人日	

参考資料（２）

単価使用年月	2026. 07
歩掛使用年月	2026. 07
労務調整係数	1. 000-00-00-2-0

	ダンプトラック運転	良好	単位	日	数量	1	単価	35, 150
	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
	運転手（一般）		人	0. 89	24, 800	22, 072		
	軽油		L	19. 2	148	2, 841		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	通称 4 t 積級	供用日	1. 02	9, 760	9, 955		
	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]	タイヤ(供用日当り)	供用日	1. 02	268	273		
	諸雑費（まるめ）		式	1		9		
	計					35, 150		
	単価					35, 150	円／日	

共通仮設費

主たる工種						
単独（追加工事）： 橋梁保全工事			合算工事： 0			
対象工事費	77,373,166	直接工事費	77,373,166	準備費	0	事業損失 0
対象工事費に含まれる全処分費額	単独（追加工事）	319	現工事	0	合算工事	0
非対象額計（－）		1,786,770				
管理費区分 1		0（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）				
管理費区分 2， 7		0（工場原価）				
管理費区分 5		1,786,770（一般管理費等のみ対象額）				
管理費区分 9		0（間接費非対象額）				
管理費区分 T		0（全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額）				
対象額 支 給 品（＋）		0				
無償貸付機械評価額（＋）		0				
共通仮設費対象額						
単独（追加工事）		75,586,396	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く 共通仮設費対象額		75,586,077		0		0
共通仮設費（率分）						
率（補正前）		11.09 %		0 %		
施工地域等補正		1.4	ICT施工補正	1		
率（補正後）		15.53 %				
計上額		11,738,000		0		0
比較結果						
当該追加工事		A				
0		0			調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	75,586,077	直接工事費	77,373,166		
非対象額計（－）	1,787,089				
管理費区分1	0	(橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費)			
管理費区分2、7	0	(工場原価)			
管理費区分5	1,786,770	(一般管理費等のみ対象額)			
管理費区分9	0	(間接費非対象額)			
管理費区分T	319	(直接工事費に含まれる処分費等)			
対象額 支給品（＋）	0				
無償貸付機械評価額（＋）	0				
現場環境改善費対象額（P i）					
単独（追加工事）	75,586,077	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率（補正前）	0.83 %	0	%	0	%
施工地域等補正	市街地以外				
率（補正後）	0.83 %				
計上額	627,000	0		0	
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	64, 225				
運搬費	0	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	64, 225
営繕費	0	現場環境改善費	0		
共通仮設費計					12, 429, 225

共通仮設費

主たる工種						
単独（追加工事）： 橋梁保全工事			合算工事： 0			
対象工事費	53, 597, 239	直接工事費	53, 597, 239	準備費	0	事業損失 0
対象工事費に含まれる全処分費額	単独（追加工事）	317	現工事	0	合算工事	0
非対象額計（－）		1, 786, 770				
管理費区分 1	0	（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）				
管理費区分 2， 7	0	（工場原価）				
管理費区分 5	1, 786, 770	（一般管理費等のみ対象額）				
管理費区分 9	0	（間接費非対象額）				
管理費区分 T	0	（全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額）				
対象額 支 給 品（＋）	0					
無償貸付機械評価額（＋）	0					
共通仮設費対象額						
単独（追加工事）	51, 810, 469	現工事	0	合算工事	0	
全処分費等を除く共通仮設費対象額	51, 810, 152		0		0	
共通仮設費（率分）						
率（補正前）	12. 69 %		0 %			
施工地域等補正	1. 4	ICT施工補正	1			
率（補正後）	17. 77 %					
計上額	9, 206, 000		0		0	
比較結果						
当該追加工事	A					
0	0					調整工事計上額 0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	51,810,152	直接工事費	53,597,239		
非対象額計 (一)	1,787,087				
管理費区分1	0	(橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費)			
管理費区分2, 7	0	(工場原価)			
管理費区分5	1,786,770	(一般管理費等のみ対象額)			
管理費区分9	0	(間接費非対象額)			
管理費区分T	317	(直接工事費に含まれる処分費等)			
対象額 支 給 品 (+)	0				
無償貸付機械評価額 (+)	0				
現場環境改善費対象額 (P i)					
単独 (追加工事)	51,810,152	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率 (補正前)	0.9 %		0 %		0 %
施工地域等補正	市街地以外				
率 (補正後)	0.9 %				
計上額	466,000		0		0
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	64, 225				
運搬費	0	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	64, 225
営繕費	0	現場環境改善費	0		
共通仮設費計					9, 736, 225

共通仮設費

主たる工種						
単独（追加工事）： 橋梁保全工事			合算工事： 0			
対象工事費	12,721,759	直接工事費	12,721,759	準備費	0	事業損失 0
対象工事費に含まれる全処分費額	単独（追加工事）	0	現工事	0	合算工事	0
非対象額計（－）		0				
管理費区分 1		0（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）				
管理費区分 2， 7		0（工場原価）				
管理費区分 5		0（一般管理費等のみ対象額）				
管理費区分 9		0（間接費非対象額）				
管理費区分 T		0（全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額）				
対象額 支 給 品（＋）		0				
無償貸付機械評価額（＋）		0				
共通仮設費対象額						
単独（追加工事）		12,721,759	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く共通仮設費対象額		12,721,759		0		0
共通仮設費（率分）						
率（補正前）		20.91 %		0 %		
施工地域等補正		1.4	ICT施工補正	1		
率（補正後）		29.27 %				
計上額		3,723,000		0		0
比較結果						
当該追加工事		A				
0		0			調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	12, 721, 759	直接工事費	12, 721, 759		
非対象額計 (一)	0				
管理費区分 1	0	(橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費)			
管理費区分 2, 7	0	(工場原価)			
管理費区分 5	0	(一般管理費等のみ対象額)			
管理費区分 9	0	(間接費非対象額)			
管理費区分 T	0	(直接工事費に含まれる処分費等)			
対象額 支 給 品 (+)	0				
無償貸付機械評価額 (+)	0				
現場環境改善費対象額 (P i)					
単独 (追加工事)	12, 721, 759	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率 (補正前)	1. 19 %	0	%	0	%
施工地域等補正	市街地以外				
率 (補正後)	1. 19 %				
計上額	151, 000	0		0	
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	0				
運搬費	0	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	0
営繕費	0	現場環境改善費	0		
共通仮設費計					3,874,000

共通仮設費

主たる工種						
単独（追加工事）： 橋梁保全工事			合算工事： 0			
対象工事費	11,054,168	直接工事費	11,054,168	準備費	0	事業損失 0
対象工事費に含まれる全処分費額		単独（追加工事）	2	現工事	0	合算工事 0
非対象額計（－）		0				
管理費区分 1		0	（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）			
管理費区分 2， 7		0	（工場原価）			
管理費区分 5		0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分 9		0	（間接費非対象額）			
管理費区分 T		0	（全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額）			
対象額 支 給 品（＋）		0				
無償貸付機械評価額（＋）		0				
共通仮設費対象額						
単独（追加工事）		11,054,168		現工事	0	合算工事 0
全処分費等を除く共通仮設費対象額		11,054,166			0	0
共通仮設費（率分）						
率（補正前）		21.98 %			0 %	
施工地域等補正		1.4	ICT施工補正		1	
率（補正後）		30.77 %				
計上額		3,401,000			0	0
比較結果						
	当該追加工事	A				
	0	0			調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	11,054,166	直接工事費	11,054,168		
非対象額計（一）	2				
管理費区分1	0	（橋梁、P C 桁、門扉、ポンプ等購入費）			
管理費区分2、7	0	（工場原価）			
管理費区分5	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分9	0	（間接費非対象額）			
管理費区分T	2	（直接工事費に含まれる処分費等）			
対象額 支 給 品（＋）	0				
無償貸付機械評価額（＋）	0				
現場環境改善費対象額（P i）					
単独（追加工事）	11,054,166	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率（補正前）	1.23 %	0 %		0 %	
施工地域等補正	市街地以外				
率（補正後）	1.23 %				
計上額	135,000	0		0	
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）					0
運搬費	0	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	0
営繕費	0	現場環境改善費	0		
共通仮設費計					3, 536, 000

現場管理費

単独（追加工事）純工事費	89,802,391	単独（追加工事）直接工事費	77,373,166	単独（追加工事）共通仮設費	12,429,225
非対象額計（－）	1,786,770				
管理費区分2, 7	0	（工場原価）			
管理費区分5	1,786,770	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分9	0	（間接費非対象額）			
管理費区分T	0	（全処分費等のうち3％または3000万円を超える額）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械等評価額（＋）	0				
現場管理費対象純工事費					
単独（追加工事）	88,015,621	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	88,015,302		0		0
現場管理費対象純工事費（調整工事入力で使用）					
率（補正前）	40.03　％		0　％		0　％
施工地域等補正	1.2				
施工時期補正	0　％	熱中症補正	0　％	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0　％				
砂防・地すべり補正	0　％		0　％		
率（補正後）	48.04　％		0　％		
計上額	42,282,000		0		0
			6,282,864（工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額）		
比較結果　当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

現場管理費

単独 (追加工事) 純工事費	63,333,464	単独 (追加工事) 直接工事費	53,597,239	単独 (追加工事) 共通仮設費	9,736,225
非対象額計 (一)	1,786,770				
管理費区分2, 7	0	(工場原価)			
管理費区分5	1,786,770	(一般管理費等のみ対象額)			
管理費区分9	0	(間接費非対象額)			
管理費区分T	0	(全処分費等のうち3%または3000万円を超える額)			
対象額 支給品 (+)	0				
無償貸付機械等評価額 (+)	0				
現場管理費対象純工事費					
単独 (追加工事)	61,546,694	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	61,546,377		0		0
現場管理費対象純工事費 (調整工事入力で使用)					
率 (補正前)	42.95 %		0 %		0 %
施工地域等補正	1.2				
施工時期補正	0 %	熱中症補正	0 %	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0 %				
砂防・地すべり補正	0 %		0 %		
率 (補正後)	51.54 %		0 %		
計上額	31,721,000		0		0
				(工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額)	
比較結果 当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

現場管理費

単独 (追加工事) 純工事費	16, 595, 759	単独 (追加工事) 直接工事費	12, 721, 759	単独 (追加工事) 共通仮設費	3, 874, 000
非対象額計 (一)	0				
管理費区分 2, 7	0	(工場原価)			
管理費区分 5	0	(一般管理費等のみ対象額)			
管理費区分 9	0	(間接費非対象額)			
管理費区分 T	0	(全処分費等のうち 3 % または 3 0 0 0 万円を超える額)			
対象額 支給品 (+)	0				
無償貸付機械等評価額 (+)	0				
現場管理費対象純工事費					
単独 (追加工事)	16, 595, 759	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	16, 595, 759		0		0
現場管理費対象純工事費 (調整工事入力で使用)					
率 (補正前)	55. 59 %		0 %		0 %
施工地域等補正	1. 2				
施工時期補正	0 %	熱中症補正	0 %	ICT 施工補正	1
緊急工事補正	0 %				
砂防・地すべり補正	0 %		0 %		
率 (補正後)	66. 71 %		0 %		
計上額	11, 071, 000		0		0
				(工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額)	
比較結果 当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

現場管理費

単独（追加工事）純工事費	14,590,168	単独（追加工事）直接工事費	11,054,168	単独（追加工事）共通仮設費	3,536,000
非対象額計（－）	0				
管理費区分2, 7	0	（工場原価）			
管理費区分5	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分9	0	（間接費非対象額）			
管理費区分T	0	（全処分費等のうち3％または3000万円を超える額）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械等評価額（＋）	0				
現場管理費対象純工事費					
単独（追加工事）	14,590,168	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	14,590,166		0		0
現場管理費対象純工事費（調整工事入力で使用）					
率（補正前）	57.02％		0％		0％
施工地域等補正	1.2				
施工時期補正	0％	熱中症補正	0％	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0％				
砂防・地すべり補正	0％		0％		
率（補正後）	68.42％		0％		
計上額	9,982,000		0		0
				（工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額）	
比較結果　当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

一般管理費等（当初）

事務所名 常陸河川国道事務所 道路管理第二課

工事番号 2025040017

第 0 回変更

発注年月 令和08年04月

契約区分

単年度（繰越を含む）の分任官

主工種

橋梁保全工事

工事原価	132,084,391				
純工事費	89,802,391	現場管理費	42,282,000	工期延長等に伴う現場維持費	0
非対象額計（一）	0				
管理費区分9	0	（支給品を除く間接費非対象額）			
管理費区分T	0	（全処分費等のうち3%または3000万円を超える額）			
一般管理費等対象工事原価					
単独（追加工事）	132,084,391	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く					
一般管理費等対象工事原価	132,084,072	現工事	0	合算工事	0
（調整工事入力で使用）					
前払金支出割合による補正係数	1	現工事			
財団法人等による補正係数	1				
契約保証に係る一般管理費対象工事原価	132,084,391				
契約保証に係る補正值	0.04 %				
一般管理費率					
単独（追加工事）	17.71 %	現工事	0 %	合算工事	0 %
一般管理費	23,436,609				
業務委託料等	0				
調査基準価格	169,301,000				
調査基準価格の100/110	153,910,000	（ 90.15 %）			

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事

国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 道路管理第二課

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
橋梁保全工事 （土浦地区） 桜川橋（下り）		式		1		
橋梁付属物工		式		1		
伸縮継手工		式		1		
伸縮装置非排水化	TYPE-150	m		52.2		
橋梁補修工		式		1		
亀裂補修工		式		1		
亀裂補修 （1）	TYPE-A1	箇所		23		
亀裂補修 （2）	TYPE-A2	箇所		16		
亀裂補修 （3）	TYPE-A3	箇所		14		
亀裂補修 （4）	TYPE-A4	箇所		10		
亀裂補修 （5）	ソールプレート補修	箇所		3		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
当て板補修工		式		1		
当て板補修 (1)	SM400A SS400	箇所		1		
当て板補修 (2)	SM400A SS400	箇所		1		
当て板補修 (3)	SM400A SS400	箇所		1		
支承補修工		式		1		
沓座モルタル補修 (1)	無収縮モルタル	箇所		1		
沓座モルタル補修 (2)	無収縮モルタル	箇所		3		
沓座モルタル補修 (3)	無収縮モルタル	箇所		4		
ひび割れ補修工		式		1		
低圧注入工法	25m以下 エポキシ	構造物		1		
断面修復工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
左官工法 (1)	0.1m3以下 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理無	構造物		1		
左官工法 (2)	0.1m3以下 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有	構造物		1		
コンクリート殻積込・運搬(断面修復工)	コンクリート殻(無筋)	m3		0.09		
殻処分	コンクリート殻(無筋)	m3		0.09		
紫外線硬化型FRPシート工		式		1		
紫外線硬化型FRPシート (1)	0.01m2以上0.07m2未満/枚	m2		0.27		
紫外線硬化型FRPシート (2)	0.07m2以上0.15m2未満/枚	m2		0.72		
紫外線硬化型FRPシート (3)	0.15m2以上/枚	m2		3.34		
部分塗装	RC-II 素地調整 中塗り 上塗り	m2		4		
仮設工		式		1		
足場工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
足場	吊足場 両側朝顔 シート防護	m2		1,975		
登り栈橋		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員 (1)	誘導員A	式		1		
交通誘導警備員 (2)	誘導員B	式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本データ作成費用		式		1		
現場環境改善費（率計上）		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
共通仮設費（率計上）		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮歩道橋） （ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
橋梁保全工事 （桜川地区） 鉾田・若宮歩道橋		式		1		
舗装工		式		1		
橋面防水工		式		1		
橋面防水 （1）	塗膜防水	m2		112		
橋面防水 （2）	塗膜防水	m2		93		
薄層カー舗装工		式		1		
薄層カー舗装 （1）	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2		112		
薄層カー舗装 （2）	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2		93		
セメントモルタル敷設	普通 1:3	m2		93		
橋梁補修工		式		1		
シール材設置工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮歩道橋）（ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
シール材設置 （通路部）	シーリング 系	m		81		
シール材設置 （階段部）	シーリング 系	m		360		
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工		式		1		
既設舗装剥ぎ取り （1）	舗装版厚 60mm以下	m2		110		
既設舗装剥ぎ取り （2）	舗装版厚 60mm以下	m2		93		
応急処理工		式		1		
応急処理作業工		式		1		
応急作業 （1）		式		1		
応急作業 （1）-1【夜間】		式		1		
応急作業 （2）		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮歩道橋） （ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
応急作業 (2)-1【夜間】		式		1		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員	誘導員B	式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
現場環境改善費（率計上）		式		1		
共通仮設費（率計上）		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（鉾田歩道橋、若宮歩道橋）						（ 当 初 ）
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
工事原価			式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋） （ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
橋梁保全工事 （桜川地区） 山王歩道橋		式		1		
舗装工		式		1		
橋面防水工		式		1		
橋面防水	塗膜防水	m2		107		
薄層カー舗装工		式		1		
薄層カー舗装	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2		107		
橋梁補修工		式		1		
モルタル充填工		式		1		
モルタル充填	無収縮モルタル	箇所		1		
殻運搬	コンクリート殻（無筋）	m3		0.001		
殻処分	コンクリート殻（無筋）	m3		0.001		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋） （ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
シール材設置工		式		1		
シール材設置 (1) (通路部)	シーリング 系	m		78		
シール材設置 (2) (階段部)	シーリング 系	m		360		
紫外線硬化型FRPシート工		式		1		
紫外線硬化型FRPシート (1)	0. 01m2以上0. 07m2未満/枚	m2		4. 18		
紫外線硬化型FRPシート (2)	0. 07m2以上0. 15m2未満/枚	m2		5. 88		
紫外線硬化型FRPシート (3)	0. 15m2以上/枚	m2		4. 77		
構造物撤去工		式		1		
構造物取壊し工		式		1		
既設舗装剥ぎ取り	舗装版厚 60mm以下	m2		100		
応急処理工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋） （ 当 初 ）					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
応急処理事業工		式		1		
応急作業 (1)		式		1		
応急作業 (2)【夜間】		式		1		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員	誘導員B	式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
現場環境改善費（率計上）		式		1		
共通仮設費（率計上）		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事（山王歩道橋）					
(当 初)						
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		

R 7 国道 6 号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事

(当 初) 請負工事費計算書

(1) 直接工事費 -----	77, 373, 166
(2) 共通仮設費 -----	17, 146, 225
(3) 純工事費 -----	94, 519, 391

(1)+(2)

(4) 現場管理費 -----	52, 774, 000
(5) 工期延長等に伴う現場維持等の費用 -----	0

(6) 工事原価 -----	147, 293, 391
-----------------	---------------

(3)+(4)+(5)+(18)

(7') 一般管理費等(計上額) -----	23, 436, 609
------------------------	--------------

(8') その他費目計 -----	0
-------------------	---

(9) 業務委託料等 -----	0
-------------------	---

(10) 工事価格 -----	170, 730, 000
-----------------	---------------

(6)+(7')+(8')+(9) (万円未満切り捨て)

(11) 消費税相当額 -----	17, 073, 000
-------------------	--------------

(12) 請負工事価格 -----	187, 803, 000
-------------------	---------------

(10)+(11)

(13) 入札書比較価格 -----	170, 730, 000
--------------------	---------------

(請負工事費の100/110)

(14) 調査基準価格 -----	169, 301, 000
-------------------	---------------

(15) 調査基準価格の100/110 -----	153, 910, 000
---------------------------	---------------

(万円未満切り捨て)

(16) 工場製作純工事費 -----	0
---------------------	---

(17) 工場管理費 -----	0
------------------	---

(18) 工場製作原価 -----	0
-------------------	---

(16)+(17)

((7) 一般管理費等(計算額) -----	23, 444, 979)
-------------------------	----------------

R 7 国道 6 号桜川橋（下り）
他歩道橋補修工事

特 記 仕 様 書

令和 8 年 4 月

国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所
道路管理第二課

■ 第 1 編 共通編

第 1 章 総則

第 1 条 適用

1. この特記仕様書は、関東地方整備局土木工事共通仕様書（令和 8 年度版）（以下「共通仕様書」という。）でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。
2. この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。
3. この特記仕様書に添付されていない別紙様式等については以下 URL よりダウンロードするものとする。
URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000015.html>
4. 本工事における「条件明示」については、別紙－1「明示項目および明示事項」に記載のとおりとする。

第 2 条 主任技術者等

本工事の主任技術者又は監理技術者は、受注者が提出した競争参加資格確認申請書に記述した配置予定の技術者でなければならない。

第 3 条 主任技術者等の専任期間 修正

1. 契約締結日の翌日から工事の始期までの期間については、主任技術者又は監理技術者の設置を要しない。
2. 契約締結日の翌日から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。
3. 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続後、後片付け等のみが残っている期間については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日（例：「完成通知書」等における日付）とする。
4. 主任技術者又は監理技術者が技術研鑽のための研修、講習、試験等で短期間工事現場を離れる場合は、適切な施工ができる体制を確保したうえで、監督職員の承諾を得るものとする。

第 4 条 専任特例 2 号の場合の監理技術者の配置

1. 本工事において、建設業法第 26 条第 3 項第二号の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「専任特例 2 号の場合の監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（１）～（８）の要件を全て満たさなければならない。
 - （１）建設業法第 26 条第 3 項第二号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
 - （２）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第 27 条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例 2 号の場合の監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。
 - （３）監理技術者補佐は、直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。

- (4) 同一の専任特例2号の場合の監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に2件までとする。なお、専任特例1号の場合の監理技術者又は主任技術者を活用した工事と兼務することは出来ない。
(ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるものについては、これら複数の工事を一の工事とみなす。)
- (5) 専任特例2号の場合の監理技術者が兼務できる工事は茨城県内の工事ではない。
- (6) 専任特例2号の場合の監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
- (7) 専任特例2号の場合の監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
- (8) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
- 2. 現場の安全管理体制について、平成7年4月21日付基発第267号の2「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とする。」とされていることから、施工体制に留意すること。
- 3. 本工事の監理技術者が専任特例2号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事を予定している場合、以下の書類を提出すること。
 - 1) 監理技術者補佐の資格を有する書類（一級施工管理技士等の国家資格者の合格証の写しなど）
 - 2) 監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類（監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料（いずれも写し可））
 - 3) 専任特例2号の場合の監理技術者が兼務する工事の箇所、内容を示す書類（CORINSの写し）
- 4. 本工事の監理技術者が専任特例2号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事となった場合、第1項(5)～(8)について施工計画書へ記載し、提出すること。
- 5. 本工事において、専任特例2号の場合の監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は、コリンズ（CORINS）への登録・修正を適切に行うこと。

第5条 コリンズ（CORINS）への登録

- 1. 工事カルテの作成、登録については、土木工事共通仕様書「1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録」によるものとする。
- 2. 受注者は、工事受注後又は施工中において当該工事に係る悪質で不誠実な行為（一括下請負等）が発覚し、指名停止の措置を受けた場合は、登録済みの工事カルテの取り下げを行うものとする。
- 3. 技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）

第6条 コリنز（CORINS）への位置情報の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリنز（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標（緯度、経度）を記載するものとする。なお、座標は、世界測地系（JGD2024）に準拠する。

起点 茨城県土浦市佐野子 緯度 36° 05' 17" 経度 140° 10' 42"
終点 茨城県土浦市虫掛 緯度 36° 05' 22" 経度 140° 10' 46"

第7条 コリنزへの工事概要の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリنز（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を受注時に作成するにあたり、工事概要について必須登録とし、記載例を参考にすること。

記載例)

本工事は、国道6号桜川橋(下り)の他、国道50号の横断歩道橋3橋の補修工事を行うものである。

主な工種は国道6号桜川橋(下り)における橋梁附属物工、橋梁補修工、国道50号の横断歩道橋3橋における舗装工、橋梁補修工であり伸縮継手工一式、亀裂補修工一式、舗装工一式、シール材設置工一式他を予定している。

第8条 コリنزへの設計業務名およびテクリス番号の入力

土木工事共通仕様書 1-1-1-7 コリنز（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、設計業務名およびテクリス番号を登録すること。設計業務名およびテクリス番号については以下のとおりとする。

記載例) ※2

コリنزへ登録する業務名およびテクリス番号

業務名	テクリス番号
R 4 常陸河川国道管内橋梁補修設計業務	4048546741
R 5 常陸河川国道管内橋梁補修設計業務	4054120857

第9条 施工体制台帳

工事成績優秀企業に認定され、認定有効期限内に、工事発注の契約を行った工事の監理技術者、主任技術者（工事成績優秀企業に認定された下請負を含む）は、工事成績優秀企業認定マークの使用や金色帯線（黄色もしくは橙色の帯線でも可）を名札上部に印刷することが出来るものとする。

監理（主任）技術者	
写真 2cm×3cm 程 度	氏名 ○○ ○○ 工事名 ○○改良工事 工期 自○○年○○月○○日 至○○年○○月○○日
	会社 ◇◇建設株式会社 印

2006年度
優
国土交通省
土木建築部
土木建築課
土木建築課長
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

注意 1) 用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注意 2) 所属会社の写真とする。

第 10 条 調査・試験に対する協力(低入札価格調査制度調査対象工事について)

1. 契約担当官等が工事の中間において技術検査の必要を認めた場合は、速やかに監督職員の指示に従い、検査を受けなければならない。なお、検査は工事請負契約書及び共通仕様書に適用する条項に準じて行うものとする。
2. 予算決算及び会計令第 85 条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、受注者は下記の調査に協力しなければならない。
 - 1) 受注者は、下請負者の協力を得て間接工事費等諸経費動向調査票(営繕工事においては共通費実態調査票)の作成を行い、工事完了後、速やかに発注者に提出するものとする。
 - 2) 受注者は、提出された間接工事費等諸経費動向調査票(営繕工事においては共通費実態調査票)の費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、受注者は下請負者についてもヒアリングに参加させるものとする。
 - 3) 工事コスト調査(調査結果でも可)に係る資料は、下記のとおりとし、関東地方整備局又は常陸河川国道事務所のホームページにより公表する。
 - 4) 低入札価格調査と工事コスト調査の結果に大きな乖離がある場合、又は、工事コスト調査資料の提出が無い場合には、工事成績評点を減点する場合がある。

なお、低入札価格調査対象工事については、工事コスト調査終了後に、工事成績評点を通知する。

公表資料は以下のとおり。

資料名	内 訳
低価格理由とその詳細	当該工事が低価格で施工可能となる理由を示した資料
比較表－ 1	積算内訳書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－ 2	積算内訳書に対する明細書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－ 3	元請の手持ち資材の当初と実績の比較表
比較表－ 4	元請の資材購入先一覧の当初と実績の比較表
比較表－ 5	手持ち機械の当初と実績の比較表
比較表－ 6	労務者確保計画の当初と実績の比較表
比較表－ 7	工種別労務者配置計画の当初と実績の比較表
比較表－ 8	建設副産物の搬出の当初と実績の比較表
諸経費動向調査(工事費)	元請、下請の工事費内訳

※別紙様式－ 00 参照

第 11 条 低入札契約におけるモニターカメラの設置

本工事は、予算決算及び会計令第 85 条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、工事の監督補助としてモニターカメラの設置を行う対象工事とする。

なお、モニターカメラの設置費用については、発注者の負担によるものとする。

第 12 条 不可視部分の出来形管理について

予算決算及び会計令第 85 条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、以下に示す工種の不可視部分について、ビデオカメラを用いた出来形管理を

行うこととし、撮影した映像については監督職員に提出するものとする。

全ての工種

第13条 不具合等発生時の措置

受注者は、工事施工途中に工事目的物や工事材料等の不具合等が発生した場合、又は公益通報者等から当該工事に関する情報が寄せられた場合には、その内容を監督職員に直ちに通知しなければならない。

第14条 工事書類の作成について

1. 工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事書類作成マニュアル（令和8年3月）」に基づき実施するものとする。
2. 工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類スリム化ガイド（令和8年3月）」を参考に書類の電子化、受発注者間での作成書類の役割分担の明確化、書類の削減等に留意すること。
3. 「工事関係電子書類一覧表」（別紙様式－15）により、工事着手前に「作成書類の役割分担」、「作成書類の位置付け」に関して「協議」するものとする。
また、「協議」の内容を変更する場合は、改めて、受発注者で協議を行うものとする。
4. 電子により提出、提示した書類については、検査時その他の場合においても紙での提示、提出は行わないものとする。

第15条 設計図書の照査

発注者は、設計図書の照査の範囲を超える資料の作成については、監督職員の指示とし、その作成費用は、設計変更の対象とする。なお、設計変更の対象については、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和7年3月」によるものとする。

第16条 情報共有システムの活用

1. 本工事は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの活用対象工事である。なお、活用にあたっては「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」（令和7年3月版）に基づき実施すること。
2. 受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、使用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。
 - ・工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件（Rev5.7）令和7年3月版 国土交通省(国土技術政策総合研究所)
3. 監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーID数、ディスク容量等の仕様やワークフロー機能の対象者等については、監督職員の確認を得た上で決定すること。
4. 受注者は、サービス提供者と次の内容を含めた契約を締結するものとする。
 - ①情報共有システムに関する障害を適正に処理、解決できる体制を整える旨
 - ②サービス提供者が善良なる管理者の注意をもってしても防御し得ない不正アクセス等により、情報漏洩、データ破壊、システム停止等があった場合、速やかに受注者に連絡を行い適正な処置を行う旨
 - ③②の場合において、サービス提供者に重大な管理瑕疵があると監督職員若し

くは受注者が判断した場合、又は復旧若しくは処理対応が不適切な場合には、受注者はサービス提供者と協議の上情報共有システムの利用を停止することができる旨

5. 受注者は、監督職員等から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第17条 設計・施工技術連絡会議(三者会議)の設置

本工事は、公共工事の品質確保及び円滑な事業執行を目的として、発注者、設計者、施工者（工事受注者）の三者が工事着手前等において一堂に会して、事業目的、設計思想・条件等の情報の共有及び施工上の課題、新たな技術提案に対する意見交換等を行う「設計・施工技術連絡会議（三者会議）」（以下、「三者会議」という。）の設置対象工事であり、工事着手前に1回以上開催するものとする。

「三者会議」の運用にあたっては、「設計・施工技術連絡会議（「三者会議」）運用方針」（<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）によるものとする。

第18条 設計審査会の設置

本工事は、発注者と受注者が一堂に会して、現場着手前（準備期間内）に工事工程クリティカルパスの共有及び工事工程の照合（クロスチェック）を実施し、併せて協議資料作成等の受発注者間の役割分担を明確にする場、また、設計変更手続きの透明性と公正性の向上及び迅速化のため、設計変更の妥当性の審議及び設計変更等に伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「設計審査会」（以下、「審査会」という。）の設置対象工事である。

「審査会」の運用にあたっては、「設計審査会設置運用方針」（<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）によるものとする。

第19条 工事環境の改善

本工事の実施にあたっては、工事環境の改善に取り組むウィークリースタンスを考慮するものとする。

ウィークリースタンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>に掲載している工事環境改善実施要領に基づき、監督職員と確認・調整した内容について取り組むものとする。

第20条 ワンデーレスポンスについて

1. この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。

「ワンデーレスポンス」とは

受注者からの質問、協議等への回答は、基本的に「その日のうち」に指示、通知等行うよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」に通知することである。

2. 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。
3. 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。
4. ワンデーレスポンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>に掲載しているワンデーレス

ポンス実施の手引き（令和5年12月）に基づき、取り組むものとする。

5. 効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

第21条 契約内容の変更手続きについて

本工事における契約内容の変更は、以下によるものとする。

1. 本工事における設計変更や契約変更は書面に基づき行うことを徹底し、指示書・協議書があるもののみを契約変更の対象とする。
2. 受注者は、工事期間中及び工事完成後において、監督職員から契約図書の規定に違反する等の不適切な指示を受けたと思料されるときは、当該監督職員を経由せずに、事務所長へ直接又は契約担当課長経由で書面により、その旨を報告することができる。

第22条 設計図書の変更

設計変更等については、契約書第18条から第25条及び共通仕様書共通編1-1-1-17から1-1-1-19に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和7年3月」によることとする。

第23条 スライド条項

工事請負契約書第26条（スライド条項）については、物価水準の変動により請負代金が不適当となったと認められた時に、相手方に請負代金の変更を請求することができる条項となっている。

単品スライドについては、鋼材類・燃料油の他、コンクリート類、購入土などの主要工事材料も対象となるので、物価水準の変動により請負代金が不適当となった場合には、相手方に対して請負代金の変更を請求することができる。

第24条 公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び再生資源活用工事実施要領（土木）

1. 特定建設資材の分別解体等の再資源化等

- ① 本工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（（平成12年法律第104号 最終改正令和4年6月17日法律68号）。以下「建設リサイクル法」という。）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「8 解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後に明らかになった事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議するものとする。

（1）分別解体等の方法

工 程 ご	工程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ■有 □無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用

との作業内容及び解体方法	②土工	土工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥その他	その他の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

(2) 再資源化等をする施設の名称及び所在地

1) コンクリート塊の搬出については以下のとおりとする。

特定建設資材 廃棄物の種類	施設の名称	所在地	運搬距離	摘要
コンクリート無筋殻	日東エンジニアリング(株)NESTP	茨城県土浦市沢辺1544-1	L=7.1km(D ID無し)	桜川橋 (下り)
コンクリート無筋殻	(株)アダチ商会	茨城県桜川市加茂部410-24	L=4.6km(D ID無し)	山王歩道橋

※上記の処理施設については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項については、監督職員と協議の上、契約変更の対象とすることができる。

2) 受入時間

日東エンジニアリング(株)NESTP : 8時30分～16時30分

(株)アダチ商会 : 8時00分～17時30分

② 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン（平成14年5月）」に定めた様式1〔再生資源利用計画書（実施書）〕及び様式2〔再生資源利用促進計画書（実施書）〕を兼ねるものとする。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ・再資源化等に要した費用

2. その他

工事発注後に明らかになった事情により予定していた条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第25条 建設リサイクル法第11条通知の徹底

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号）第11条に基づく、都道府県知事に対する通知を行った旨の書面を監督職員より受領した後に、工事着手（建設リサイクル法第10条第1項に規定

する工事着手をいう。)するものとする。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議の上決定するものとする。

第26条 コンクリート副産物から再生された資源について

1. コンクリート副産物から再生された資材を利用する場合には、「コンクリート副産物の再生利用に関する用途別品質基準」によるものとする。
2. 受注者は、コンクリート副産物から再生された資材の利用を希望する場合は、工事着手時にその適用の有無を監督職員と協議するものとする。
3. 受注者は、工場が発行する再生骨材コンクリートの配合計画書及び納入書を整備および管理し、監督職員または検査職員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。
4. 受注者は、再生骨材コンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5022 (再生骨材Mを用いたコンクリート)、JIS A 5023 (再生骨材Lを用いたコンクリート)により実施しなければならない。
また、再生骨材Mを用いたプレキャストコンクリート製品の検査については、JIS A 5365 (プレストキャストコンクリート製品—検査方法通則)により実施しなければならない。
なお、生産者等に検査のため試験を代行させる場合は受注者がその試験に臨場しなければならない。
5. 再生骨材コンクリートの配合については、「土木工事共通仕様書第1編3-3-3 配合」に従うものとする。

第27条 工事完成図等の作成について

本工事は、道路工事完成図等作成要領(第2版)(国土技術政策総合研究所資料、平成20年12月)に基づく電子納品の対象工事である。

http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html

第28条 施工管理

1. 本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値(令和8年度版)によるものとする。なお、この管理基準により難しい場合及び基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。
2. 本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準(令和8年度版)によるものとする。なお、「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。

第29条 デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事では、以下の1. から4. の全てを実施することとする。

1. 対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等(以降、「使用機器」と称する)については、関東地方整備局土木工事写真管理基準(令和8年度版)(以下、写真管理基準)「2-2 撮影方法」に示す項目の

電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」(URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア、（一社）施工管理ソフトウェア産業協会、[〈https://www.jcomsia.org/kokuban〉](https://www.jcomsia.org/kokuban)。

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない

2. デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、同条1.の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、写真管理基準「2-2 撮影方法」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

3. 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準（以下、デジタル写真管理情報基準）に準ずるが、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入については、写真管理基準「2-5 写真編集等」及びデジタル写真管理情報基準「6.写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

4. 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は改ざん検知機能（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

また、下記のチェックツールを使用して信憑性確認を行い、結果を出力したものでもよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール（一社）施工管理ソフトウェア産業協会
[〈https://www.jcomsia.org/kokuban〉](https://www.jcomsia.org/kokuban)。

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではないなお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を実施しない工事写真がある場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得ること。

第30条 現場環境改善（快適トイレの設置）

1. 内 容

受注者は、現場に以下の（1）～（11）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。

（12）～（17）については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

- (1) 洋式（洋風）便器
- (2) 水洗及び簡易水洗機能（し尿処理装置付き含む）
- (3) 臭い逆流防止機能
- (4) 容易に開かない施錠機能
- (5) 照明設備
- (6) 衣類掛け等のフック、又は、荷物の置ける棚等（耐荷重を 5 kg 以上とする）

【付属品として備えるもの】

- (7) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
- (8) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫
- (9) サニタリーボックス（女性用トイレに必ず設置）
- (10) 鏡と手洗器
- (11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

- (12) 室内寸法 900mm×900mm 以上（面積ではない）
- (13) 擬音装置（機能を含む）
- (14) 着替え台
- (15) 臭気対策機能の多重化
- (16) 室内温度の調整が可能な設備
- (17) 小物置き場（トイレットペーパー予備置き場等）

2. 快適トイレに要する費用

快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。

受注者は、上記 1 の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。【快適トイレに求める機能】(1)～

(6) 及び【付属品として備えるもの】(7)～(11)の費用については、従来品相当を差し引いた後、57,000 円/基・月を上限に設計変更の対象とする。

なお、設計変更数量は、現場毎に必要性を協議の上、決定する。

また、運搬・設置費は共通仮設費（率）に含むものとし、積算上限額を超える費用については、現場環境改善費（率）を想定しており、別途計上は行わない。

3. 快適トイレの「質の向上」に要する費用

快適トイレの「質の向上」として、積算上限額を超える費用について現場環境改善費（率）を充当することができる。現場環境改善費（率）の充当を希望する場合は、上記 2. の協議時に見積書を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとする。

なお、現場環境改善費（率）を充当することにより、特記仕様書に明示されたその他の費目の実施が困難な場合には、実施費目数の変更を合わせて協議することとする。

4. その他

快適トイレの手配が困難の場合は、監督職員と協議の上、本条項の対象外とする。

第 31 条 BIM/CIM 活用工事

本工事は、BIM/CIM 適用工事（発注者指定型）である。

少なくとも以下に示す義務項目について、BIM/CIM を適用する。さらに、発注者が示す課題や効率化等を求める内容を踏まえ、BIM/CIM 取扱要領「附属資料 1 推奨項

目一覧」や過去の取組事例等を参考にして、受発注者で実施内容や納品方法について協議し決定する。

受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

BIM/CIM 適用工事に要する費用については、当初は計上していない。3次元モデルを作成または加工する場合は、受発注者間の協議に基づき、設計変更を行うものとする。

(例)

活用内容	活用内容の詳細
〔義務項目〕	
施工計画の検討補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。
2次元図面の理解補助	詳細設計等で作成された3次元モデルを閲覧し、2次元図面を理解する際の参考にする。
現場作業員等への説明	詳細設計等で作成された3次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。
〔推奨項目〕	
重ね合わせによる確認	3次元モデルに複数の情報を重ね合わせて表示することにより、位置関係にずれ、干渉等がないか等を確認する。 (例) 本工事では、建築限界及び構造物等と官民境界の位置を確認する。
現場条件の確認	3次元モデルに建機等を配置し、近接物の干渉等、施工に支障がないか確認する。 (例) 本工事では、建機の搬出入経路及び旋回範囲を確認する。
施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 (例) 本工事では、交通規制を伴う部分の切り替え、作業スペース等を確認する。 (例) 本工事では、工事進捗に伴い変化する仮設及び建機等の作業スペース等を確認する。
施工管理での活用	3次元モデル上で施工手順等を区分し、施工範囲の明確化や進捗管理等に活用する。 (例) 本工事では、護岸工の打設日毎に色分けをし、進捗確認を行う。
〔3次元モデル作成の目安〕	
詳細度	200～300程度※1 ※1 構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報※2 ※2 部材等の名称、規格、仕様等の情報	3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する。(BIM/CIM取扱要領「附属資料3 オブジェクト分類」を参照)

1. BIM/CIM 実施計画書の作成

受発注者において、BIM/CIM の実施内容や、納品方法等を協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、提出する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施(変更)計画書を作成する。

また、作成した BIM/CIM 実施計画書(変更含む)に基づき、本工事を実施す

る。

- 1) 工事概要
- 2) 整理すべき課題
- 3) BIM/CIM の実施内容（3次元モデルの活用内容、期待する効果等）
- 4) 3次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された3次元モデルの仕様等）
- 5) 3次元モデルの作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
- 6) 3次元モデルの閲覧、データ共有ができるソフトウェアの種類、成果物の納品ファイル形式
- 7) 3次元モデルの作成担当者
- 8) 3次元モデルの作成・活用に要する費用

2. BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づき実施した内容について、BIM/CIM 実施報告書を作成する。以下の内容を BIM/CIM 実施計画書に追記して作成する。

- 1) 後段階への引継事項（データ活用時の留意点、更なる検討が必要な内容、2次元図面との整合等）
- 2) 省人化の効果（前段階から引き継いだデータの活用により省人化した効果、3次元での検討により省人化した効果等）

3. 成果の納品

以下の内容を納品する。様式については別添資料を参照すること。

- 1) BIM/CIM 実施計画書・見積書（変更含む）
- 2) BIM/CIM 実施報告書（3次元モデル作成引継書シート、3次元モデル照査時チェックシートを含む）
- 3) 作成した3次元モデル（オリジナルデータ、標準的なデータ形式（J-LandXML 形式、IFC 形式）、統合モデル、動画等）

4. その他

最新の情報は BIM/CIM ポータルサイト (<https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/bimcimindex.html>) で提供されているので、適宜参照すること。

第32条 工事中の安全確保

1. 工事の施工にあたっては、関東地方整備局長が定める「重点的安全対策」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。なお、令和8年度における重点安全対策項目は以下の7項目である。
 - I. 架空線等上空施設の損傷事故防止
 - II. 建設機械等の稼働に関連した人身事故防止
 - III. 資機材等の下敷きによる人身事故防止
 - IV. 足場・法面等からの墜落事故防止
 - V. 地下埋設物の損傷事故防止
 - VI. 第三者の負傷・第三者車両等に対する損害
 - VII. 事故防止
2. 受注者は、工事に従事する就業制限業務及び作業主任者を選任する業務における資格者のうち、資格取得後一定期間経過した資格者に対し、次に掲げる再教育の受講が推進されるよう努めるものとする。
 - I 労働安全衛生法第19条の2に基づく足場組立等作業主任者等に対する能力向上教育
 - II 労働安全衛生法第60条の2に基づく車両系建設機械運転従事者、移動式クレ

ーン運転士、玉掛業務従事者等に対する危険有害業務従事者教育

Ⅲ 厚生労働省通達に基づくドラグ・ショベル運転業務従事者等に対する危険再認識教育

3. 工事の施工にあたっては、工事等の時期、工事等の方法の概要及び工事等を行う場合における道路交通に対する措置について、「道路工事保安施設設置基準（案）（令和6年2月）」に基づき監督職員へ確認を行うものとする。
4. 工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については監督職員の承諾を得るものとする。
5. 工事期間中は、夜間における安全確保のため保安要員を巡回させ、道路灯、バリケード等保安施設の保安点検を行うものとする。
6. 工事期間中に配置する交通誘導警備員は、以下のとおり計上するものとする。ただし、交通管理者等との協議条件など社会的要件、現地精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

施工箇所	作業区分	交通誘導警備員	備考
土浦地区（桜川橋（下り））	昼間作業	44人（うち有資格誘導員 22人）	
桜川地区（畝田歩道橋、若宮歩道橋）	昼間作業	48人（うち有資格誘導員 0人）	
桜川地区（山王歩道橋）	昼間作業	58人（うち有資格誘導員 0人）	

7. 交通規制の認識対策

路上工事で、交通規制を行う場合、保安施設の設置、撤去に先がけ、発煙筒を使用するなど、規制帯内への一般車の飛び込み事故の防止に努めること。（参考図参照）

8. UAV 等を使用する際の安全面への配慮について

受注者は、起工測量等において UAV 等を使用する場合、安全面への配慮として下記 URL に基づいて UAV 等を使用すること。

URL <https://www.gsi.go.jp/KOUKYOU/sokuryosidou41042.html>

第33条 熱中症対策に資する現場管理費の補正

1. 本工事は、夏季における真夏日などの気候状況を考慮し、工事現場の熱中症対策に掛かる経費に関して「熱中症対策に資する現場管理費の補正」を行う試行工事である。

2. 真夏日の考え方は下記のとおりである。

1) 真夏日の定義

日最高気温が30℃以上の日を指す。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合とする。

2) 試行にあたっての真夏日の計上の考え方

下記①～③のいずれかに該当する場合、真夏日として計上する。

①環境省が公表している暑さ指数（WBGT）が日最高25℃以上の場合。

施工現場から最寄りの環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）が25℃以上となる日を真夏日とみなす。

②気象庁が公表している地上気象観測所の日最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温が30℃以上の日を真夏日とする。

③夜間工事については、作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの観測地点における作業時間帯の最高気温が30℃以上、又は暑さ指数(WBGT)が25℃以上の場合を真夏日とする。

なお、休工日においては、上記に該当した場合でも真夏日としない。

上記①～③によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

3) 工期

工事着手から工事完成日までの期間を指す。なお、年末年始休暇6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

4) 基準日

受発注者協議により、「基準日」を定めるものとする。「基準日」は工事着手日を基本とする。

当該「基準日」より工期末までの期間のうち、真夏日にあたる日数を算出する。なお、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、現場休工日は含まないものとする。

5) 真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

$$\cdot \text{真夏日率} = \text{基準日から工期末までの真夏日} \div \text{工期}$$

6) 現場管理費の補正

現場管理費の補正は、工期中の日最高気温の状況に応じて補正値を算出し、現場管理費率に加算する。なお、補正は変更契約において行うものとする。

$$\cdot \text{補正値}(\%) = \text{真夏日率} \times \text{補正係数} \ast$$

※ 真夏日補正係数：1.2

第34条 安全管理推進技術査等認定について

1. 概要

関東地方整備局（港湾・空港部・営繕部関係を除く）が発注した工事（以下、「直轄工事」という）において、無事故で完成させた技術者に対して、「安全管理推進技術者」（以下、「認定技術者」という）として認定する

2. 認定条件

対象とする技術者は、以下の条件によって認定する。

- ・直轄工事において、無事故にて完成させた「安全管理担当者」として、施工期間中、全ての工事（準備工を除く）に従事した者。なお、「安全管理担当者」とは、施工体制上、受注者が配置する「統括安全衛生責任者」、「元方安全衛生管理者」、「ずい道等救護技術管理者」、「店社安全衛生管理者」、「工事現場責任者」として安全管理に従事した者で、現場代理人または、主任（監理）技術者が兼務した場合も認定するものとする。
- ・直轄工事にて、認定技術者として過去5回認定された者については、「優秀安全管理推進技術者」（以下、「優秀認定技術者」という）として認定する。

3. 認定技術者の認証

- ・認定技術者及び優秀認定技術者に認定された者については、「安全管理推進技術者認定ロゴマーク」（以下、「認定ロゴマーク」という）を「企業の名刺」、「ヘルメット貼付」等に使用（印刷、シール）することができる。
- ・紛失等による認定書の再発行は行わない。
- ・「認定ロゴマーク」については、当該地方整備局管内で行う直轄工事のみに使用でき、それに要する費用は、当該企業が負担するものとする。

4. 認定技術者の認証期間

認定技術者へ授与した認証については、その使用期間に制限を設けないものとする。

5. 不適切事項への措置による認証の取り扱い

認定技術者が関係する工事にて、粗雑工事等の発覚より、関東地方整備局から措置（指名停止、文書注意、口頭注意）を受けた場合であっても、過去の認証の取り消しは行わない。ただし、工事完成後、安全管理に関して不適切な事象が発覚した場合、または、不正による認定取得が確認された場合については、認定を取り消す。

第35条 交通誘導警備員の資格

交通誘導警備員については、資格者（警備業法第23条に規定する都・県公安委員会の行う1級又は2級検定に合格した者）1名以上を充て、他は経験1年以上の者を配置すること。

なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第36条 路上工事の縮減等

受注者は、路上工事による交通への影響の緩和を図るため、施工方法・規制時間帯・施工日数の短縮等の検討を行い、監督職員に提出するとともに工事完了時に実施結果を提出するものとし、路上工事の縮減等に努めるものとする。

第37条 交通規制日数の報告

現道上での(改築・維持修繕)工事等により交通規制を実施した場合には、月毎に実交通規制日数を監督職員へ提出するものとする。

第38条 環境対策

受注者は、工事に伴う公害防止（騒音、振動、粉塵、排出ガス等）のため、下記によらなければならない。

1. 工種

橋梁補修工

仮設工

2. 建設機械・設備

低騒音・低振動認定機械

騒音防止を施した機械

3. 施工にあたり現地状況を十分把握し、安全性、経済性等の検討を行い、施工方法に変更が生じた場合、又は上記により難しい場合は、監督職員と協議しなければならない。

第39条 環境対策(特定調達品目の調達実績の調査について)

受注者は、本工事の資材、建設機械の使用にあたっては、必要とされる強度や耐久性、機能の確保等に留意しつつ、環境物品等の調達の推進に関する基本方針に定められた国土交通省の特定調達品目(以下、「特定調達品目」という)の使用を積極的に推進するものとする。設計図書に定めがあるものについて、特定調達品目への変更が可能である場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。ただし、東日本大震災の影響により、特定調達品目の使用が困難な場合には、監督職員と協議するものとする。

受注者は、特定調達品目の調達実績の集計を行い、工事完了後(工期が令和9年度

以降に及ぶものは、監督職員の指示する日まで)に、電子データにより監督職員に提出するものとする。集計の方法については、監督職員より指示する。

第40条 環境対策(建設機械の使用)

受注者は、本工事において「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」(昭和62年3月30日建設省経機第58号)に基づき、低騒音型建設機械の使用原則を図られた場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。

第41条 交通安全管理

受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

1. 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし柵装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
4. 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行った場合、さし柵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第42条 工事現場の現場環境改善

1. 現場環境改善として実施する内容は、下記のとおりとするが、現場条件等により実施が困難になった場合には、監督職員と協議するものとする。
 - (1)仮設備関係
昇降設備の充実を実施するものとする。
 - (2)営繕関係
現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む)を実施するものとする。
現場休憩所の快適化
 - (3)安全関係
工事標識・照明等安全施設のイメージアップ(電光式標識等)を実施するものとする。
 - (4)地域連携
社会貢献を実施するものとする。
2. 現場環境改善については具体的な内容、実施時期について施工計画書に含め提出するものとする。
3. 主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策については、工事契約後、監督職員と協議するものとし、現場環境改善費(率)の100%を上限として設計変更の対象とする。

第43条 工期変更

1. 工期は、雨天、休日等57日を見込み、契約の翌日から令和9年1月29日までとする。
なお、休日には、日曜日、祝日、年末年始及び夏季休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

① 準備期間	60日間
② 後片付け期間	20日間
③ 雨休率 (実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数)	0.76 ※茨城県：猛暑日補正有り
④ 余裕期間	任意で設定可能

雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日は以下の通りである。
(当該工事の作業不能日ではない。)

イ) 1日の降雨・降雪量が10mm/日以上の日：27日間

ロ) 8時から17時までのWBGT値が31以上の時間を足し合わせた日数：6日間

(少数第1位を四捨五入(整数止め)し、日数換算した日数)

過去5か年(2021年～2025年)の気象庁(水戸観測所)及び環境省(水戸地点)のデータより年間の平均発生日数を算出(雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日)

- 著しい悪天候や気象状況より工程(官積算)で見込んでいる「天候等による作業不能日」以上に作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。
- 後片付け期間に検査に要する各種電子データの作成を行うことを想定しているが、更なる期間が必要な場合は、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。
- 本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間と実工事期間を合わせた全体工期を設定した工事であり、発注者が示した工事完了期限までの間で、受注者は工事の始期及び終期を任意に設定できる。なお、契約を締結するまでの間に、別紙様式-16により、工事の始期及び終期を通知すること。

余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

全体工期：契約締結日の翌日から令和9年1月29日まで

契約締結後において、工期の始期の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の上、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。なお、条件の変更がない場合において、契約時に設定した工期の変更は行わない。

第44条 工事工程クリティカルパスの共有

受注者は、現場着手前(準備期間内)に設計図書等を踏まえた工事工程表(クリティカルパスを含む)を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者(「発注者」又は「受注者」)を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

- ① 受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合

- ② 著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合
- ③ 工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合
- ④ 資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
- ⑤ その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

第45条 工事工程表の開示試行工事

1. 本工事は、工期設定の根拠とした工事に必要な関係機関との調整、住民合意、用地確保、法定手続きなどの進捗状況を踏まえた工事工程表を開示するとともに、設計審査会等において工事工程クリティカルパスの共有や発注者が作成する工程と受注者が作成する工事工程の照合（クロスチェック）を行うことにより、適切な工期設定の取組を行う「工事工程表の開示試行工事」である。
2. 工事契約後、設計審査会等において、「前条 工事工程クリティカルパスの共有」により作成した工事工程表を確認し、受注者・発注者間でクリティカルパスの共有を行うものとする。
3. 設計審査会等において、発注者が開示した工事工程表（別紙－5）との照合（クロスチェック）を実施し、必要に応じて工期延伸の判断について審査を行うなど、適正な工事工程の確保に努めるものとする。
4. 本試行に関するアンケート調査を実施する場合は、これに協力すること。

第46条 悪天候等により工期変更が必要となる場合の協議を簡素化する試行

1. 受注者は、著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生し、工期内に工事を完成することが困難な場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。

著しい悪天候とは、当該工事の工期月の雨休率が、直近5カ年における工期月の雨休率の平均値を超える場合をいう。

工期月とは、工事着手日から工事完成予定日までの期間のうちの、工期の延長変更請求時までにかかる月（ただし、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は除く）をいう。

なお、本工事の降雨降雪日は、龍ヶ崎観測所（気象庁のデータ）における1日の降雨・降雪量雨が10mm以上/日の日を想定している。

2. 本試行のアンケート調査を行う場合は、これに協力すること。

第47条 施工時期及び施工時間の変更（作業区分）

本工事の作業区分は下記によるものとする。

作業区分	施工区分	標準作業時間
昼間作業	下記を除くすべての工事	8：00 ～ 17：00
夜間作業	（桜川地区）鍬田歩道橋、若宮歩道橋 応急作業(1)-1、応急作業(2)-1 （桜川地区）山王歩道橋 応急作業(2)	20：00 ～ 5：00

上記については、積算上の条件明示であり、作業時間を指定するものではない。
各々の標準作業時間には、日々の作業準備、後片付け、KY等安全活動なども含まれる。

ただし、上記区分に変更を要する場合は監督職員と協議するものとする。

第48条 施工時期及び施工時間の変更（他機関との協議）

本工事は下記に示す内容等について関係機関と協議が必要である。

1. 協議機関

茨城県土浦土木事務所

2. 協議箇所（協議内容）

桜川橋（仮設足場の設置）

3. 制約を受ける施工内容

桜川橋（全ての作業）

仮設工及び施工ヤードに関する占有協議が必要であるため、占有協議に必要な仮設計画を監督職員へ提出するものとする。

第49条 他工事との調整

1. 下記工事の請負業者とは、現場が連続し施工が輻輳することから、施工手順・工程については十分な打ち合わせを行い、工事の円滑な進捗に努めるものとする。

2. 本工事との調整工事は以下のとおりとする。

工事名	施工範囲	工期（予定）
R 8・R 9 土浦国道管内維持工事	土浦国道出張所管内	令和8年4月～令和10年3月
R 8・R 9 土浦国道管内緑地管理工事	土浦国道出張所管内	令和8年4月～令和10年2月
R 7・R 8 岩瀬国道管内維持工事	岩瀬国道出張所管内	令和7年4月～令和9年3月
R 7・R 8 岩瀬国道管内緑地管理工事	岩瀬国道出張所管内	令和7年4月～令和9年2月

第50条 工事支障物件

本工事区間においては、工事支障物件を見込んでいない。なお、施工条件に変更を要する場合には、監督職員と協議するものとする。

第51条 概算・概略数量

1. 鍬田歩道橋及び山王歩道橋の補修内容は概略構造及び概略数量を示したものであり、詳細については監督職員の指示によるものとする。

2. 現地調査後、補修対象箇所以外に損傷や腐食の著しい箇所及び腐食の原因となる要素等が発見された場合には、監督職員に報告するものとする。

上記について、本工事での補修の有無について監督職員と協議するものとし、補修を行う場合は設計変更の対象とする。なお、補修方法については監督職員と協議の上決定するものとする。

第52条 新技術の活用「新技術の定義」

1. 本工事は、新技術活用の促進を図ることを目的とした、新技術活用工事である。

2. 新技術の定義

新技術活用の原則化における新技術の定義は以下による。

- ① 技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術
- ② 公共工事等において実用段階に達している技術

- ③ 当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術
- ④ 実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であって国により導入促進を図る技術

3. 対象とする新技術

新技術活用の原則義務化の対象とする新技術は以下のとおりとする。

- 1) 新技術情報提供システム（NETIS）登録技術
URL <https://www.netis.mlit.go.jp>
- 2) NETIS のテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術
- 3) 新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術
- 4) 新技術のニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

対象とする技術は、NETIS「マッチング」に掲載された技術のうち、「普及促進技術」に該当するものとする。

なお、NETIS 掲載期間終了技術は対象外とする。

第 5 3 条 新技術の活用

- 1. 本工事は、施工者が原則 1 技術以上を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。
- 2. 本工事において第 5 2 条 新技術の活用「新技術の定義」3. 対象とする新技術に示す 1)～4) の技術が選定されていない場合、受注者は施工に先立ち、当該工事内容について十分把握の上、新技術を原則一つ以上選定し、監督職員の承諾を得た上で活用するものとし、活用する新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載するものとする。活用する新技術が NETIS 登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとする。
- 3. 受注者は、選定した新技術が第 5 2 条 新技術の活用「新技術の定義」に示す 1)～4) のいずれの新技術であるか確認できるよう、施工計画書に記載する。
- 4. 当該技術については、設計図書等で定められた事項に係る部分でない場合は、設計変更の対象としない。
- 5. 受注者は、試行現場照会中の技術を活用する場合において当該技術の施工にあたり NETIS 申請者が実施する「試行調査」に協力するものとする。なお、試行調査に係る費用は NETIS 申請者が負担する。
- 6. 試行現場照会中の技術を活用する場合、当該工事の実施箇所において標準的に使用される技術の施工費相当額を超える費用については、試行調査に係る費用とみなし、NETIS 申請者の負担とする。
- 7. 受注者は、活用する新技術が情報種別記号「－V E」以外の NETIS 登録技術の場合は、当該技術の施工にあたり「活用効果調査」を行うものとする。「活用効果調査」は、「新技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。
- 8. 受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第 5 4 条 建設現場の遠隔臨場の実施

1. 建設現場における遠隔臨場の実施

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の

削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）と Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものとする。

なお、遠隔臨場の実施にあたっては「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（案）R5.3」を参考に実施するものとする。

URL <https://www.mlit.go.jp/tec/content/001594449.pdf>

2. 遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

3. 実施内容

（1）段階確認・材料確認、立会での確認

① 受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」を行うものとする。

② 確認実施者が現場技術員の場合、現場技術員は使用する PC にて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ等で記録し、情報共有システム（ASP）等に登録して保管する。（従来の立会資料の管理と同様とする。）

（2）動画撮影

動画撮影は、撮影者の安全を確保するため、撮影者が移動の際に横転等が考えられるいわゆる「歩きスマホ」（カメラを手にとって歩きながら撮影）での撮影はしないこと。

動画撮影は、静止して撮影又は撮影者のヘルメットや胸ポケットに付ける等の安全に配慮するものとする。

（3）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し決定するものとする。

なお、配信に利用するシステムは、「パッケージ化したシステム」、「情報共有システム（ASP）」、「Web 会議システム（teams、zoom 等）」等、何れのシステムを利用してよい。

（4）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行うものとする。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。

なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

（5）フォローアップ調査

工事完了時に別紙様式-19を監督職員へ提出するものとする。

また、遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示によるものとする。

（6）費用

遠隔臨場にかかる費用については、工事实施に必要な施工管理費として、全必要額を技術管理費に積み上げ計上し、設計変更するものとする。

なお、機器の手配は基本的にリースとし、その賃料を計上するものとするが、やむを得ず購入せざるを得ない機器がある場合は、その購入費に、機器の耐用

年数に対する使用期間（日単位）割合を乗じた分を計上するものとする。また、受注者が所持する機器を使用する場合も、基本的には同様の考え方とするものとする。

（７）不正行為

遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、「建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和 7 年 12 月 12 日（国不建第 121 号）」等に従い、監督処分を実施する場合がある。

（８）通信環境

遠隔臨場の実施にあたり、現場の通信環境が不良と確認された場合は、対応策を検討の上、監督職員と協議を行うものとする。

第 5 5 条 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

1. 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

「遠隔臨場を活用した工事検査」は、受注者における「工事検査に伴う移動時間の削減や工事関係書類の簡素化」や発注者（監督職員・検査職員）における「現場実地（現場臨場）の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）と Web 会議システム等を介して工事实施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査項目を遠隔で行うものである。なお、遠隔臨場による工事検査は、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』の内容に従い実施する。

2. 遠隔臨場を活用した工事検査の対象

遠隔臨場を活用した工事検査は、完成検査、中間技術検査、既済部分検査、完済部分検査における、工事实施状況、出来形、品質、出来ばえの各検査項目を対象とし、以下の表に示す。また、全ての検査を対象とするが、現場条件や、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ、従来方法（対面書類検査、現場実地検査）を選択することも可能である。

凡例 ○：遠隔臨場による工事検査の対象

	工事实施 状況	出来形		品質		出来ばえ	
	書類	書類	実施	書類	実施	書類	実施
完成検査	○	○	○	○	○	○	○
中間技術検査	○	○	○	○	○	○	○
既済部分検査	○	○	○	○	○	○	○
完済部分検査	○	○	○	○	○	○	○

3. 遠隔臨場を活用した工事検査を適用する検査項目

現場条件により遠隔臨場による工事検査の適応性が一致しない場合も想定されることから、検査項目での適用・不適用については、監督職員が検査職員と調整・決定し、受注者に遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目を連絡する。遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目については、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ判断する。

4. 実施内容

（１）技術検査、工事検査での実施

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）によ

り取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査を実施するものである。

(2) 機器の準備

遠隔臨場による工事検査に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員と協議し決定するものとする。

(3) 遠隔臨場による工事検査を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場による工事検査が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で予備日を取り決めて検査日を連絡する。

(4) 効果の検証

遠隔臨場による工事検査を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

(5) 費用

遠隔臨場による工事検査にかかる費用については、受発注者間の協議を踏まえ、技術管理費に積上げ計上する。なお、監督業務で遠隔臨場を実施する工事については、遠隔検査を行うために追加で要する費用が生じた場合に監督職員と協議するものとする。

(6) 不正行為

遠隔臨場による工事検査において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和 7 年 12 月 12 日（国不建第 121 号）』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第 56 条 契約後 V E 方式

1. 定義について

「V E 提案」とは、契約書第 19 条の 2 の規定に基づき、設計図書に定める工事の目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に行う提案である。

2. V E 提案の意義及び範囲について

1) 受注者が V E 提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のものとする。

2) 以下の提案は、V E 提案の範囲に含まないものとする。

1) 施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。

2) 契約書第 18 条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。

3) 提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。

3. V E 提案書の提出について

1) 受注者は、前項の V E 提案を行う場合は、次に掲げる事項を V E 提案書（別紙様式－01～04）に記載し、発注者に提出しなければならない。

1) 設計図書に定める内容と V E 提案の内容の対比及び提案理由

2) V E 提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）

3) V E 提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額及び算出根拠

4) 発注者が別途発注する関連工事との関係

5) 工業所有権等の排他的権利を含む V E 提案である場合、その取扱いに関する事項

- 6) その他 V E 提案が採用された場合に留意すべき事項
- 2) 発注者は、提出された V E 提案書に関する追加的資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。
- 3) 受注者は、前項の V E 提案を契約の締結日より、当該 V E 提案に係る部分の施工に着手する 35 日前までに、発注者に提出できるものとする。
- 4) V E 提案の提出費用は、受注者の負担とする。
4. V E 提案の審査について
提出された V E 提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ設計図書に定める工事の目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、V E 提案として採用されることを原則として審議を行い、当該提案の採否を決定するものとする。
5. V E 提案の採否について
V E 提案の採否について、原則として、V E 提案の受領後 14 日以内に書面（別紙様式－05）により通知するものとする。ただし、受注者の同意を得た上でこの期間を延長することができるものとする。また、V E 提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。
6. V E 提案を採用した場合の設計変更等について
 - 1) V E 提案を採用した場合において、必要があるときは、発注者は設計図書の変更を行わなければならない。
 - 2) 前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、発注者は、必要があるときは請負代金額を変更しなければならない。
 - 3) 前項の変更を行う場合においては、V E 提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の 10 分の 5 に相当する金額（以下「V E 管理費」という。）を削減しないものとする。
 - 4) V E 提案を採用した後、契約書第 18 条の条件変更が生じた場合、発注者が V E 提案に対する変更案を求めた場合、受注者はこれに応じるものとする。なお、V E 管理費については、原則として変更しないものとする。
7. V E 提案の活用と保護について
評価の結果、当該 V E 提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るものとする。その場合、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、当該権利の保護に留意するものとする。
8. 責任の所在について
発注者が V E 提案等を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、V E 提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。

第 57 条 生産性向上チャレンジ工事

1. 試行の実施

本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組みを推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。

2. 試行の内容

工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組みを実施することができる。

本取組みを実施する場合は、施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組内容、②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等について、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。

なお、「技術提案で提案済みの内容」及び「特記仕様書第52条 新技術活用「新技術の定義」」において採用した取組については本試行の対象外とする。

3. 工事成績評定

施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。

4. 本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。

第58条 出来高部分払方式

本工事の部分払は、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施し、円滑かつ速やかな工事代金の流通を確保することによって、より双務性及び質の高い施工体制の確保を目指すため、「出来高部分払方式実施要領」〔国土交通省 HP https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html 参照〕に基づき行うものとする。

第59条 施工箇所が点在する工事の適用

本工事は、施工箇所が点在する工事であり、土浦地区（桜川橋(下り)）、桜川地区（鉾田歩道橋、若宮歩道橋）、桜川地区（山王歩道橋）で施工を行う工事である。

第60条 情報管理体制の確保

受注者は、本工事に関して発注者から貸与された情報その他知り得た情報であって、発注者が保護を要さないことを同意していない一切の非公表情報（以下「要保護情報」という。）を取り扱う場合は、当該情報を適切に管理するため、土木工事共通仕様書 1-1-1-6 に基づく施工計画書の現場組織表において、別紙様式-18を参考に、情報取扱者名簿及び情報管理体制図を記載し、発注者の同意を得なければならない。また、記載内容に変更が生じた場合も、同様に作成の上、あらかじめ発注者の同意を得なければならない。

- ・受注者は、要保護情報を情報取扱者以外には秘密とし、また、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。
- ・受注者は、要保護情報を本工事の終了後においても第三者に漏らしてはならない。
- ・要保護情報は、アクセス制限、パスワード管理等により適切に管理するとともに、発注者の許可なく複製・転送等しないこと。
- ・受注者は、本工事完了時に、要保護情報について、発注者への返却若しくは消去又は破棄を確実に行うこと。
- ・受注者は、要保護情報の外部への漏えい若しくは目的外利用が認められ又そのおそれがある場合には、これを速やかに発注者に報告すること。なお、報告がない場合でも、情報の漏えい等の懸念がある場合は、発注者が行う報告徴収や調査に応じること。

第2章 個人情報情報の取り扱いについて

第61条 基本的事項

受注者は、個人情報保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第2項第1号の規定に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

第62条 秘密の保持

受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

第63条 取得の制限

受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

第64条 利用及び提供の制限

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

第65条 複写等の禁止

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

第66条 再委託の禁止

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）には、受注者は当該第三者に対して、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第2項第4号に基づく個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じさせなければならない。

第67条 事案発生時における報告

受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

第68条 資料等の返却等

1. 受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。なお、発注者の指示又は承諾により個人情報が記録された資料等を複写等した場合には、確実にそれらを廃棄又は消去するとともに、証明書（別紙－2）を発注者に提出しなければならない。
2. 前項の規定は、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）において準用する。

第69条 管理の確認等

発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

第70条 管理体制の整備

受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

第71条 従事者への周知

受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

■ 第2編 土木工事共通編

第1章 総則

第72条 現場技術員

本工事は、現場技術員の配置対象工事であり、現場技術業務を日本振興株式会社（土浦国道出張所）及び関東建設マネジメント株式会社（岩瀬国道出張所）に委託している。

第73条 施工体制調査員

本工事は、現場における施工体制の点検補助を関東建設マネジメント株式会社に委託している。また、本工事は施工体制の点検を担当する施工体制調査員の氏名は、別途監督職員より通知する。

なお、施工体制調査員は、工事の情報共有システム（ASP）により電子書類を閲覧し、点検を行うため、施工体制調査員を情報共有システム（ASP）のユーザーに登録するものとする。（「閲覧のみ可能」で登録）

第74条 施工体制の点検

1. 受注者は「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成12年法律第127号 最終改正令和6年12月13日）第15条3により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではない。
2. 施工体制の点検員は当該工事の監督職員、施工体制調査員及び発注担当事務所の職員である。
3. 施工体制調査員は、業務証明書を携帯し、胸に委託業務名、委託先、業務職（施工体制調査員）、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
4. 当該工事の監督職員及び発注担当事務所の職員は、所属、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
5. 施工体制調査員は、施工体制の点検を行う者で、指示等の権限は有しない。
6. 施工体制調査員は、電子書類の点検を工事の情報共有システム（ASP）により「閲覧」し、点検する。

7. 施工体制調査員は、第1回目の現地点検は現地で点検するが、以降の点検は、映像により点検が可能な項目は、必要に応じ、工事の受注者が導入しているWEB会議や遠隔臨場システムを活用し、点検することを可能とする。

ただし、立会や打合せ等においてWEB会議や遠隔臨場システムを導入していない工事や現地での点検を希望する工事は、従来通り、現地で点検する。

第75条 品質証明

本工事は、品質証明対象工事とする。なお、提出様式は別紙様式－12によるものとする。

第76条 工事完成図書の納品

1. 本工事は電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「工事完成図書の電子納品等要領(令和5年3月)：(以下「要領」という。)」に基づいて作成した電子データを指す。

「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する。

なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】(令和6年3月)」を参考とするものとする。

2. 本工事は「オンライン電子納品実施要領」に基づき、オンライン電子納品を行うものとする。

オンライン電子納品は、発注者が用意した電子納品保管管理サーバへのオンラインによる納品を原則とする。

なお、オンラインによる納品が実施できない場合は、監督職員と協議の上、電子媒体に格納して納品するものとする。

3. 成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施したうえで提出すること。

第77条 技術検査

1. 本工事は、中間技術検査対象工事とし、実施回数は2回以上を原則とする。なお、工事成績優秀企業の適用工事にあたっては、減免することが出来るものとする。但し、低入札価格調査制度対象工事となった工事及び監督強化価格対象工事については、減免の適用の対象外とする。

2. 中間技術検査の実施時期は、完成、既済部分(完済を含む)の検査時期及び当該工事の主要工種を考慮し、施工上の重要な変化点で行うことを原則とする。実施時期は、監督職員が選定するものとし、監督職員は、受注者に対して書面をもって検査日及び検査職員名を通知するものとする。

3. 中間技術検査は、上記を標準として実施することとするが、中間技術検査の主旨を踏まえ、現場条件、工事規模、内容、工期等を考慮して、実施時期、実施回数を変更することが出来る。

第78条 書類限定検査

1. 本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と技術検査官の重複確認廃止の徹底及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「書類限定検査」の対象である。

２．書類限定検査とは、検査時に下記の１０書類に限定して資料検査を行うものとする。

①施工計画書	⑥出来形管理図表
②施工体制台帳(下請引取検査書類を含む)	⑦品質管理図表
③工事打合せ簿(協議)	⑧品質規格証明資料
④工事打合せ簿(提出)	⑨品質証明書
⑤工事打合せ簿(承諾)	⑩工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

- ・「低入札価格対象工事」又は「監督体制強化工事」は対象外
- ・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事は対象外

３．実施状況や改善点等を把握するためのアンケートに協力する。

第７９条 ウイルス対策

受注者は、電子納品時のみならず、監督職員に工事に関する事項について電子データを提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出しなければならない。また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）しなければならない。

第２章 一般施工

第８０条 仮設工

図面等で指定している仮設工は、その標準を示したものであり、現地の状況を十分把握し安全性、細部構造等の検討を行い、工事の施工については、受注者の責任において実施しなければならない。なお、現地の状況に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第８１条 廃棄物の処理について

- １．塗膜剥離剤、ケレン等の廃材の運搬処分は当初計上していないため、監督職員と協議のうえ、設計変更の対象とする。
- ２．橋面防水に伴う廃材の運搬処分は当初計上していないため、監督職員と協議のうえ、設計変更の対象とする。
- ３．既設舗装剥ぎ取りに伴う廃材の運搬処分は当初計上していないため、監督職員と協議のうえ、設計変更の対象とする。

第８２条 高架橋下への搬入

運搬路に使用した既設道路の舗装等に破損が生じた場合は、速やかに監督職員と協議し、補修しなければならない。なお、補修は設計変更の対象とする。

■ 第 3 編 道路編

第 1 章 道路修繕

第 8 3 条 橋梁塗装工

塗装の種類、塗装回数及び各層毎の標準使用量は下表のとおりとする。

外面 塗装仕様（Rc-Ⅱ 塗装系）

桜川橋：亀裂補修工、当て板補修工

塗装区分	工 程	塗料種類	塗装回数	標準使用量	摘 要
橋梁塗装	素地調整	2 種ケソ	-	-	
	防食下地	有機ジンクリッチペイント	1回	600g/m ²	スプレー
	下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	2回	240g/m ² 240g/m ²	スプレー
	中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料	1回	170g/m ²	スプレー
	上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料	1回	140g/m ²	スプレー

桜川橋：紫外線硬化型 F R P シート工

塗装区分	工 程	塗料種類	塗装回数	標準使用量	摘 要
橋梁塗装	素地調整	2 種ケソ	-	-	
	中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料	1回	170g/m ²	スプレー
	上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料	1回	140g/m ²	スプレー

連結部 塗装仕様（F-11）

桜川橋：亀裂補修工、当て板補修工

塗装区分	工 程	塗料種類	塗装回数	標準使用量	摘 要
橋梁塗装	素地調整	動力工具処理 ISO St3	-	-	
	ミスコート	変性エポキシ樹脂塗料	1回	130g/m ²	はけ・ローラー
	下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料	2回	500g/m ² 500g/m ²	はけ・ローラー
	中塗り	ふっ素樹脂塗料	1回	140g/m ²	はけ・ローラー
	上塗り	ふっ素樹脂塗料	1回	120g/m ²	はけ・ローラー

第 8 4 条 橋面防水工

1. プライマーは瀝青ゴム系接着剤とし、塗布量は 0.4 kg/m^2 を標準とする。
2. 目地材の試験は舗装調査・試験法便覧に準ずる。
3. 目地材は使用以前に品質証明書を監督職員に提出し、承諾を得なければならない。
4. 防水工の材料は、車道部；シート系防水材・歩道部；塗膜系防水材とし、一般事項、試験及び施工方法については「道路橋床版防水便覧」（平成 19 年 3 月日本道路協会）によるものとする。
5. アスファルト塗膜系防水材の標準的な品質は下表のとおりとする。

項 目	標 準 値	試験方法
針入度（円すい針） mm	1～5	舗装試験法便覧 4-12-2
軟化点 °C	80以上	JIS K 2207
引張強さ (23°C) N/mm ²	0.35以上	JIS A 6021
破断時の伸び率 %	300以上	JIS A 6021
耐アルカリ性 (23°C)	異常のないこと	JIS K 5600-6-1
耐塩水性 (23°C)	異常のないこと	JIS K 5600-6-1

6. 目地材の標準的な品質は、下表のとおりとする。なお、試験は「舗装調査・試験法便覧」（日本道路協会平成 19 年 6 月改訂）によるものとする。

項目	標準値	試験方法
針入度（円すい針） mm	6 以下	舗装調査・試験 法便覧
流 動 mm	5 以下	
引張量 mm	3 以上	

第 8 5 条 沓座モルタル補修

沓座モルタルの補修に関して、支承下面のモルタルにひび割れ等が生じている場合は対処方法等について監督職員と協議するものとする。

第 8 6 条 無収縮モルタル

無収縮モルタル（セメント系プレミックスタイプ）の配合は下表のとおりとする。
(1m³ あたり)

名 称	規 格	単 位	数 量
無収縮材	セメント系プレミックスタイプ	kg	1875
水		L	338

第 8 7 条 橋梁補修に伴う資材及び歩掛

下記に記載の資材及び歩掛に関して、本工事にて施工するものとするが、当初計上していないため、監督職員と協議のうえ、設計変更の対象とする。

【桜川橋】

資材 伸縮装置非排水化における乾式止水材の付属品、排水装置補修工、当て板補修の金属パテ、亀裂補修工における硬質樹脂充填、仮設工（高所作業車）

歩掛 排水装置補修工、当て板補修の金属パテ、亀裂補修工における硬質樹脂充填
現場溶接、磁粉探傷試験、仮設工（高所作業車）

【鉾田歩道橋】

資材 橋面防水における成型目地材、シール材、バックアップ材、矯正補修
歩掛 シール材充填、矯正補修

【若宮歩道橋】

資材 金属パテ、ボルト再設置、排水措置補修
歩掛 金属パテ、ボルト再設置、排水措置補修

【山王歩道橋】

資材 橋面防水における成型目地材、シール材、バックアップ材、高欄支柱、添架
物取替
歩掛 シール材充填、部分塗装、高欄支柱、添架物取替

第 2 章 応急作業

第 88 条 応急作業

1. 歩道橋の健全性を保つための補修作業を行うものとする。
2. 作業箇所及び作業内容については下記を予定しているが、事前に発注者と受注者で協議し、協議結果に基づき発注者より指示するものとする。
 - 1) 鉾田歩道橋（桜川市鉾田地先）
 - 2) 若宮歩道橋（桜川市岩瀬地先）
 - 3) 山王歩道橋（桜川市東桜川地先）塗膜の劣化が著しい箇所の局所的な塗装塗替等
また、応急作業は日単位（作業時間 8 時間）とし、当初計画した作業が 8 時間
かからずに終了した場合は、通行空間の清掃などを所定の作業時間内実施する事
とする。なお、作業時間には準備、後片付けを含むものとする。
3. 上記 2 の事項については、悪天候等により作業が 1 日によらない場合は、作業
を取りやめる前に監督職員へ状況報告を行い了承を得るものとする。これにより、
作業が 1 日未満となる場合は、時間換算により積算を行う。
4. 応急処理日報（別紙様式－20）は作業後に監督職員へ提出すること。
応急処理日報には、作業員数、使用機械及び使用材料をその日毎に記載するととも
に、写真を添付すること。

第 89 条 応急作業の数量

応急作業は、「応急処理内訳書」（別紙様式－21）の作業数量を見込んでいる。
なお、作業等に使用する材料、機械経費は当初計上していないため、監督職員と協議
のうえ設計変更の対象とする。

第 3 章 その他

第 90 条 震災対策

1. 地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。
2. 地震注意情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた
適切な保全処置等を講ずるものとする。

3. 工事箇所において震度4以上の地震が発生した場合は、土・日曜日、祭日及び天候等による休工日に係わらず、ただちに現場及び工事関連施設の状況確認を行い、概ね1時間以内に異常の有無を監督職員に報告するものとする。

第91条 道路施設基本データの作成

本工事完成時には、以下に示す『道路施設基本データ』を作成し、監督職員に提出するものとする。ただし、本工事に該当しない施設の基本データは作成しないものとする。

なお、完成後でも、発注者は受注者に対して、『道路施設基本データ』の内容について、説明を求めることがある。

1. 道路施設基本データの種類

区分	施設番号	施設名	区分	施設番号	施設名
道路構造	C020	縦断勾配	付 属 物 お よ び 付 属 施 設	E060	道路情報板
	C030	平面線形		E070	交通遮断機
	C050	舗装		E080	I . T . V
	C060	道路交差点		E090	車両感知器
	C070	鉄道交差点		E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行車道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用自歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自動車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構造物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路BOX等		E220	C A B 電線共同溝
	D090	横断BOX等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D120	擁壁		E250	遮光フェンス
	D130	スノーシェルター		E270	流雪溝
	E010	防護柵		E310	防雪林
	E020	道路照明		E320	路側放送
	E030	視線誘導標（反射式）		E330	光ケーブル施設
	E040	視線誘導標（自光式）		E340	道路反射鏡
	E050	道路標識		E350	ビーコン

2. 道路施設基本データの作成は、別に定める『道路管理データベースデータ作成マニュアル（案）』によるものとする。

3. 道路施設基本データは、『道路施設基本データ作成システム』で作成する。
4. 道路施設基本データ作成にあたって工事番号は、CORINS登録時の「工事契約コード番号」とする。
5. 道路施設基本データに係わる以下のものを電子データにて提出すること。
 - ①道路施設台長作成総括表
 - ②道路施設基本データ総括表
 - ③道路施設基本データ一覧表
 - ④道路施設台帳チェックシート
 - ⑤「道路工事完成図等チェックプログラム」によるチェック結果
 - ⑥「電子納品チェックプログラム」によるチェック結果
 - ⑦工事数量総括表

第92条 道路橋維持管理資料の作成

1. 本工事において施工した橋梁について、施工に関する記録などを保存するため「道路橋関連資料の保存要領（案）」に基づき電子媒体を作成し、監督職員に提出すること。
2. 本工事において作成する資料の対象は、「道路橋関連資料の保存要領（案）」に基づき監督職員の指示によるものとする。なお、作成に要する費用については、当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第93条 全国道路施設点検データベース（道路橋）への登録について

1. 受注者は、必要に応じ管理運営団体の定める方法によりユーザー登録を行った上で、施工結果等のデータを、全国道路施設点検データベース（道路橋）（以下「点検DB（道路橋）」）に登録する。

登録するデータは以下の通りとし、事前に監督職員と協議しなければならない。登録するデータに係る権利は、第94条に定めるとおりとする。なお、点検DB（道路橋）の管理運営団体に支払う登録料については設計変更の対象とする。

【全国道路施設点検データベース（道路橋）への登録データ】

「補修・補強工事調書の記入要領（案）」に示される補修・補強工事調書データ、および「道路管理データベース データ作成マニュアル（案）」の塗装歴（D019）、補修歴（D01A）データ

2. 受注者は、状況写真や地形図を含む一般図などの画像データ等において、個人情報が表示されないよう加工を施したものを使用するとともに、点検DB（道路橋）へ登録するデータに個人情報が含まれないことを確認しなければならない。また、登録するデータに個人情報が含まれないことを確認する手法について施工計画書に明記し、個人情報が含まれないことを確認した書類として「別紙ー7」に示すチェックリストを提出すること。

なお、受注者と発注者の双方がチェックリストにより、個人情報が含まれないことを確認した後でなければ、データ登録を行ってはならない。

第94条 登録するデータに係る権利について

1. 本工事の成果として点検DB（道路橋）へ登録されるデータ及びこれに係る特許、実用新案登録、意匠登録等を受ける権利及び当該権利に基づき取得する産業財産権並びに著作権（著作権法第27条及び第28条に定める権利を含む。）その他の知的財産権（ノウハウ等に関する権利を含む。）は、すべて登録・確定と同時に発注者に帰属する。

2. 点検 DB（道路橋）へ登録されるデータに係る知的財産権のうち、受注者又は第三者が従前から保有していた知的財産権が含まれる場合、受注者は、発注者、発注者が指定する者及び点検 DB（道路橋）を利用する者（以下「発注者等」という。）に対し、当該知的財産権の利用を許諾し、又は許諾させるものとする。
3. 受注者は、自ら（受注者に所属する者を含む。）又は第三者をして、発注者等に対し、点検 DB（道路橋）へ登録されるデータを構成する著作物に係る著作権人格権を行使せず又は行使させない。
4. 前三項の場合において、受注者は、発注者に知的財産権を帰属させ若しくは発注者が適法に知的財産権を行使するため、又は発注者等による点検 DB（道路橋）の運用及び利用のために必要となる一切の手續（第三者からの許諾取得を含む。）を履践するものとする。
5. 発注者及び受注者は、前四項に定める権利の帰属及び不行使並びに手續履践の対価が委託料に含まれることを相互に確認する。
6. 受注者は、点検 DB（道路橋）へ登録されるデータが知的財産権を含む第三者の権利を侵害しないことを表明及び保証し、受注者がかかる表明保証に違反したことにより発注者が第三者から訴訟を提起され又は権利を主張される等の紛争が生じた場合には当該紛争の解決に協力するとともに、発注者に生じた損害、損失及び費用（合理的な範囲の弁護士費用を含む。）について、発注者に対してこれを補償するものとする。

第 9 5 条 「問合せ番号」及び「路上規制情報システム」

受注者は、「路上規制情報提供システム」への入力を行うものとし、別途監督職員が通知する「問合せ番号」を工事情報看板及び工事説明看板に掲示するものとする。

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第 9 6 条 工事現場における説明性の向上

受注者は、事業名、事業の目的・内容・効果、工事名、工事内容、連絡先を記した工事説明書を作成し、近隣住民等から事業内容等の説明を求められた場合は、工事の安全確保に支障のない範囲において、当該工事説明書を配布する等、工事現場の説明性の向上を図るものとする。

また、受注者は、工事現場作業員に対し、工事内容及び事業目的・効果を周知するものとする。（別紙様式－ 1 7）

明示項目及び明示事項

明示項目	明示事項	記載条項
工程関係	■ 施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合は、制限される施工内容、施工時期、施工時間及び施工方法。 ■ 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容、成立見込み時期 ■ 余裕工期を設定して発注する工事については、工事の着手時期。 ■ 設計工程上見込んでいる休日日数等作業不能日数。	第 4 7 条 第 4 8 条 第 4 3 条 第 4 3 条
公害関係	■ 工事に伴う公害防止（騒音、振動、粉塵、排出ガス等）のため、施工方法、建設機械・設備、作業時間等を指定する必要がある場合は、その内容。	第 3 8 条
工事用道路関係	■ 搬入路の使用後及び使用後の処置が必要である場合は、その処置内容。	第 8 2 条
建設副産物関係	■ 建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場等の処理条件。 なお、再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合は、その受入場所距離、時間等の処分条件。	第 2 4 条 第 8 1 条
工事支障物件等	■ 地上、地下等の占有物件の有無及び占有物件等で工事支障物が存在する場合は、支障物件名、管理者、位置、移設時期、工事方法、防護等。	第 5 0 条

概略工事工程表

工事名： R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事

工 種	単位	数量	令和8年度								備 考
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
準備	式	1									・80日間
【桜川橋(下り)】											
橋梁付属物工	式	1									伸縮継手工(1Pt)
橋梁補修工	式	1									亀裂補修工、当て板補修工、支承補修工、ひび割れ補修工、断面補修工、紫外線硬化型FRPシート工 各々(1Pt)
仮設工	式	1									足場工(1Pt)
【鉢田・茗宮歩道橋】											
舗装工	式	1									橋面防水工(1Pt)、薄層カラー舗装工(1Pt)
橋梁補修工	式	1									シール材設置工(1Pt)
構造物撤去工	式	1									構造物取壊し工(1Pt)、運搬処理工(1Pt)
応急処理工	式	1									応急処理作業工(1Pt)
【山王歩道橋】											
舗装工	式	1									橋面防水工(1Pt)、薄層カラー舗装工(1Pt)
橋梁補修工	式	1									モルタル充填工(1Pt)、シール材設置工(1Pt)紫外線硬化型FRPシート工(1Pt)
構造物撤去工	式	1									構造物取壊し工(1Pt)
応急処理工	式	1									応急処理作業工(1Pt)
後片づけ	式	1									・20日間
制約条件	お盆	－									・8月中旬
	関係機関協議	－									・7月 河川管理者
	年末年始										・12月下旬～1月上旬
雨休率の適用			準備・後片づけを除く、雨休率（猛暑日補正有り）を適用								

全国道路施設点検データベースにおける個人情報掲載のチェックリスト

1. 業務等名称

2. 受注者名

3. 個人情報掲載の確認結果【受注者】

☐ 個人情報の掲載がないこと／記載された個人情報のすべての削除を確認済

4. 発注担当課

5. 個人情報掲載の確認結果【発注者】

☐ 個人情報の掲載がないこと／記載された個人情報のすべての削除を確認済

〇〇〇〇工事説明書

工 事 名	〇〇〇〇工事
発注者名	国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所
請負者名	株式会社 △△建設
工 期	令和〇年〇月〇日～ 令和〇年〇月〇日
事 業 名	〇〇整備事業
事業の概要及び整備効果	
当該事業は、・・・を目的に、・・・・・・	
工事内容	
当該工事は、上記〇〇整備事業（延長〇〇ｋｍ）の内、〇〇ｋｍを整備する工事であり、主な工事内容としては、・・・・・・ なお、〇〇工の施工においては、〇時～〇時まで片側１車線規制により・・・	
連絡先	
発 注 者	受 注 者
関東地方整備局 常陸河川国道事務所 道路管理第二課 TEL：０２９－２４０－４０７３	株式会社 △△建設 〇〇現場事務所 TEL：〇〇〇－〇〇〇－〇〇〇〇

別紙様式－ 2 0

応急処理日報											R 7 国道 6 号 桜川橋（下り）他歩道橋補修工事							
主 任 監督員		監督員		現 場 技術員		現 場 代理人		作 業 年 月 日			天 候							
											晴れ		曇り		雨		雪	
作業場所・内容 クラフ°(A)						作業場所・内容 クラフ°(B)						作業場所・内容 クラフ°(C)						
場所						場所						場所						
内容						内容						内容						
人数						人数						人数						
作業指示者						作業指示者						作業指示者						
作 業 人 員																		
職 種		人数	1 人 当 り 作 業 時 間				休憩時間	前日の夜間の 実作業時間	時間外計		時間内計							
			作業開始	～	作業終了	計			平日	休日	平日	休日						
A				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
B				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
C				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
				～		0:00												
合 計																		
	土木一般世話役				時間外平日	時間外休日	時間内平日	時間内休日			時間外平日	時間外休日	時間内平日	時間内休日				
	特殊作業員				0:00	0:00	0:00	0:00	特殊運転手			0:00	0:00	0:00	0:00			
	普通作業員				0:00	0:00	0:00	0:00	橋りよう世話役			0:00	0:00	0:00	0:00			
	一般運転手				0:00	0:00	0:00	0:00	橋りよう特殊工			0:00	0:00	0:00	0:00			
使 用 機 械																		
	番 号	機械名称	規格	摘要	台数	運転時間		運転日数										
						1台当り	総 計											
A																		
B																		
C																		

別紙様式－20

使 用 材 料					
	番号	使用材料	規格	単位	数量
A					
B					
C					

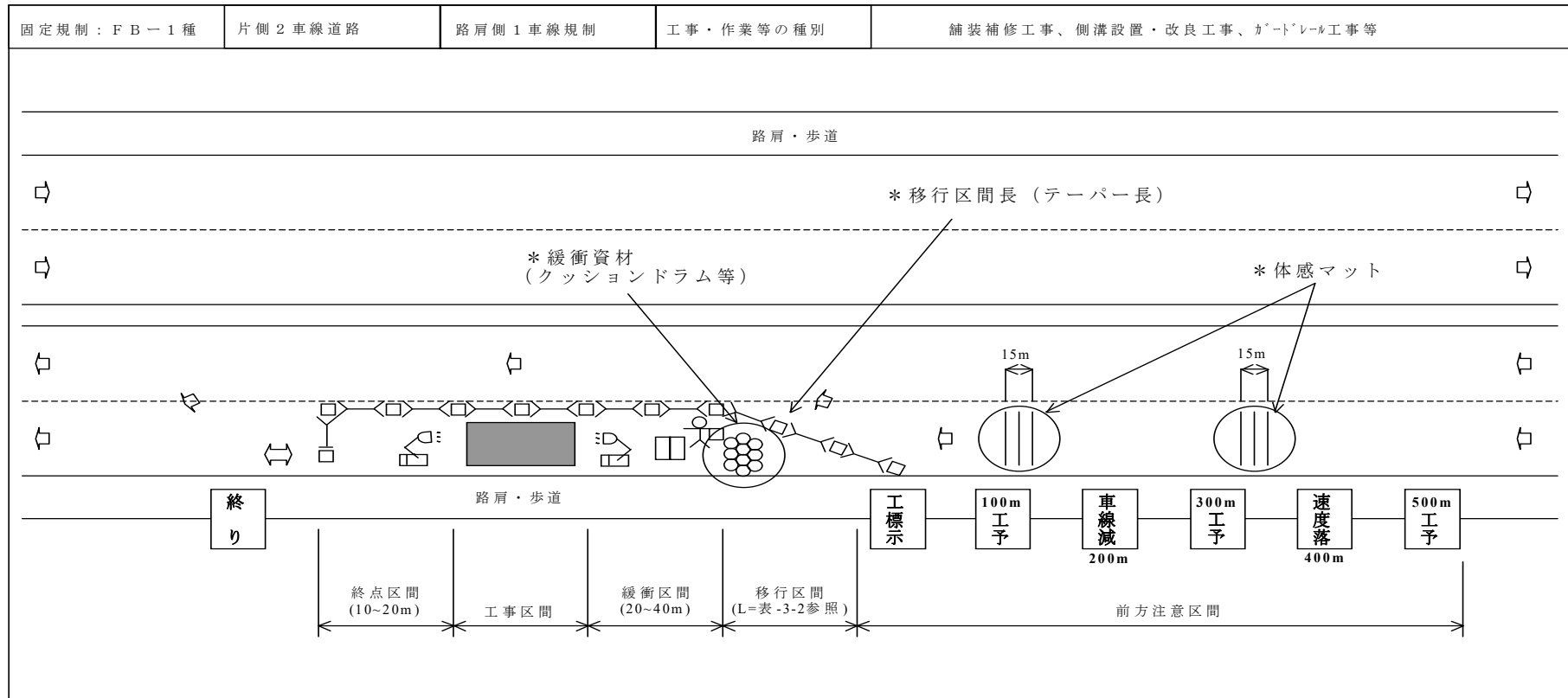
応急処理内訳書(鍬田歩道橋、若宮歩道橋)

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			昼間	夜間	
応急作業	橋りょう世話役	人	10	4	
	橋りょう特殊工	人	10	4	
	橋りょう塗装工	人	80	10	
	土木一般世話役	人	10	4	
	特殊作業員	人	10	4	
	普通作業員	人	10	4	

応急処理内訳書（山王歩道橋）

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			昼間	夜間	
応急作業	橋りょう世話役	人	5	2	
	橋りょう特殊工	人	5	2	
	橋りょう塗装工	人	40	5	
	土木一般世話役	人	5	2	
	特殊作業員	人	5	2	
	普通作業員	人	5	2	

保安施設設置標準図：参考例

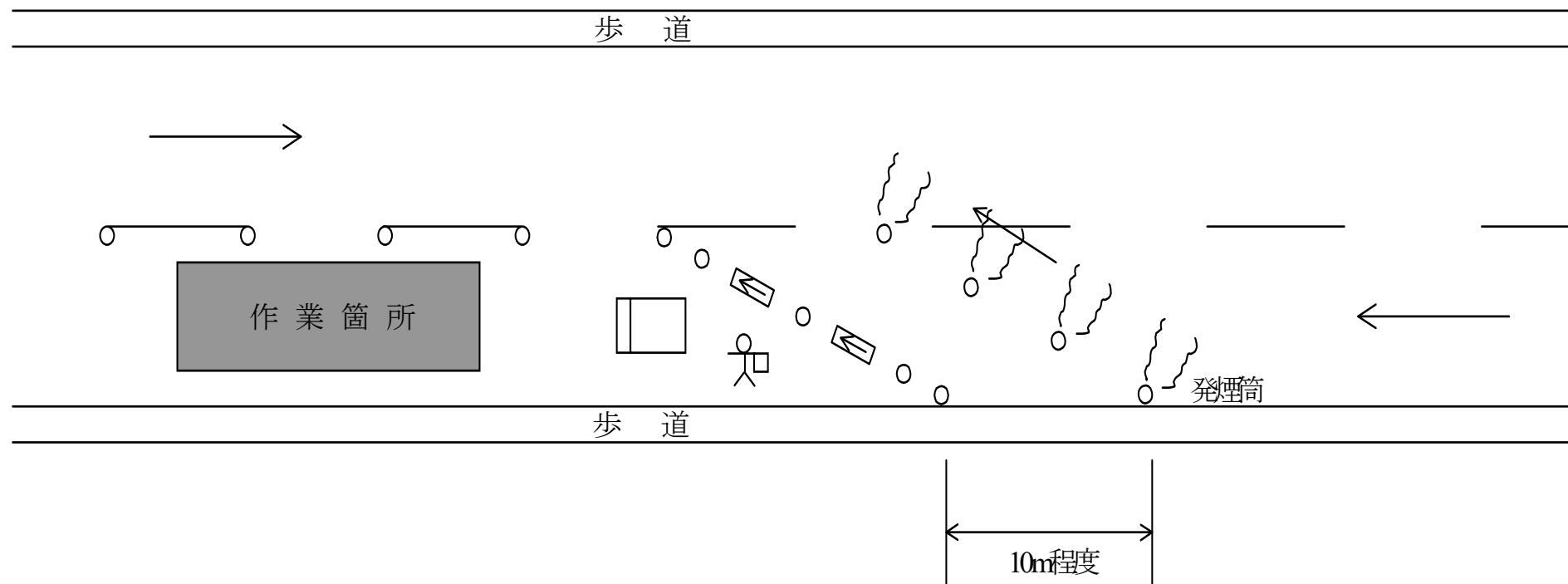


※ 1 「交通誘導ロボット」、「標識車の追加」については必要に応じ設置する。

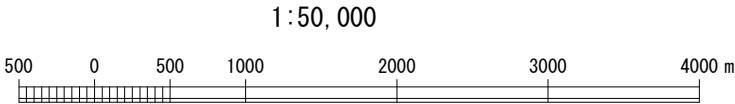
※ 2 「道路工事の安全施設設置要領(案)平成 8 年 3 月(財)道路保全技術センター」より抜粋

参考図

規制区間と発煙筒との関係

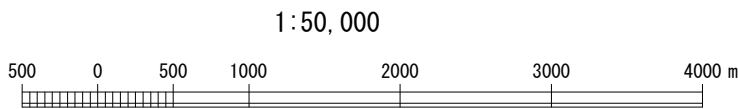


位置図(1) S=1:50,000



工 事 名		R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事							
図 面 名		位置図(1)							
縮 尺		S=1:50,000		図面番号		40 の 1			
年 月 日		令和 8 年 4 月 日							
設計会社名		株式会社エイト日本技術開発 八千代エンジニアリング株式会社 三井共同建設コンサルタント株式会社							
所		副		課		係		担	
長		所		長		長		当	
事務所名		国土交通省 常陸河川国道事務所							

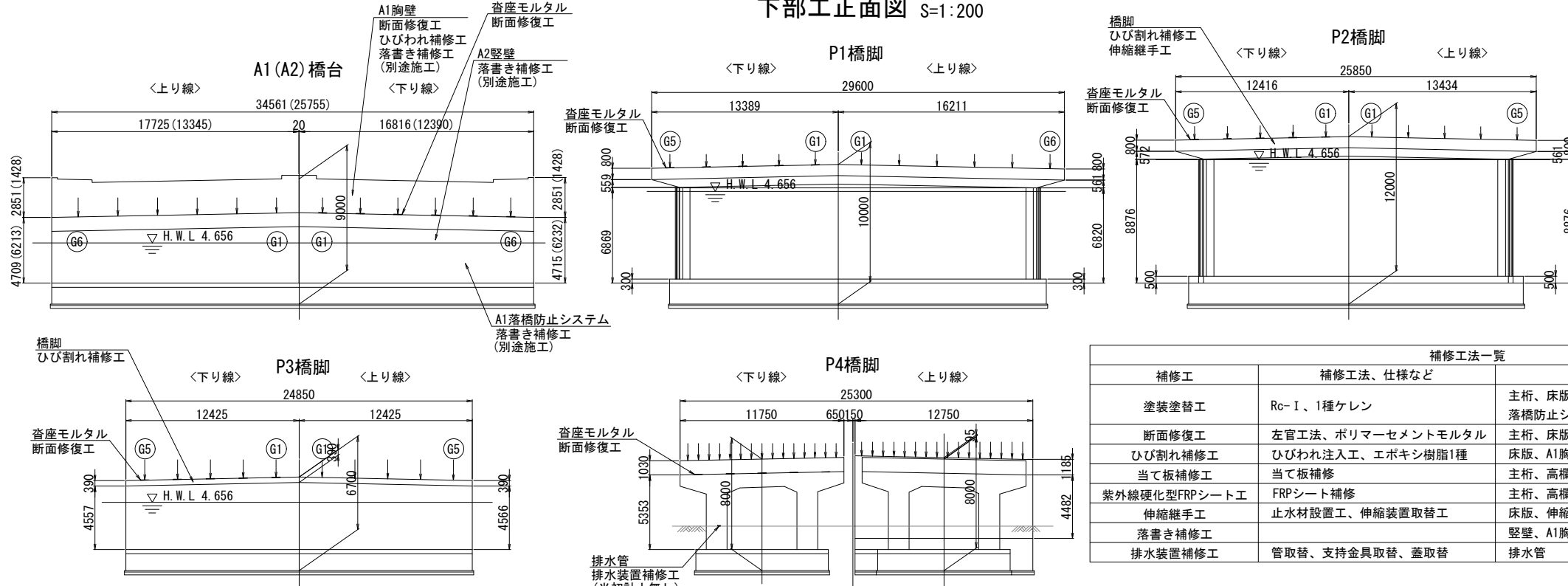
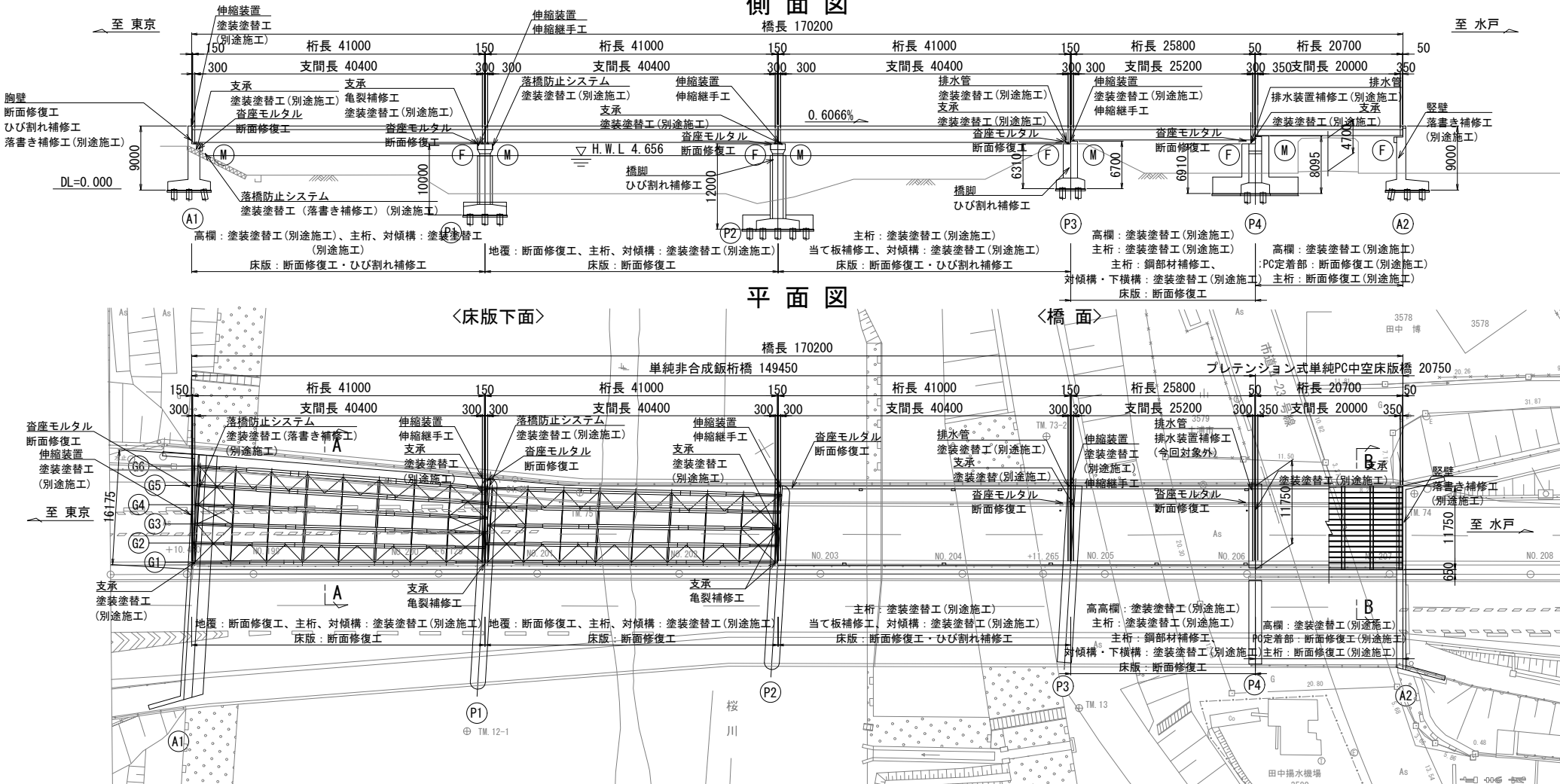
位置図 (2) S=1:50,000



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

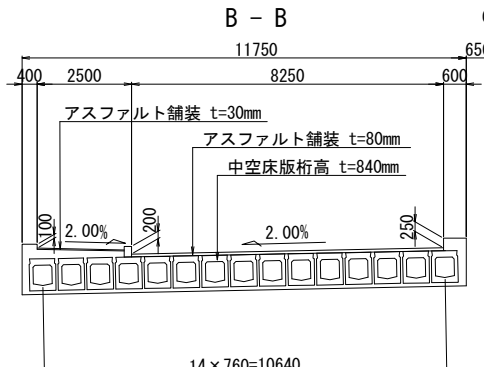
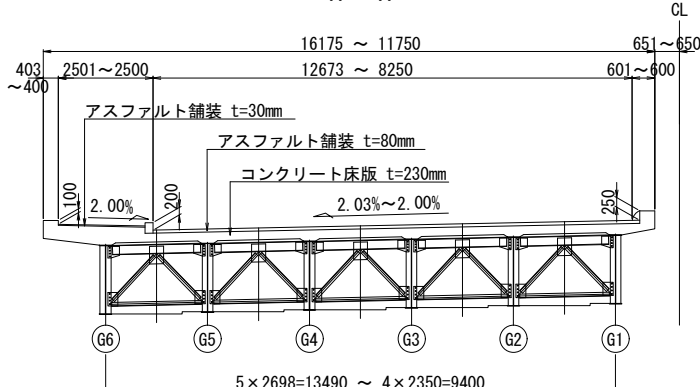
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	位 置 図 (2)		
縮 尺	S=1:50,000	図面番号	40 の 2
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発 八千代エンジニアリング株式会社 三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)補修一般区



断面図 S=1:100

A —



橋梁諸

路線名	一般国道 6号 現道
上部構造形式	主橋部：単純非合成鉄桁橋4連 単純PCブレン中空床版橋
橋 長	L=170. 20m
幅 員	B=16. 18m ～ 11. 75m
有効幅員	B=12. 67m ～ 8. 25m
地覆幅	B=0. 40m, 0. 60m
歩道幅	B=2. 50m
下部構造形式	逆T型橋台2基, 壁式橋脚 (RC) T型橋脚 (RC) 2基
基礎形式	既製鋼ぐい6基
適用示方書	昭和47年 道路橋示方書

注記：1. 本図面は昭和54年度の「桜川橋下部工事」「桜川橋上部製作工事」と昭和55年度の「桜川橋上部その2工事」及び昭和56年度の「桜川橋床板工事」を元に復元した。

2. 本図の地形平面図は令和2年度に調査された管理用平面図である。

3. 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。

4. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。

5. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。

現場制約事項		関係機関：河川（桜川） 道路（市道Ⅱ-23号線）
有	無	

(注)

1. 上記の現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を明示しているものであり、工事着手にあたっては、設計審査会等において、受発注者間で厳格に確認する。

2. 西暦2024年5月時点の情報であり、工事発注時に最新情報に更新すること。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）補修一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 3
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

S=1 : 100

第1径間 平面図

Technical drawing of a roof truss (桁下図) showing a side elevation. The drawing includes the following details:

- Dimensions:**
 - h1: 0.20 × 2000
 - h2: 0.20 × 600
 - h3: 0.20 × 1300
- Structural Details:**
 - Truss members are shown with diagonal bracing.
 - Supports are labeled (A1) and (P1).
 - Roof slope is indicated by a dashed line.
 - Labels include 桁下図 (Truss Elevation), 左官工法 (I), and 200 × 100.

A – A

A - A

① 200 × 100
左官工法 (1)

① 400 × 50
左官工法 (2)

Figure 1-1-10 shows a cross-section A-A of a structure. It illustrates two different construction methods for the left side (左官工法). Method (1) shows a top layer of 200 × 100 mm. Method (2) shows a top layer of 400 × 50 mm. Both methods are shown on a base layer with a cross-hatched interface.

桁下面

桁下面

400 x 100
左官工法 (1)

A

P1

P2

S=1 : 400

至 東京

橋長 170200

桁長 41000 支間長 40400 桁長 41000 支間長 40400 桁長 41000 支間長 40400 桁長 25800 支間長 25200 桁長 20700 支間長 20000

左官工法 (1) (2)
低圧注入工法

至 水戸

No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
床版			
h1	0.2	1	2000
h2	0.2	1	600
h3	0.2	1	1300
合 計			3900

部材	No.	損傷範囲(mm)	カッター範囲 W×L(mm)	箇所	V(m3)
床版	1	200×100	250×150	1	0.0011
合 計					0.0011

部材	No.	損傷範囲(mm)	カッター範囲 W x L (mm)	箇所	V(m3)
地覆	1	400 x 50	450 x 150	1	0.0054
合 計					0.0054

部材	No.	損傷範囲(mm)	カッター範囲 W×L (mm)	箇所	V(m3)
地覆	1	200×100	250×200	1	0.0015
床版	2	400×100	500×100	1	0.0015
合 計					0.0030

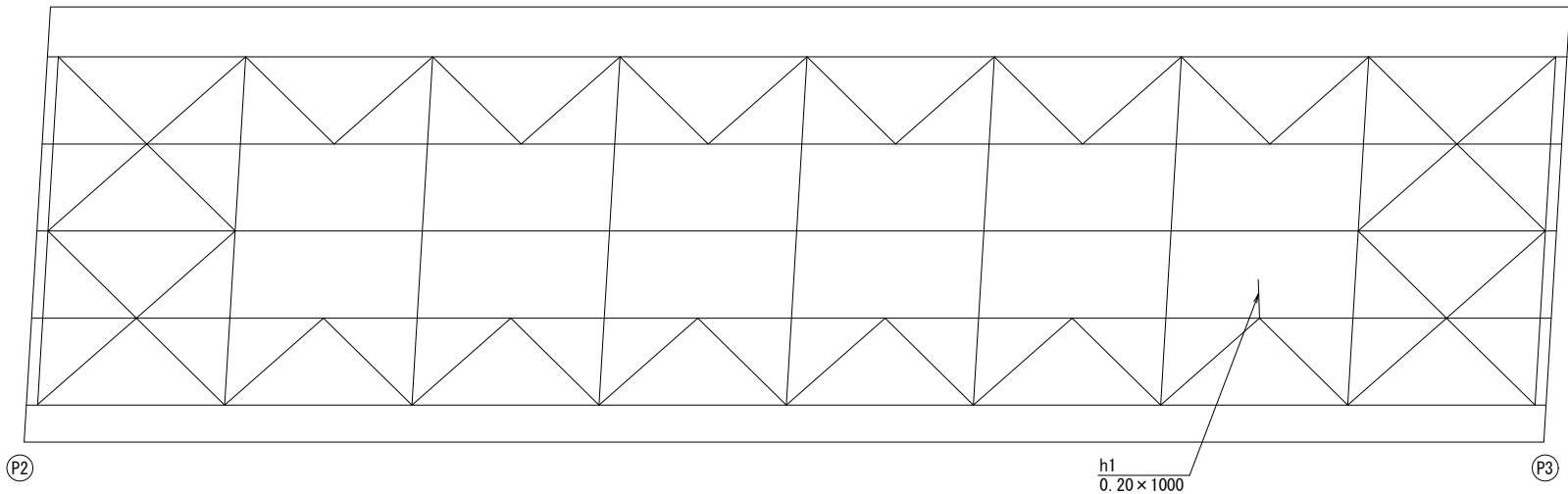
補修の種類	表 示
断面修復工A	
断面修復工B	
ひびわれ	

1. 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上を行うこと。
3. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
4. 脆弱部は、はつり落とすこと。
5. カッター工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)コンクリート補修詳細図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 4
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)コンクリート補修詳細図(2) S=1:100

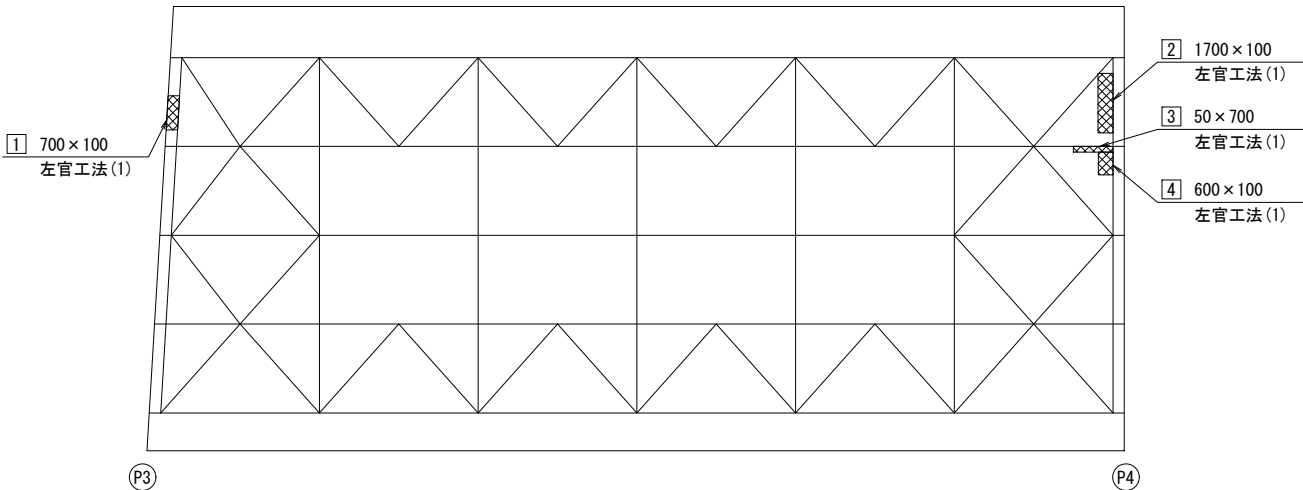
第3, 4径間
第3径間 平面図
桁下面



低圧注入工法
(0.2~1.0mm未満) 数量表
第3径間

No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
床版			
h1	0.2	1	1000
合 計			1000

第4径間 平面図
桁下面



左官工法 (1) 数量表 [平均深さ30mm]
〈第4径間〉

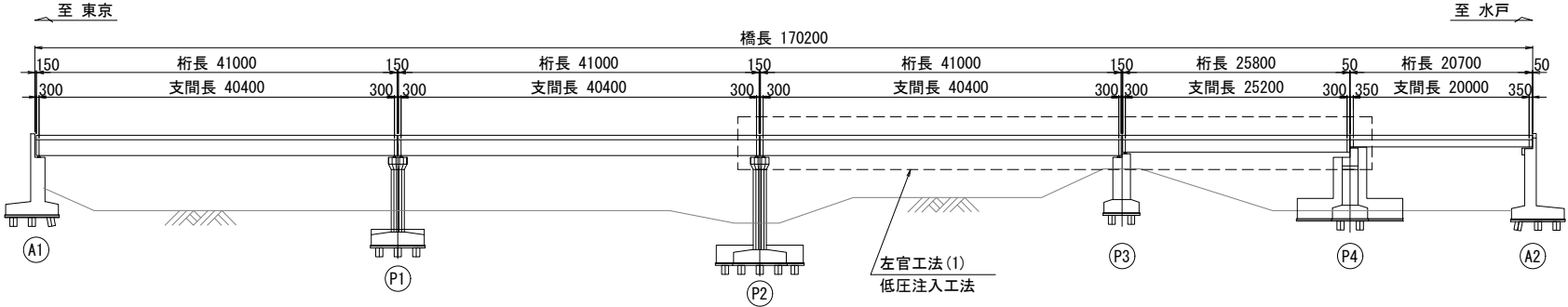
部材	No.	損傷範囲 (mm)	カッター範囲 W x L (mm)	箇所	V (m3)
床版	1	700 x 100	800 x 100	1	0.0024
床版	2	1700 x 100	1800 x 150	1	0.0081
床版	3	50 x 700	100 x 750	1	0.0023
床版	4	600 x 100	650 x 150	1	0.0029
合 計					0.0157

凡 例

補修の種類	表 示
断面修復工B	
ひびわれ	

- 注記：
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。

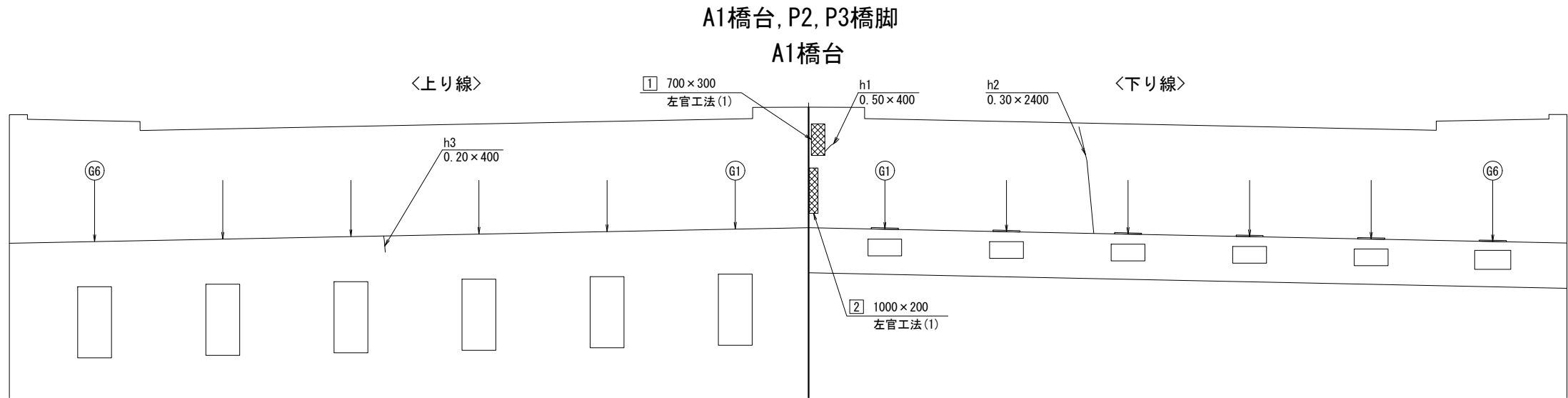
配置図 S=1:400



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

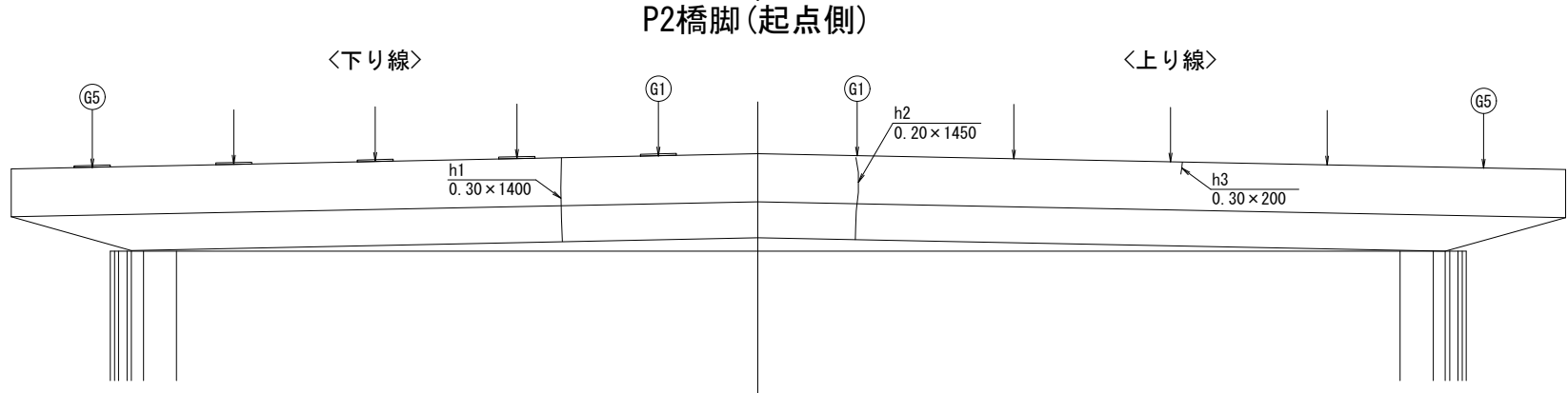
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事			
図 面 名	桜川橋（下り）コンクリート補修詳細図（2）			
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 5	
年 月 日	令和 8 年	4 月	日	
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所			

桜川橋(下り)コンクリート補修詳細図(3) S=1:60



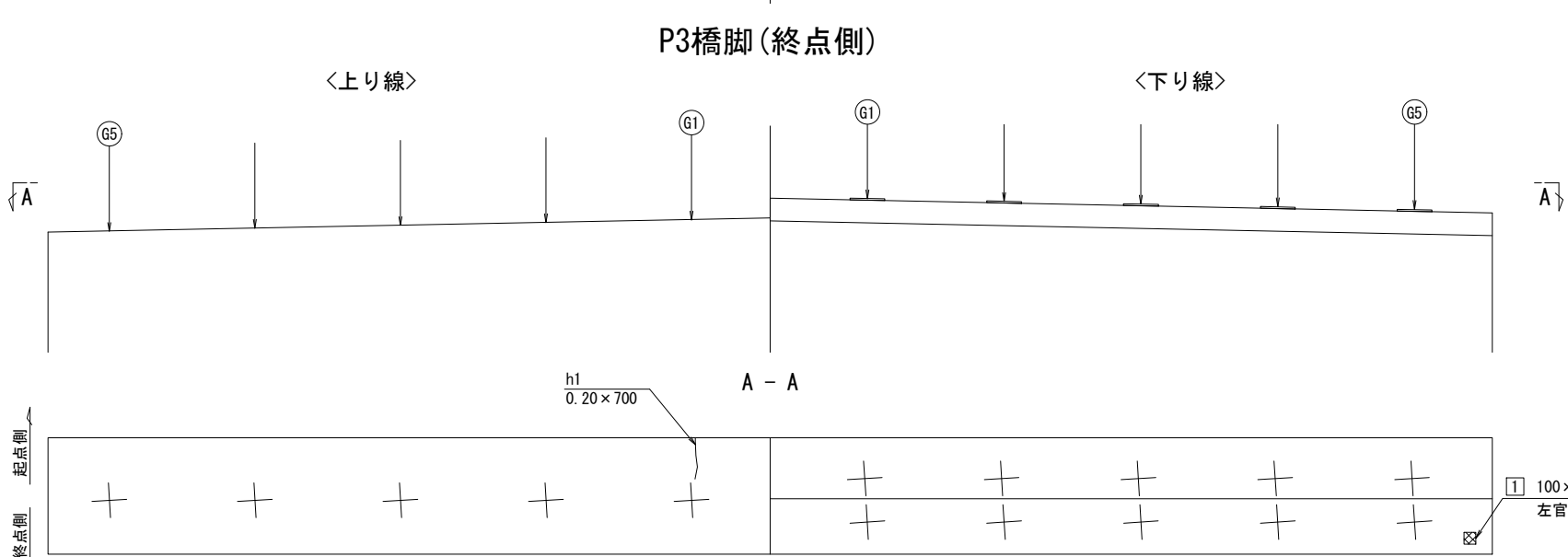
低圧注入工法
(0.2～1.0mm未満) 数量表
A1橋台

No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
胸壁			
h1	0.5	1	400
h2	0.3	1	2400
縦壁			
h3	0.2	1	400
合 計			3200



低圧注入工法
(0.2～1.0mm未満) 数量表
P2橋脚

No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
梁部			
h1	0.3	1	1400
h2	0.2	1	1450
h3	0.3	1	200
合 計			3050



低圧注入工法
(0.2～1.0mm未満) 数量表
P3橋脚

No.	幅 (mm)	本数	延長 (mm)
柱部・壁部			
h1	0.2	1	700
合 計			700

左官工法(1) 数量表 [平均深さ30mm]
＜A1橋台＞

部材	No.	損傷範囲 (mm)	カッター範囲 W x L (mm)	箇所	V (m3)
胸壁	1	700×300	800×350	1	0.0084
胸壁	2	1000×200	1100×250	1	0.0083
合 計					0.0167

左官工法(1) 数量表 [平均深さ30mm]
＜P3橋脚＞

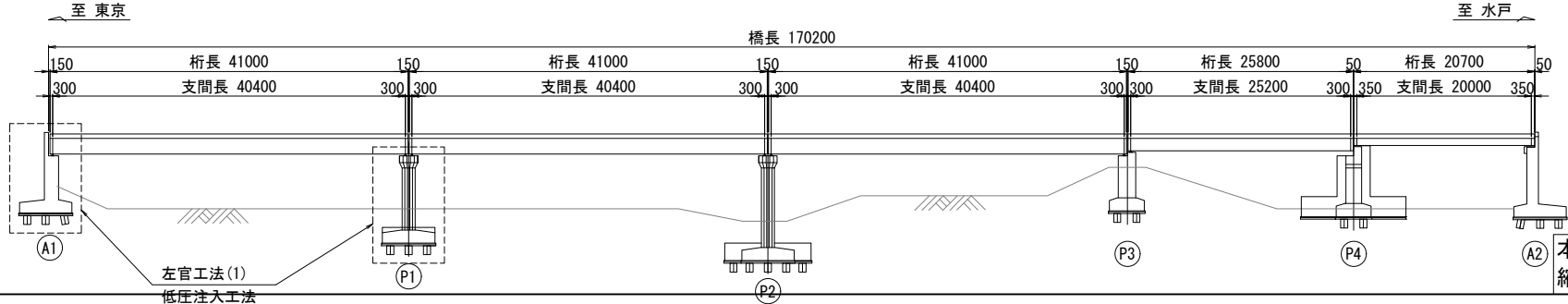
部材	No.	損傷範囲 (mm)	カッター範囲 W x L (mm)	箇所	V (m3)
柱部・壁部	1	100×100	200×200	1	0.0012
合 計					0.0012

凡 例

補修の種類	表 示
断面修復工B	
ひびわれ	

- 注記：
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。

配置図 S=1:400

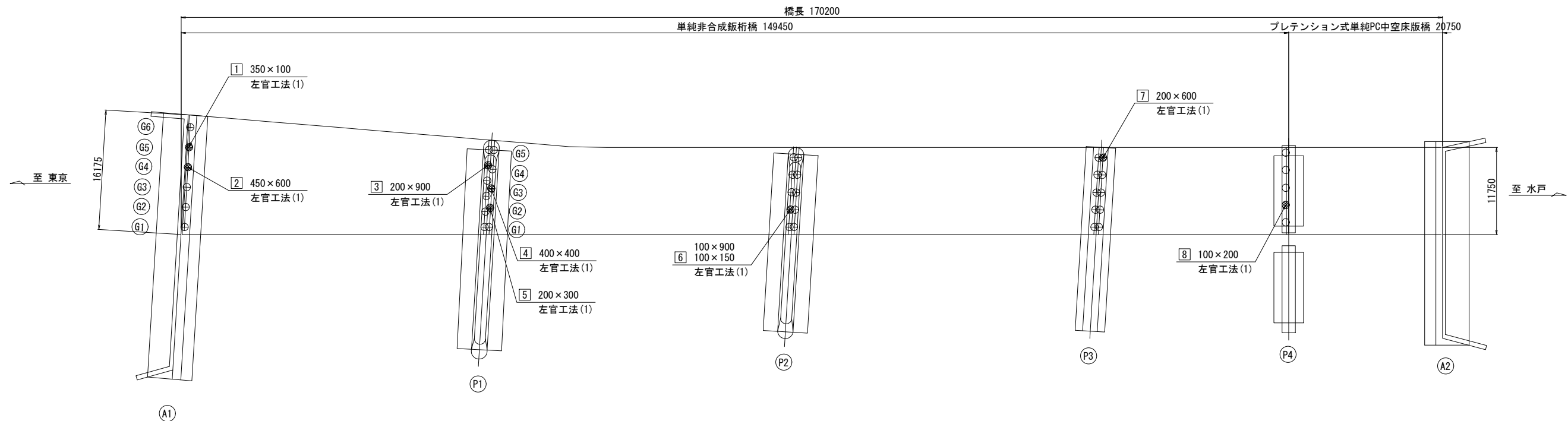


工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）コンクリート補修詳細図（3）		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 6
年 月 日	令和 8 年	4 月	日
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

S=1 : 300

沓座モルタル

平面图



左官工法(1) 数量表 [平均深さ30mm]

部材	No.	損傷範囲(mm)	カッター範囲 W×L (mm)	箇所	V(m3)
沓座	1	350×100	450×200	1	0.0027
沓座	2	450×600	550×700	1	0.0116
沓座	3	200×900	300×1000	1	0.0090
沓座	4	400×400	500×500	1	0.0075
沓座	5	200×300	300×400	1	0.0036
沓座	6	100×900	200×1000	1	0.0060
		100×150	200×250	1	0.0015
沓座	7	200×600	300×700	1	0.0063
沓座	8	100×200	200×300	1	0.0018
合 計					0.0500

注記：

1. 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
3. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
4. 脆弱部は、はつり落とすこと。
5. カッター工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。

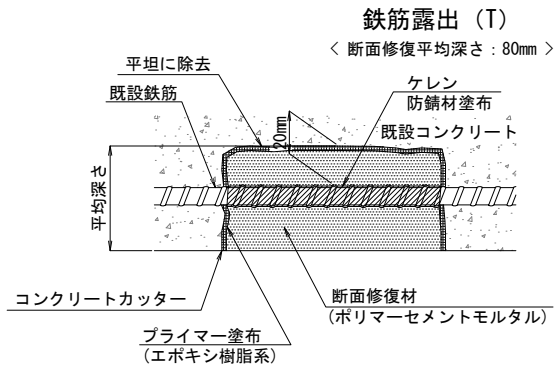
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）コンクリート補修詳細図(4)		
縮 尺	S=1:300	図面番号	40 の 7
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

桜川橋(下り)コンクリート補修詳細図(5)

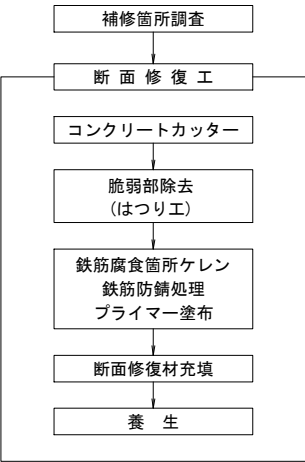
S=1:60

左官工法(2)詳細図

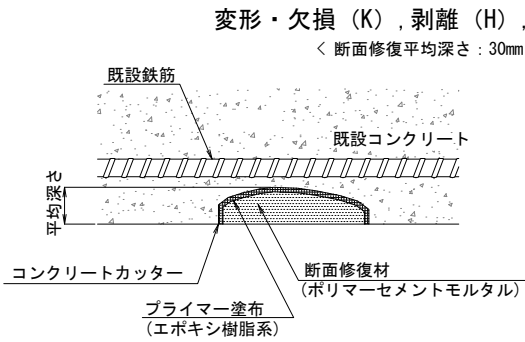


- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。
- ※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。
- ※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

施工手順

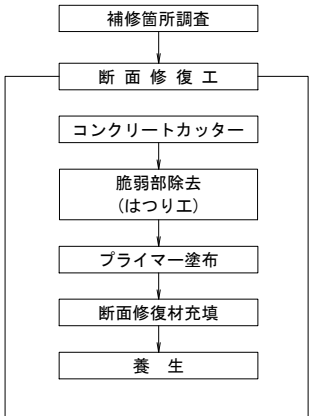


左官工法(1)詳細図



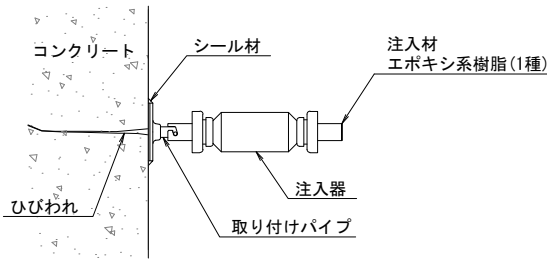
- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

施工手順

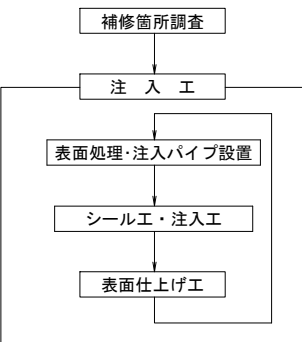


低圧注入工法詳細図

(ひびわれ幅 0.2mm 以上 1.0mm 未満)



施工手順



左官工法(2) 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含む)

(1橋当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート殻処理	無筋	m3	0.005	殻運搬含む
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.005	

左官工法(1) 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

(1橋当り)

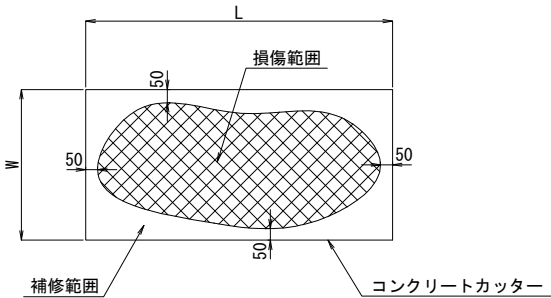
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート殻処理	無筋	m3	0.087	殻運搬含む
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m3	0.087	

低圧注入工法 数量表

(1橋当り)

工 法	名 称	単位	数 量	備 考
低圧樹脂注入工法	施工延長	m	11.85	
	シール材	kg	1.813	エポキシ系 ロス率37%含む
	注入材	kg	1.696	エポキシ系樹脂(1種) ロス率15%含む
	注入器具	本	39	0.30m当り1本

断面修復範囲図



- ※損傷部より50mm程度の余裕を確保し、50mmラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

- 注記：
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター工、はつり工の施工に際しては既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - 施工時に植生撤去を行うこと。

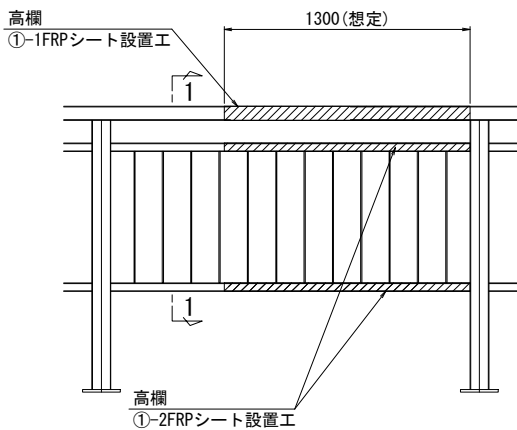
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）コンクリート補修詳細図（5）		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 8
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(1) S=1:20

①紫外線硬化型FRPシート(3)(1径間)

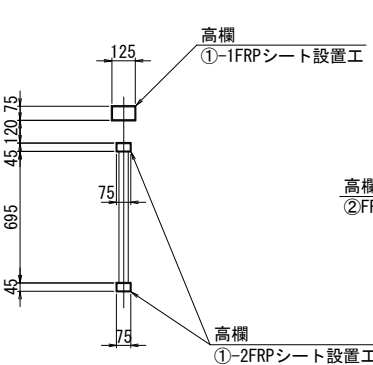
n=1



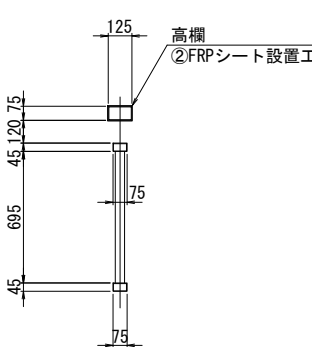
②紫外線硬化型FRPシート(1)(1, 2, 5径間)

各n=1

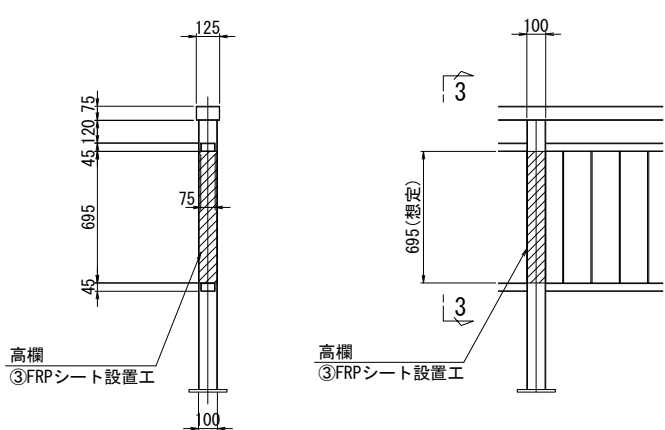
1 - 1



2 - 2

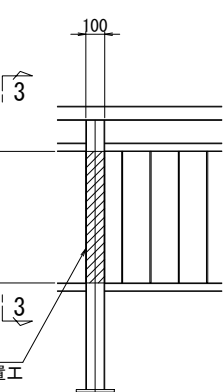


3 - 3



③紫外線硬化型FRPシート(3)(3径間)

n=3

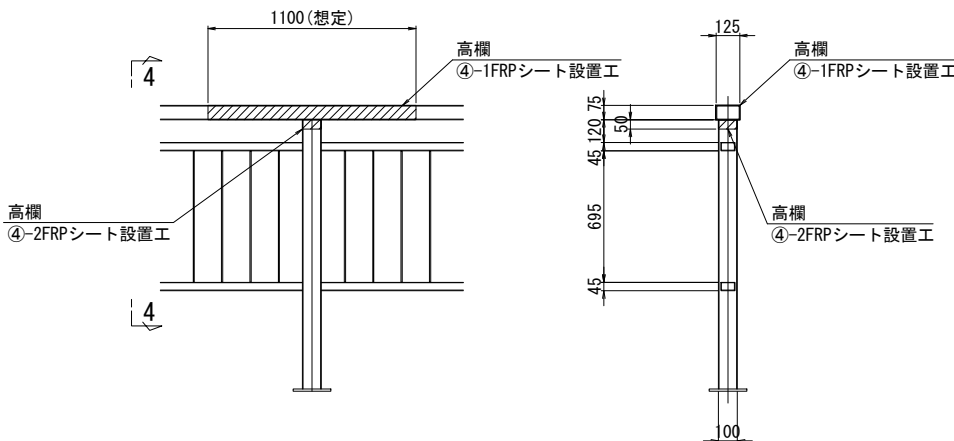


FRPシート展開図 S=1:10

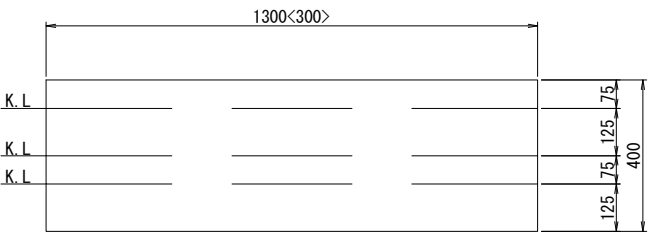
④紫外線硬化型FRPシート(3)(3径間)

n=3

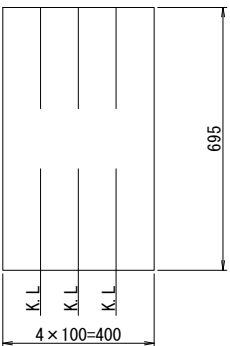
4 - 4



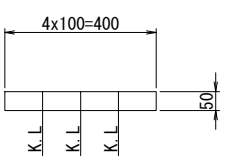
①-1<②>紫外線硬化型FRPシート(2)(3)



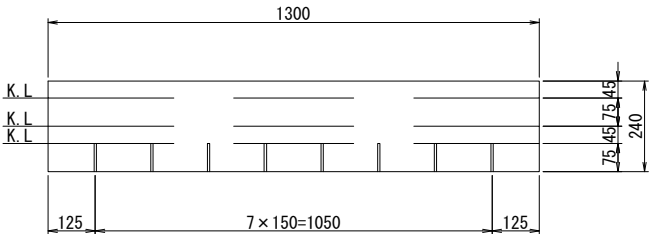
③紫外線硬化型FRPシート(3)



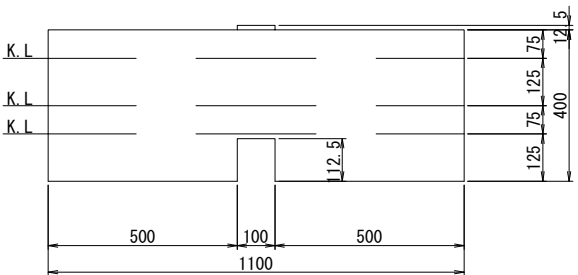
④-2紫外線硬化型FRPシート(1)



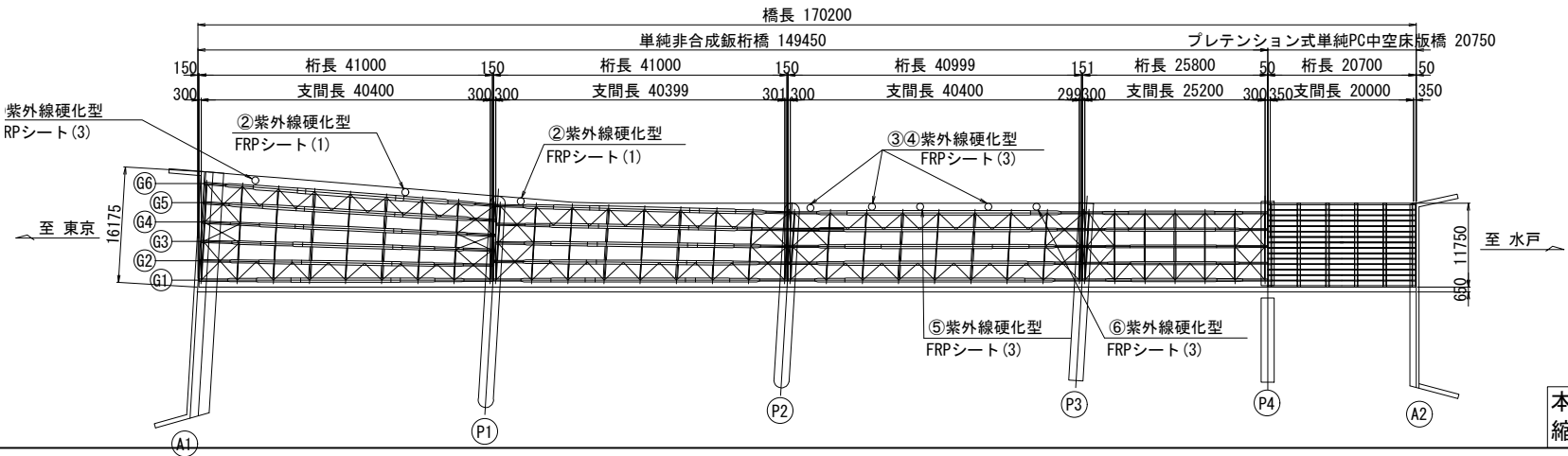
①-2紫外線硬化型FRPシート(3)



④-1紫外線硬化型FRPシート(3)



配置図 S=1:500



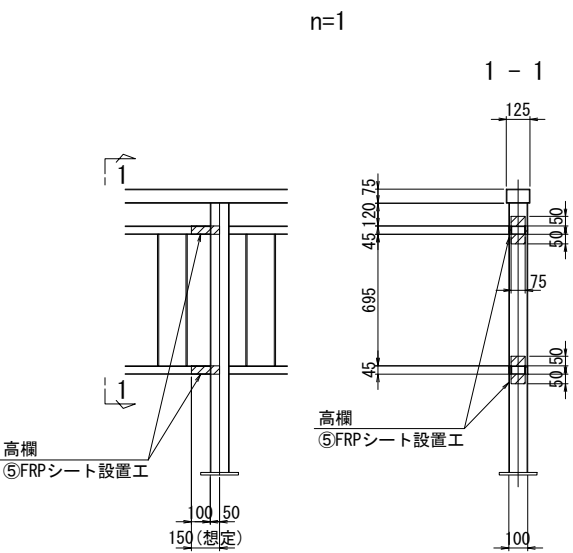
- 注記:
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地に於て補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 塗装施工の際は飛散防止に留意すること。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

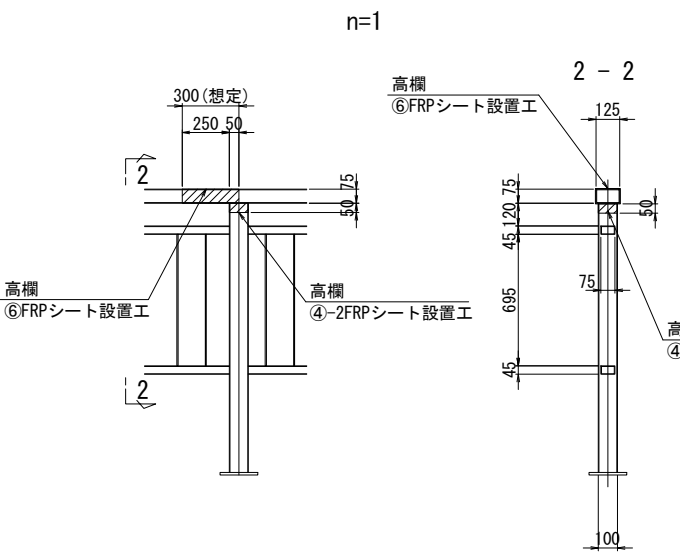
工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(1)		
縮尺	図示	図面番号	40の9
年月日	令和8年	4月	日
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(2) S=1:20

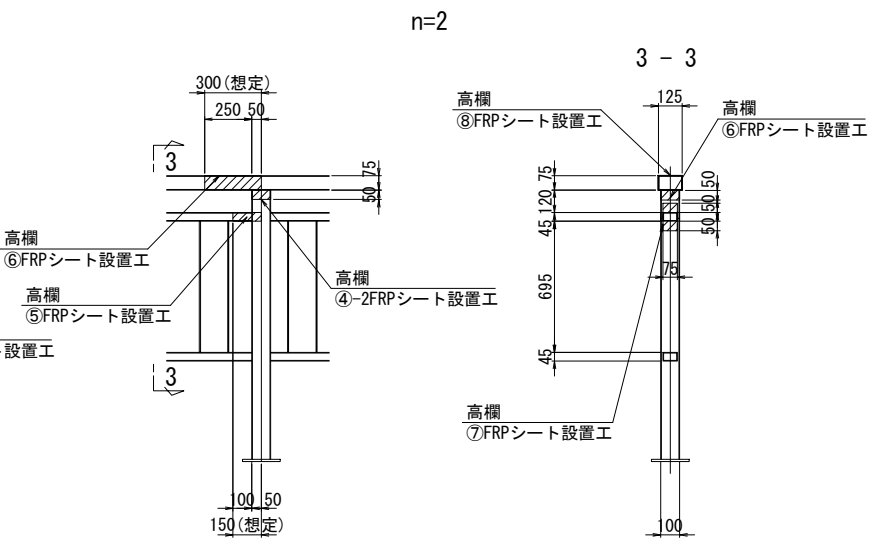
⑤紫外線硬化型FRPシート(3)(3径間)



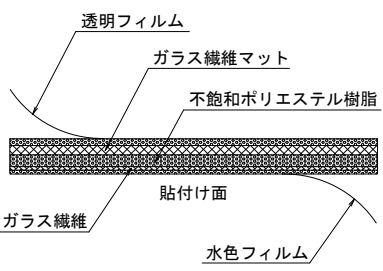
⑥紫外線硬化型FRPシート(3)(3径間)



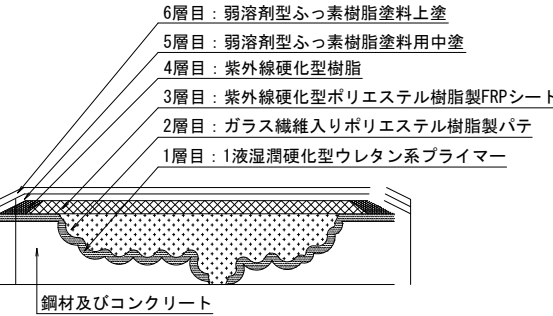
⑦紫外線硬化型FRPシート(2)(4径間)



紫外線硬化型ポリエステル樹脂製FRPシート

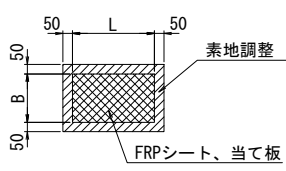


FRPシート設置



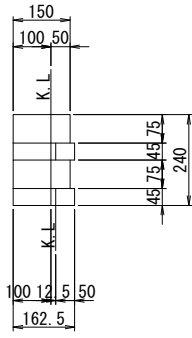
※特記仕様
紫外線硬化型ポリエステル樹脂製FRPシート UL94燃焼試験 規格V-0以上
JIS A 1322 防炎1級以上

素地調整範囲

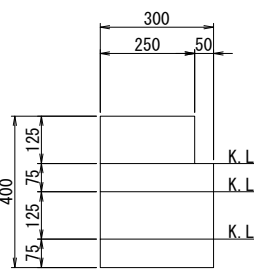


FRPシート展開図 S=1:10

⑤FRPシート



⑥FRPシート



塗装仕様 鋼桁部(Rc-Ⅱ系 スプレー)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	標準膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種ケレン			4時間以内
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	30	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	25	
	膜厚合計		55	

塗装塗替工数量表

	規格	塗装部位	面積(m ²)
素地調整	2種ケレン	高欄	4.6
塗装塗替面積	Rc-Ⅱ	高欄	4.6

FRPシート設置 施工フロー

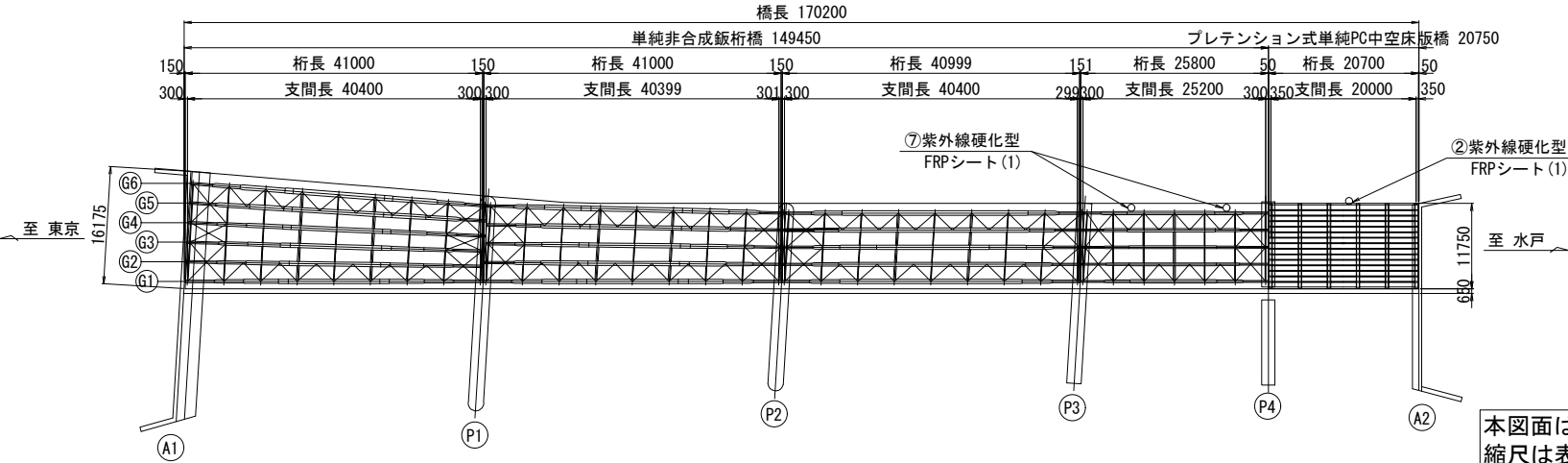
ケレン	素地調整2種
プライマー塗布	1回目:ケレン後4時間以内 2回目:不陸調整施工前日
不陸調整	ガラス繊維入りポリエステル樹脂製パテを使用し不陸調整をおこなう
FRPシート貼付け	転圧ローラー等を用いて端部の浮きが出ないように貼付けする
端部処理	紫外線硬化樹脂を使用し、端部及び接合部に指やスパチュラ等を用いて隙間を埋める
FRPシート硬化	直射日光が当たらない場合は、紫外線照射装置を用いて硬化させる
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗り g/170㎡
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り g/140㎡

- 注記:
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 塗装施工の際は飛散防止に留意すること。

FRPシート設置数量表

使用箇所	設置寸法L×B(mm)	設置数	㎡
高欄	第1径間	400×1300	1 0.5200
		240×1300	2 0.6240
	第2径間	300×400	1 0.1200
		300×400	1 0.1200
	第3径間	400×695	3 0.8340
		413×1100	3 1.3629
		400×50	4 0.0800
		163×240	2 0.0782
	第4径間	300×400	1 0.1200
		300×400	2 0.2400
		163×240	2 0.0782
	第5径間	400×50	2 0.0400
		300×400	1 0.1200
区分A 0.01㎡以上0.07㎡未満/箇所	合計		0.2764
区分B 0.07㎡以上0.15㎡未満/箇所	合計		0.7200
区分C 0.15㎡以上/箇所	合計		3.3409

配置図 S=1:500



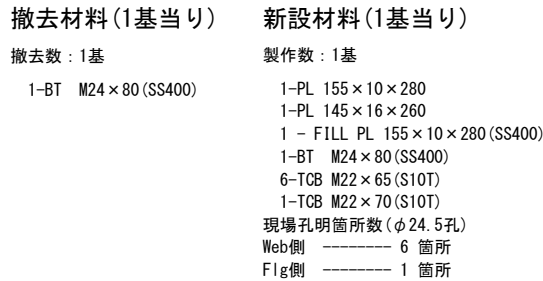
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(2)		
縮尺	図示	図面番号	40の10
年月日	令和8年4月	日	
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

S=1 : 20

①当て板補修(1)

②当て板補修(2)



撤去材料(1基当り)

撤去数: 1基

1-BT M24×75 (SS400)

新設材料(1基当り)

製作数: 1基

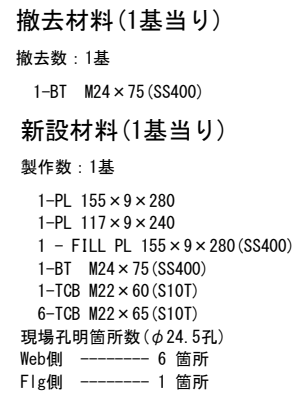
1-PL 110×12×155
1-PL 116×12×289
1 - FILL PL 110×12×155 (SS400)
1-BT M24×75 (SS400)
1-TCB M22×60 (S10T)
2-TCB M22×75 (S10T)

現場孔明箇所数 (φ 24.5 孔)

補銅材側 ----- 2 箇所
Fig側 ----- 1 箇所

S=1 : 500

③当て板補修(3)



	規 格	塗 装 部 位	面積 (㎡)
素地調整面積	2種ケレン	主桁Web, Flg, 補鋼材	0.4
連結部塗装面積	F-11	主桁Web, Flg, 補鋼材	0.3
現場塗装面積	Rc-Ⅱ	主桁Web, Flg, 補鋼材	0.1

注記：

1. 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地に於て補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
3. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
4. 塗装施工の際は飛散防止に留意すること。
5. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
6. 本補修設計上にて示す金属バチ製品は「ラストップ1100(NETIS登録 No. KT-120003-A)」を想定しているが、同等品以上の性能であれば監督員との協議の上、施工承認できるものとする。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）鋼部材補修詳細図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 11
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

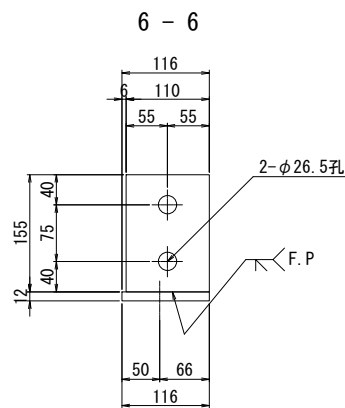
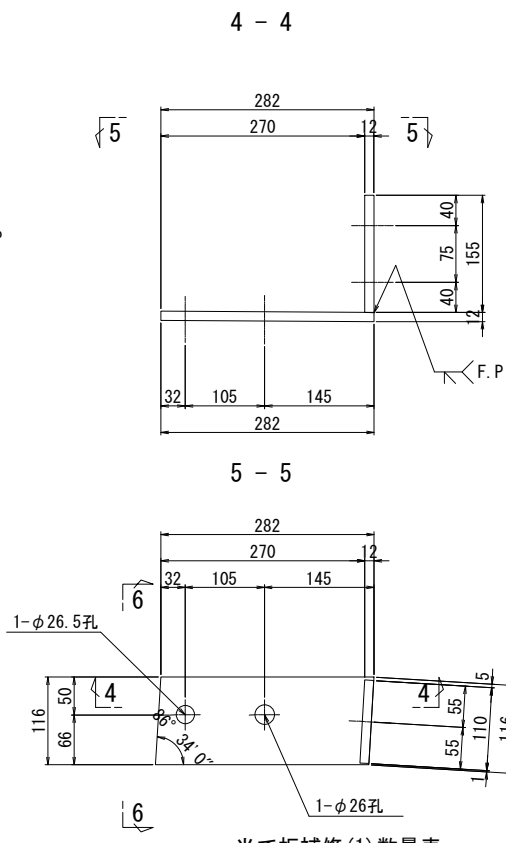
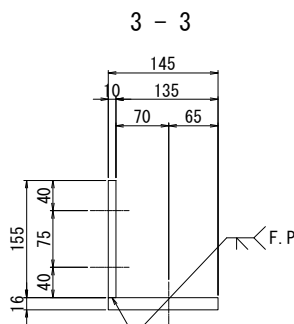
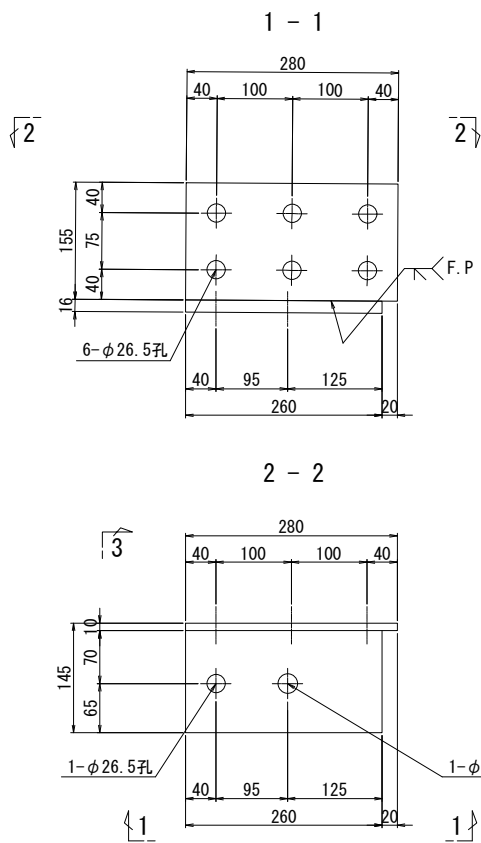
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(4)

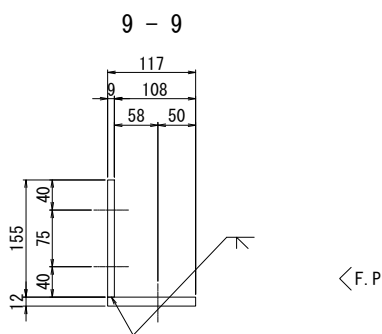
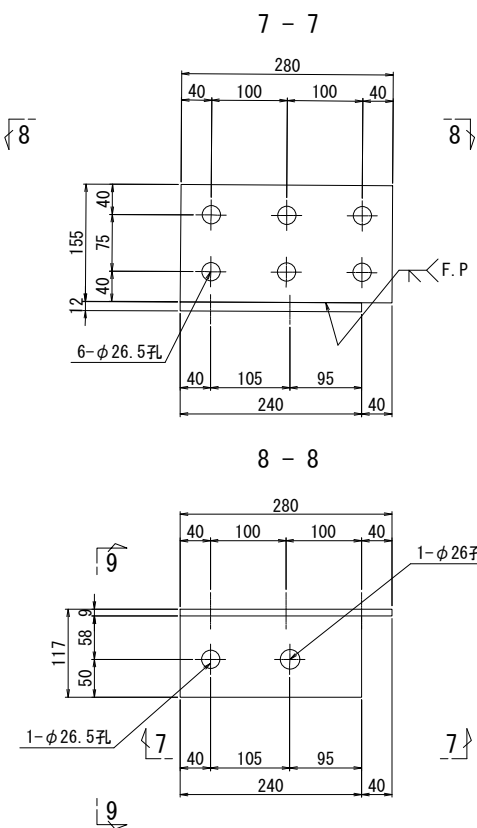
S=1:5

① 新設鋼材詳細図

② 新設鋼材詳細図



③ 新設鋼材詳細図



当て板補修(1)数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	8	
当て板	SS400	kg	3	
TCB	M22×65	組	6	
TCB	M22×70	組	1	
ボルト	M24×80	本	1	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.006	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	kg	0.010	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り	kg	0.003	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り	kg	0.003	
芯出し調整工		m2	0.108	
補修塗装工(素地調整)		m2	0.058	
鋼桁孔明工		本	7	
補強部材取付工		部材	1	
高力ボルト本締め工		本	7	
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.139	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.139	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.139	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.139	
現場塗装	RC-II	m2	0.027	
金属パテ	セラミック系金属補修材	m2	0.006	当初計上無し

注記:

- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
- 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
- 塗装施工の際は飛散防止に留意すること。
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 本補修設計上に示す金属パテ製品は「ラストップ1100(NETIS登録 No. KT-120003-A)」を想定しているが、同等品以上の性能であれば監督員との協議の上、施工承諾できるものとする。ま

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

当て板補修(2)数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	5	
当て板	SS400	kg	2	
TCB	M22×60	組	1	
TCB	M22×75	組	2	
ボルト	M24×75	本	1	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.003	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	kg	0.006	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り	kg	0.002	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り	kg	0.001	
芯出し調整工		m2	0.063	
補修塗装工(素地調整)		m2	0.028	
鋼桁孔明工		本	3	
補強部材取付工		部材	1	
高力ボルト本締め工		本	3	
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.076	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.076	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.076	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.076	
現場塗装	RC-II	m2	0.015	
金属パテ	セラミック系金属補修材	m2	0.003	当初計上無し

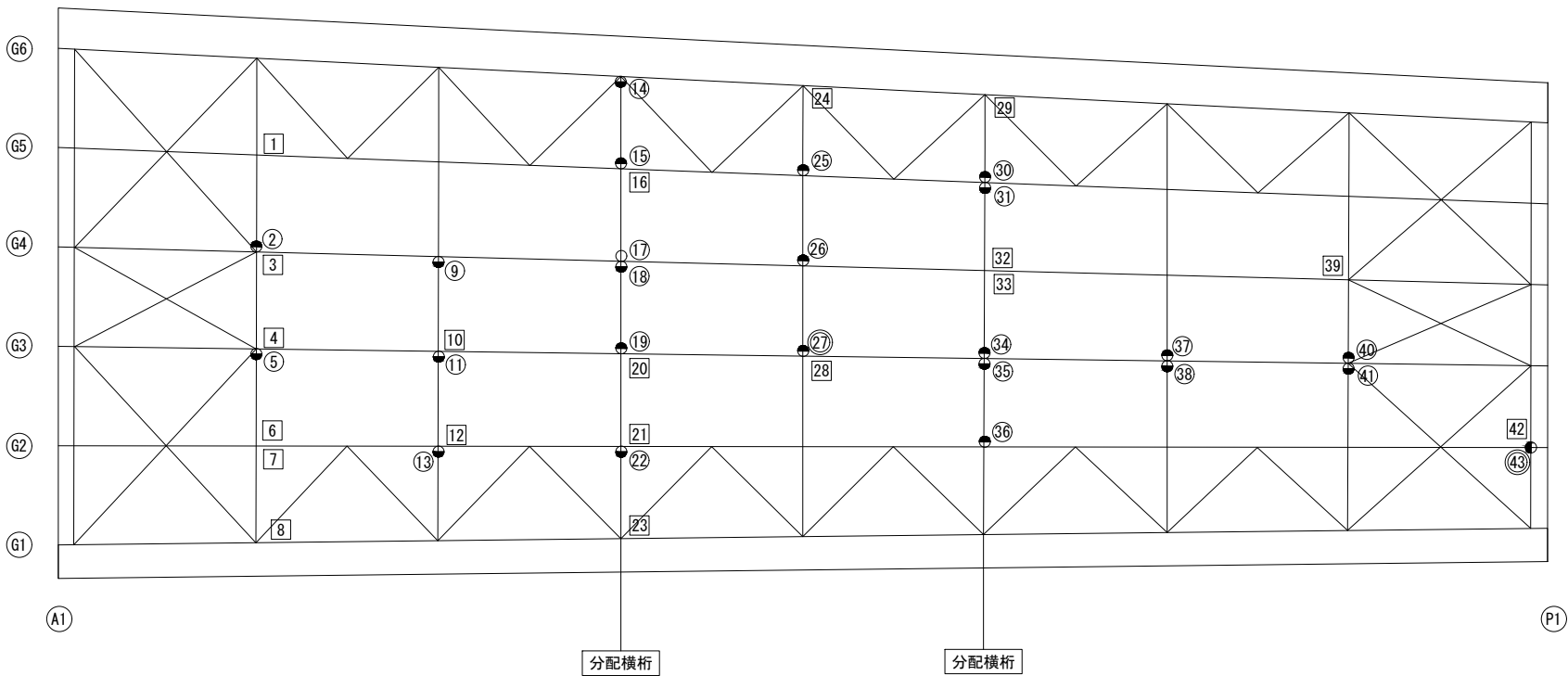
当て板補修(3)数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	5	
当て板	SS400	kg	3	
TCB	M22×60	組	1	
TCB	M22×65	組	6	
ボルト	M24×75	本	1	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.006	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	kg	0.011	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料中塗り	kg	0.003	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂用塗料上塗り	kg	0.003	
芯出し調整工		m2	0.099	
補修塗装工(素地調整)		m2	0.055	
鋼桁孔明工		本	7	
補強部材取付工		部材	1	
高力ボルト本締め工		本	7	
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.126	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.126	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.126	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.126	
現場塗装	RC-II	m2	0.028	
金属パテ	セラミック系金属補修材	m2	0.014	当初計上無し

工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	桜川橋(下り)鋼部材補修詳細図(4)		
縮尺	S=1:5	図面番号	40の12
年月日	令和8年4月	設計会社名	株式会社イト日本技術開発
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)き裂補修詳細図(1) S=1:40

第1径間 平面位置図



第1径間

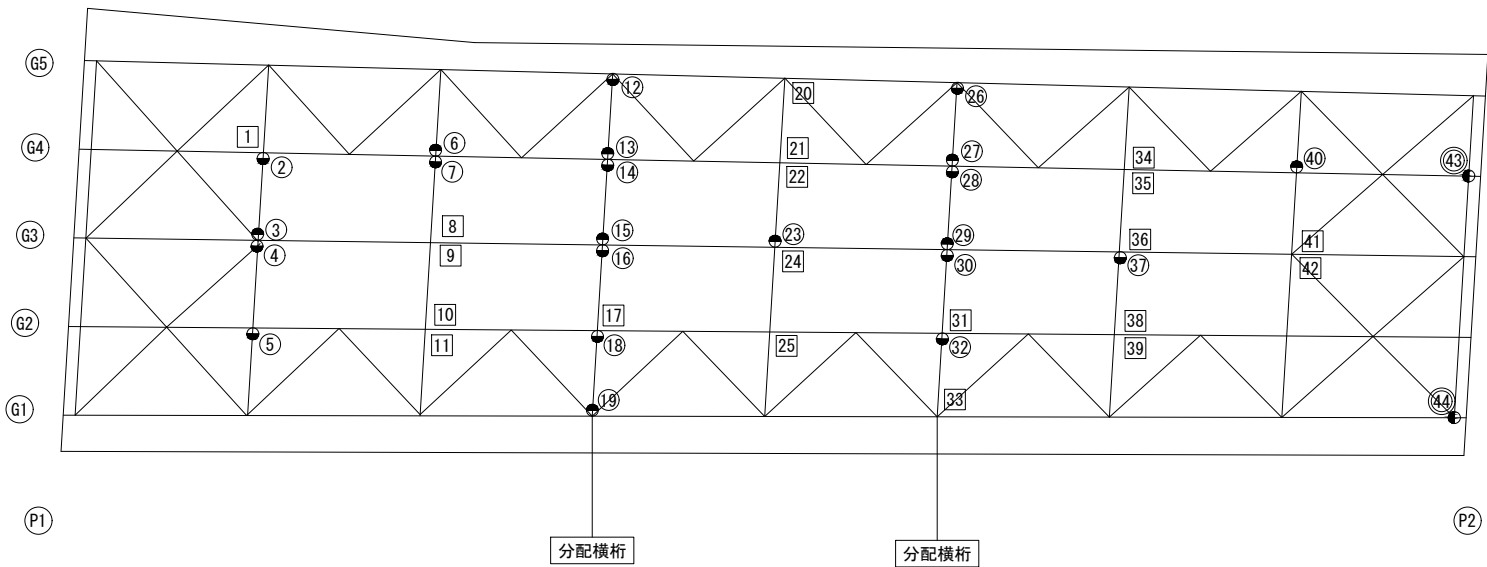
番号	位置	パターン
1	Mg0201	A111
2	Mg0301	A111
3	Mg0301	A111
4	Mg0401	A111
5	Mg0401	A111
6	Mg0501	A111
7	Mg0501	A111
8	Mg0601	A111
9	Mg0302	A111
10	Mg0402	A111
11	Mg0402	A111
12	Mg0502	A111
13	Mg0502	A111
14	Mg0103	A111
15	Mg0203	A111
16	Mg0203	A111
17	Mg0303	A111
18	Mg0303	A111
19	Mg0403	A111
20	Mg0403	A111

番号	位置	パターン
21	Mg0503	A111
22	Mg0503	A111
23	Mg0603	A111
24	Mg0104	A111
25	Mg0204	A111
26	Mg0304	A111
27	Mg0404	A111
28	Mg0404	A111
29	Mg0105	A111
30	Mg0205	A111
31	Mg0205	A111
32	Mg0305	A111
33	Mg0305	A111
34	Mg0405	A111
35	Mg0405	A111
36	Mg0505	A111
37	Mg0406	A111
38	Mg0406	A111
39	Mg0307	A111
40	Mg0407	A111

番号	位置	パターン
41	Mg0407	A111
42	Mg0508	A231
43	Mg0508	E1

凡 例	
①	き裂あり箇所
①	調査必要箇所
①	想定補修箇所

第2径間 平面位置図



第2径間

番号	位置	パターン
1	Mg0201	A111
2	Mg0201	A111
3	Mg0301	A111
4	Mg0301	A111
5	Mg0401	A111
6	Mg0202	A111
7	Mg0202	A111
8	Mg0302	A111
9	Mg0302	A111
10	Mg0402	A111
11	Mg0402	A111
12	Mg0103	A111
13	Mg0203	A111
14	Mg0203	A111
15	Mg0303	A111
16	Mg0303	A111
17	Mg0403	A111
18	Mg0403	A111
19	Mg0503	A111
20	Mg0104	A111

番号	位置	パターン
21	Mg0204	A111
22	Mg0204	A111
23	Mg0304	A111
24	Mg0304	A111
25	Mg0404	A111
26	Mg0105	A111
27	Mg0205	A111
28	Mg0205	A111
29	Mg0305	A111
30	Mg0305	A111
31	Mg0405	A111
32	Mg0405	A111
33	Mg0505	A111
34	Mg0206	A111
35	Mg0206	A111
36	Mg0306	A111
37	Mg0306	A111
38	Mg0406	A111
39	Mg0406	A111
40	Mg0207	A111

番号	位置	パターン
41	Mg0307	A111
42	Mg0307	A111
43	Mg0208	E1
44	Mg0508	E1

注記：

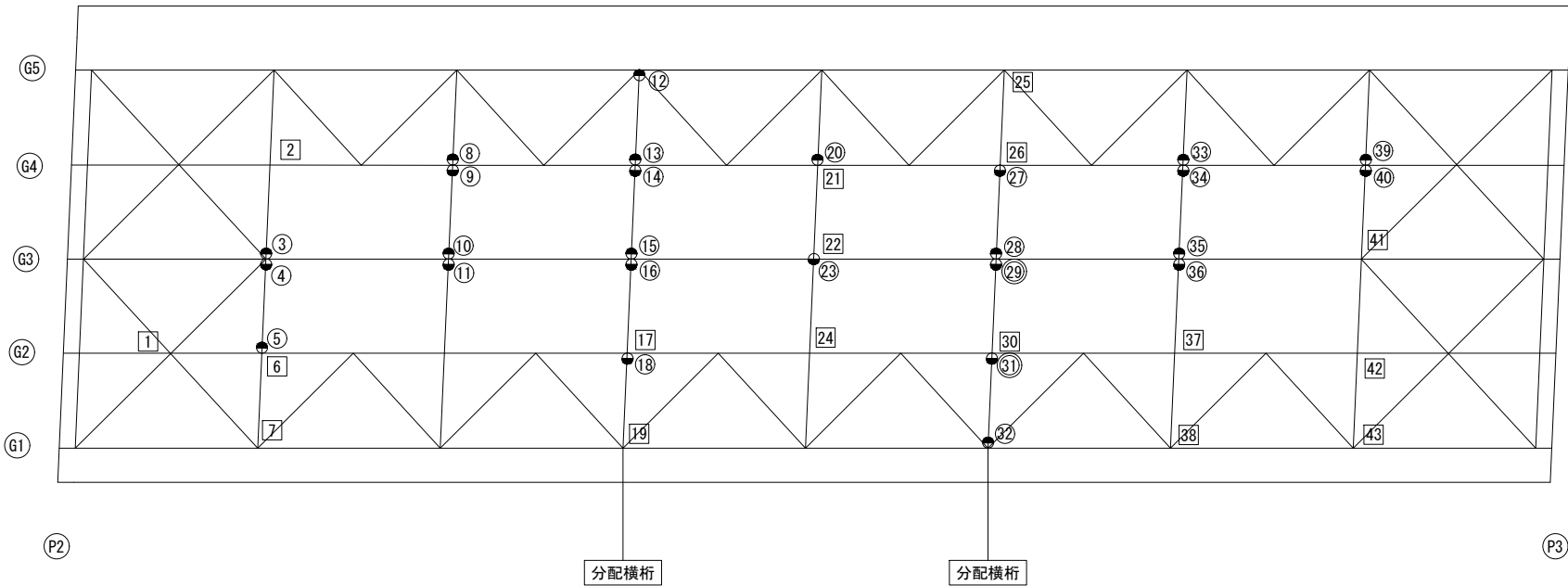
1. 上図は、過年度補修設計成果や、最新の点検調査および現地踏査に基づき作成した。
2. 図中の補修計画は、「既存点検データ」、「現地調査」等に基づくものであるが、工事に際しては現地状況を十分把握し、併せて監督職員の了承を得た上で実施すること。
3. 施工数量については、現地再確認を行ったうえ監督職員の承諾を得て決定すること。
4. 施工に際し障害となる構造物が確認された場合は、管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
5. 施工に際しては、工事着手前に道路管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
6. 桁補修材の接触面は素地調整を行い、既設主桁の腐食部分には硬質樹脂を充填すること。
7. 高力ボルト孔径は、既設部材に対してはφ24.5孔とし、新設部材に対してはφ26.5孔とする。
8. 塗膜割れ箇所においては、磁粉探傷試験を行い、き裂が確認された場合は補修を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)き裂補修詳細図(1)		
縮 尺	S=1:40	図面番号	40 の 13
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り) き裂補修詳細図(2) S=1:40

第3径間 平面位置図



第3径間

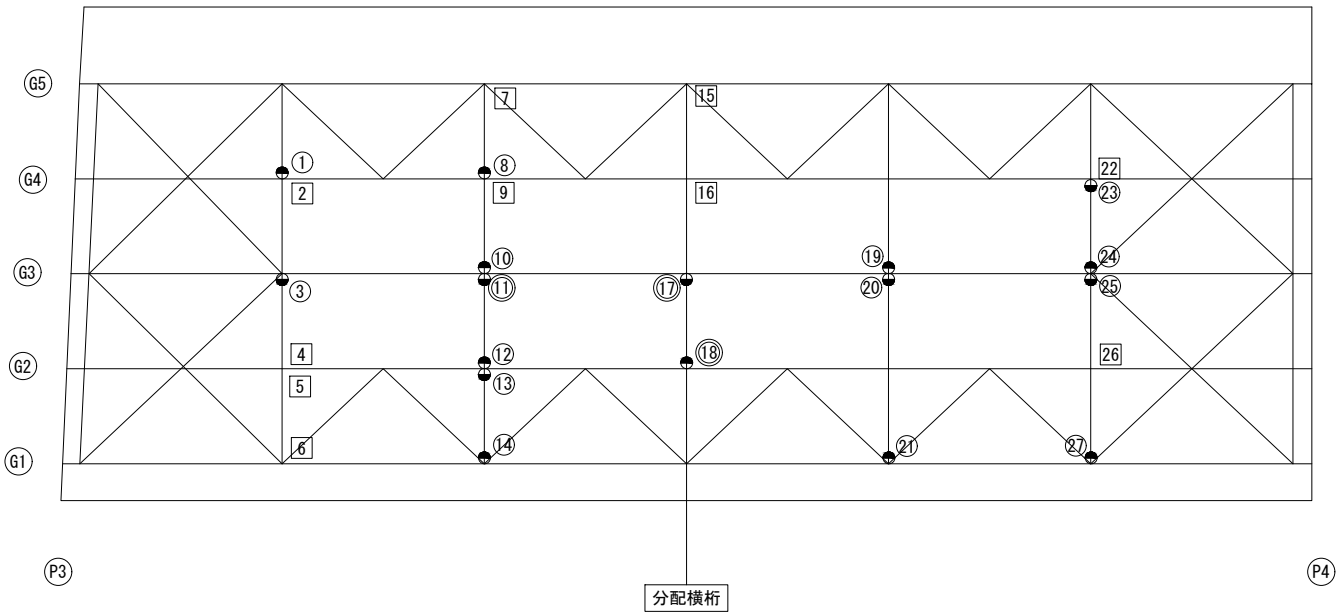
番号	位置	パターン
1	Mg0401	D2
2	Mg0201	A111
3	Mg0301	A111
4	Mg0301	A111
5	Mg0401	A111
6	Mg0401	A111
7	Mg0501	A111
8	Mg0202	A111
9	Mg0202	A111
10	Mg0302	A111
11	Mg0302	A111
12	Mg0103	A111
13	Mg0203	A111
14	Mg0203	A111
15	Mg0303	A111
16	Mg0303	A111
17	Mg0403	A111
18	Mg0403	A111
19	Mg0503	A111
20	Mg0204	A111

番号	位置	パターン
21	Mg0204	A111
22	Mg0304	A111
23	Mg0304	A111
24	Mg0404	A111
25	Mg0105	A111
26	Mg0205	A111
27	Mg0205	A111
28	Mg0305	A111
29	Mg0305	A111
30	Mg0405	A111
31	Mg0405	A111
32	Mg0505	A111
33	Mg0206	A111
34	Mg0206	A111
35	Mg0306	A111
36	Mg0306	A111
37	Mg0406	A111
38	Mg0506	A111
39	Mg0207	A111
40	Mg0207	A111

番号	位置	パターン
41	Mg0307	A111
42	Mg0407	A111
43	Mg0507	A111

凡 例	
①	き裂あり箇所
1	調査必要箇所
①	想定補修箇所

第4径間 平面位置図



第4径間

番号	位置	パターン
1	Mg0201	A111
2	Mg0201	A111
3	Mg0301	A111
4	Mg0401	A111
5	Mg0401	A111
6	Mg0501	A111
7	Mg0102	A111
8	Mg0202	A111
9	Mg0202	A111
10	Mg0302	A111
11	Mg0302	A111
12	Mg0402	A111
13	Mg0402	A111
14	Mg0502	A111

番号	位置	パターン
15	Mg0103	A111
16	Mg0203	A111
17	Mg0303	A111
18	Mg0403	A111
19	Mg0304	A111
20	Mg0304	A111
21	Mg0504	A111
22	Mg0205	A111
23	Mg0205	A111
24	Mg0305	A111
25	Mg0305	A111
26	Mg0405	A111
27	Mg0505	A111

注記：

- 上図は、過年度補修設計成果や、最新の点検調査および現地踏査に基づき作成した。
- 図中の補修計画は、「既存点検データ」、「現地調査」等に基づくものであるが、工事に際しては現地状況を十分把握し、併せて監督職員の了承を得た上で実施すること。
- 施工数量については、現地再確認を行ったうえ監督職員の承諾を得て決定すること。
- 施工に際し障害となる構造物が確認された場合は、管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
- 施工に際しては、工事着手前に道路管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
- 桁補修材の接触面は素地調整を行い、既設主桁の腐食部分には硬質樹脂を充填すること。
- 高力ボルト孔径は、既設部材に対してはφ24.5孔とし、新設部材に対してはφ26.5孔とする。
- 塗膜割れ箇所においては、磁粉探傷試験を行い、き裂が確認された場合は補修を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)き裂補修詳細図(2)		
縮 尺	S=1:40	図面番号	40 の 14
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)き裂補修詳細図(3) S=1:20

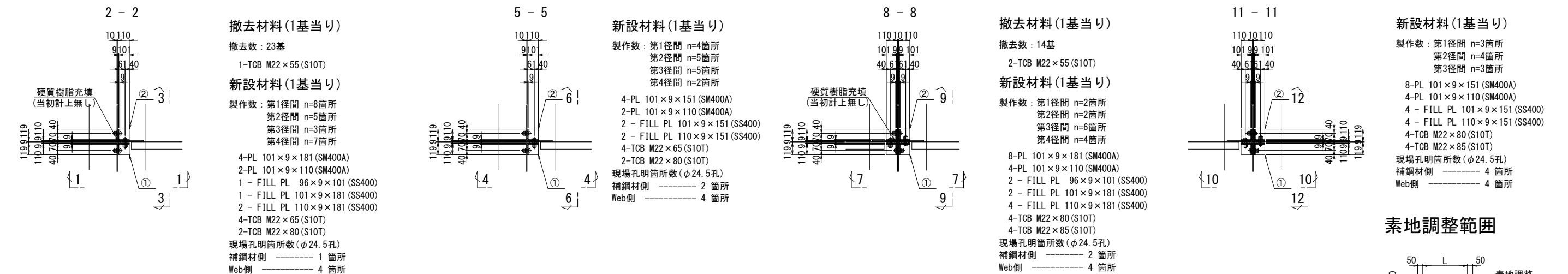
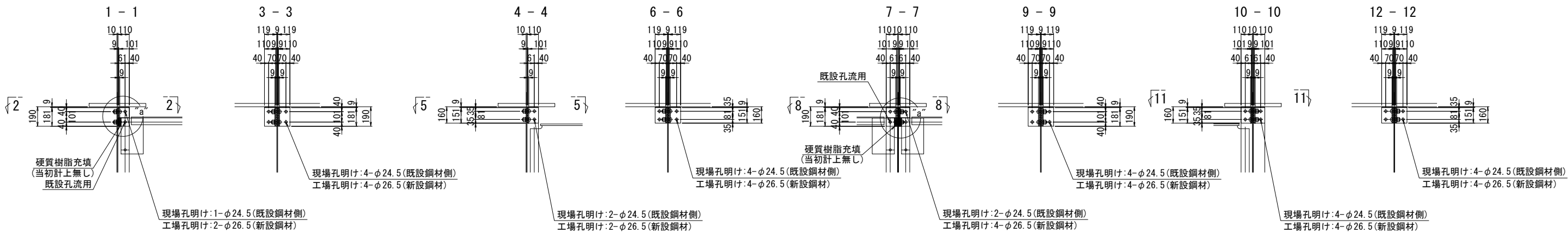
き裂パターンA111当て板補修

亀裂補修(1) TYPE-A1標準図

亀裂補修(1) TYPE-A2標準図

亀裂補修(1) TYPE-A3当て板標準図

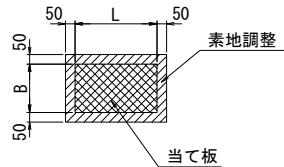
亀裂補修(1) TYPE-A4当て板標準図



新設鋼材詳細図 S=1:5
タイプA1, A3<A2, A4>

“a”部詳細図 S=1:5

素地調整範囲



- 注記：
- 上図は、過年度補修設計成果や、最新の点検調査および現地踏査に基づき作成した。
 - 図中の補修計画は、「既存点検データ」、「現地調査」等に基づくものであるが、工事に際しては現地状況を十分把握し、併せて監督職員の了承を得た上で実施すること。
 - 施工数量については、現地再確認を行ったうえで監督職員の承諾を得て決定すること。
 - 施工に際し障害となる構造物が確認された場合は、管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
 - 施工に際しては、工事着手前に道路管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
 - 桁補修材の接触面は素地調整を行い、既設主桁の腐食部分には硬質樹脂を充填すること。
 - 高力ボルト孔径は、既設部材に対してはφ24.5孔とし、新設部材に対してはφ26.5孔とする。
 - 塗膜割れ箇所においては、磁粉探傷試験を行い、き裂が確認された場合は補修を行うこと。

塗装仕様 鋼桁部(Rc-II系 スプレー)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	標準膜厚 (μm)	塗装間隔
素地調整	2種ケレン			4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	75	1日～10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	60	1日～10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	60	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	30	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	25	1日～10日
膜厚合計			250	

塗装塗替数量表

規格		塗装部位	面積(m ²)
素地調整面積	2種ケレン	補鋼材, Web	2.2
連結部塗装面積	F-11	補鋼材, Web	1.3
工場塗装	C-5	補鋼材, Web	0.1
現場塗装面積	Rc-II	補鋼材, Web	0.8

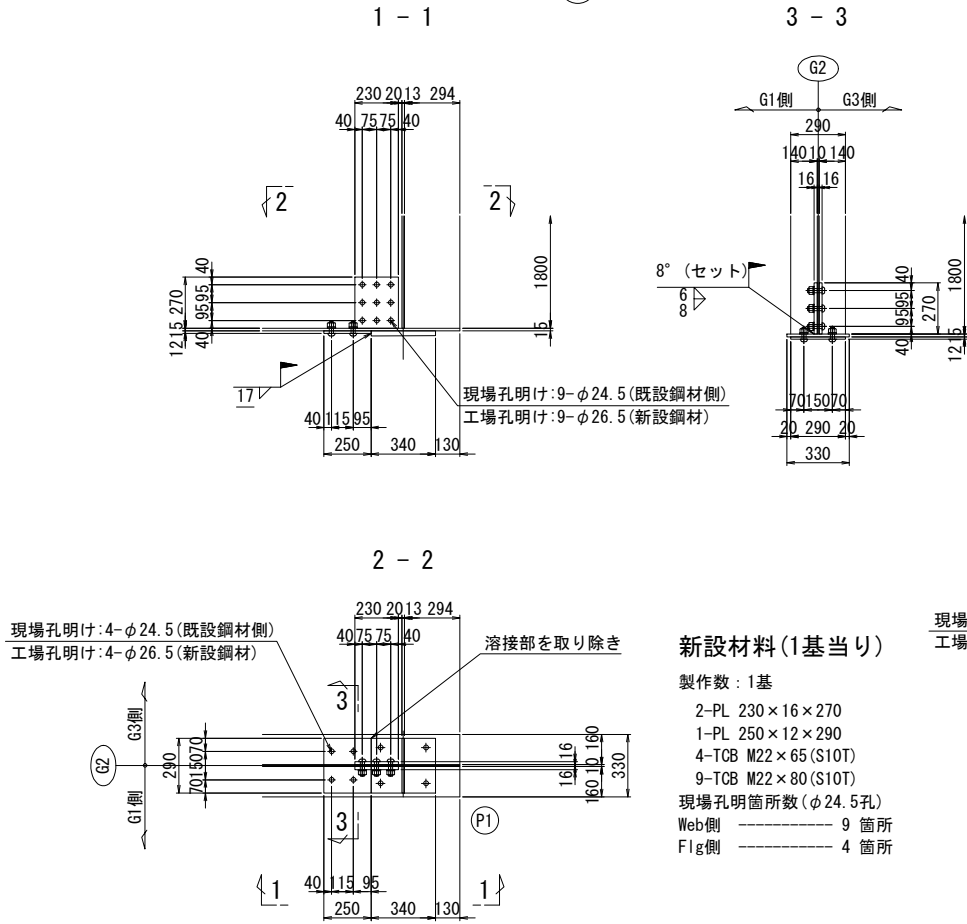
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)き裂補修詳細図(3)	図面番号	40の15
縮 尺	図 示	令和 8 年 4 月 日	
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発	事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

桜川橋(下り)き裂補修詳細図(4) S=1:20

亀裂補修(5)(ソールプレート補修)
第1径間 G2桁

④3番

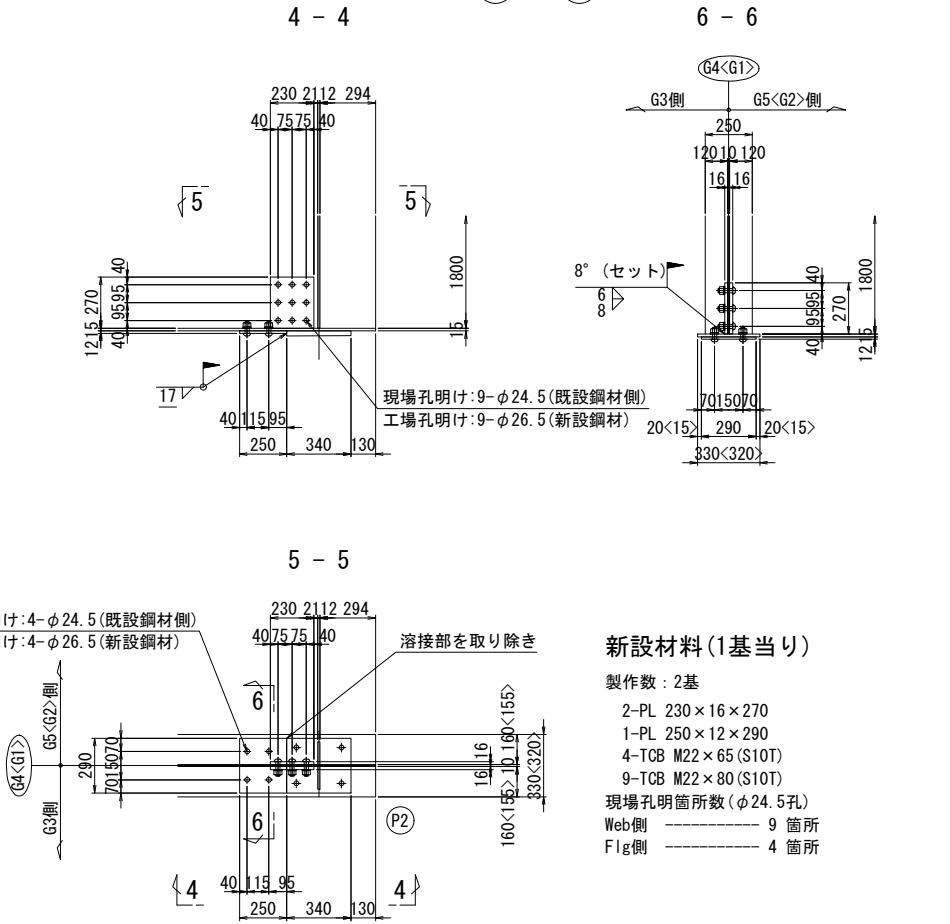


第1径間き裂損傷一覧表

き裂No.	き裂発生箇所	き裂パターン	き裂長さ(mm)				補修方法
			起点側	板厚面	終点側	合計	
2	中間対傾構	A111	(15)	(10)	(10)	(35)	亀裂補修(1) TYPE-A1
5	中間対傾構	A111	(13)	(10)	(0)	(23)	亀裂補修(1) TYPE-A1
9	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(0)	(22)	亀裂補修(1) TYPE-A1
11	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(5)	(27)	亀裂補修(1) TYPE-A1
13	中間対傾構	A111	(5)	(10)	(10)	(25)	亀裂補修(1) TYPE-A1
14	分配横桁	A111	(13)	(10)	(15)	(38)	亀裂補修(2) TYPE-A2
15	分配横桁	A111	(15)	(10)	(20)	(45)	亀裂補修(2) TYPE-A2
17	分配横桁	A111	(15)	(10)	(15)	(40)	亀裂補修(4) TYPE-A4
18	分配横桁	A111	(12)	(10)	(7)	(29)	亀裂補修(2) TYPE-A2
19	分配横桁	A111	(15)	(10)	(17)	(42)	亀裂補修(2) TYPE-A2
22	分配横桁	A111	(7)	(10)	(10)	(27)	亀裂補修(2) TYPE-A2
25	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(0)	(22)	亀裂補修(1) TYPE-A1
26	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(7)	(24)	亀裂補修(1) TYPE-A1
27	中間対傾構	A111	0	4	0	4	亀裂補修(1) TYPE-A1
30	分配横桁	A111	(20)	(10)	(12)	(42)	亀裂補修(4) TYPE-A4
31	分配横桁	A111	(3)	(10)	(5)	(18)	亀裂補修(4) TYPE-A4
34	分配横桁	A111	(12)	(10)	(5)	(27)	亀裂補修(4) TYPE-A4
35	分配横桁	A111	(20)	(10)	(5)	(35)	亀裂補修(4) TYPE-A4
37	中間対傾構	A111	(0)	(0)	(20)	(20)	亀裂補修(3) TYPE-A3
38	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(10)	(32)	亀裂補修(3) TYPE-A3
40	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(7)	(24)	亀裂補修(3) TYPE-A3
41	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(3)	(23)	亀裂補修(3) TYPE-A3
43	ソールプレート溶接部	E1	130				亀裂補修(5)

亀裂補修(5)(ソールプレート補修)
第2径間 G4<G1>桁

④3番<④4番>



第2径間き裂損傷一覧表

き裂No.	き裂発生箇所	き裂パターン	き裂長さ(mm)				補修方法
			起点側	板厚面	終点側	合計	
2	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(5)	(25)	亀裂補修(1) TYPE-A1
3	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(7)	(24)	亀裂補修(3) TYPE-A3
4	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(25)	(45)	亀裂補修(3) TYPE-A3
5	中間対傾構	A111	(15)	(10)	(10)	(35)	亀裂補修(1) TYPE-A1
6	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(5)	(25)	亀裂補修(3) TYPE-A3
7	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(5)	(27)	亀裂補修(3) TYPE-A3
12	分配横桁	A111	(12)	(10)	(10)	(32)	亀裂補修(2) TYPE-A2
13	分配横桁	A111	(20)	(10)	(10)	(40)	亀裂補修(4) TYPE-A4
14	分配横桁	A111	(10)	(10)	(12)	(32)	亀裂補修(4) TYPE-A4
15	分配横桁	A111	(10)	(10)	(15)	(35)	亀裂補修(4) TYPE-A4
16	分配横桁	A111	(18)	(10)	(12)	(40)	亀裂補修(4) TYPE-A4
18	分配横桁	A111	(15)	(10)	(15)	(40)	亀裂補修(2) TYPE-A2
19	分配横桁	A111	(5)	(10)	(12)	(27)	亀裂補修(2) TYPE-A2
23	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(7)	(29)	亀裂補修(1) TYPE-A1
26	分配横桁	A111	(15)	(10)	(15)	(40)	亀裂補修(2) TYPE-A2
27	分配横桁	A111	(8)	(10)	(10)	(28)	亀裂補修(4) TYPE-A4
28	分配横桁	A111	(15)	(10)	(8)	(33)	亀裂補修(4) TYPE-A4
29	分配横桁	A111	(20)	(10)	(10)	(40)	亀裂補修(4) TYPE-A4
30	分配横桁	A111	(5)	(10)	(15)	(30)	亀裂補修(4) TYPE-A4
32	分配横桁	A111	(20)	(10)	(15)	(45)	亀裂補修(2) TYPE-A2
37	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(15)	(32)	亀裂補修(1) TYPE-A1
40	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(15)	(32)	亀裂補修(1) TYPE-A1
43	ソールプレート溶接部	E1	50				亀裂補修(5)
44	ソールプレート溶接部	E1	110, 55				亀裂補修(5)

第3径間き裂損傷一覧表

き裂No.	き裂発生箇所	き裂パターン	き裂長さ(mm)				補修方法
			起点側	板厚面	終点側	合計	
3	中間対傾構	A111	(15)	(10)	(10)	(35)	亀裂補修(3) TYPE-A3
4	中間対傾構	A111	(8)	(10)	(0)	(18)	亀裂補修(1) TYPE-A1
5	中間対傾構	A111	(8)	(10)	(0)	(18)	亀裂補修(1) TYPE-A1
8	中間対傾構	A111	(18)	(10)	(7)	(35)	亀裂補修(3) TYPE-A3
9	中間対傾構	A111	(5)	(10)	(3)	(18)	亀裂補修(3) TYPE-A3
10	中間対傾構	A111	(15)	(10)	(0)	(25)	亀裂補修(3) TYPE-A3
11	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(10)	(32)	亀裂補修(3) TYPE-A3
12	分配横桁	A111	(0)	(10)	(8)	(18)	亀裂補修(2) TYPE-A2
13	分配横桁	A111	(0)	(10)	(11)	(21)	亀裂補修(4) TYPE-A4
14	分配横桁	A111	(3)	(10)	(7)	(20)	亀裂補修(4) TYPE-A4
15	分配横桁	A111	(12)	(10)	(12)	(34)	亀裂補修(4) TYPE-A4
16	分配横桁	A111	(10)	(10)	(8)	(28)	亀裂補修(4) TYPE-A4
18	分配横桁	A111	(10)	(10)	(15)	(35)	亀裂補修(2) TYPE-A2
20	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(9)	(19)	亀裂補修(1) TYPE-A1
23	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(7)	(24)	亀裂補修(1) TYPE-A1
27	分配横桁	A111	(8)	(10)	(14)	(32)	亀裂補修(2) TYPE-A2
28	分配横桁	A111	(20)	(10)	(9)	(39)	亀裂補修(4) TYPE-A4
29	分配横桁	A111	3	10	5	18	亀裂補修(4) TYPE-A4
31	分配横桁	A111	10	10	5	25	亀裂補修(2) TYPE-A2
32	分配横桁	A111	(0)	(10)	(12)	(22)	亀裂補修(2) TYPE-A2
33	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(9)	(29)	亀裂補修(3) TYPE-A3
34	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(13)	(23)	亀裂補修(3) TYPE-A3
35	中間対傾構	A111	(10)	(10)	(8)	(28)	亀裂補修(3) TYPE-A3
36	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(8)	(18)	亀裂補修(3) TYPE-A3
39	中間対傾構	A111	(10)	(9)	(9)	(28)	亀裂補修(3) TYPE-A3
40	中間対傾構	A111	(5)	(9)	(5)	(19)	亀裂補修(3) TYPE-A3

第4径間き裂損傷一覧表

き裂No.	き裂発生箇所	き裂パターン	き裂長さ(mm)				補修方法
			起点側	板厚面	終点側	合計	
1	中間対傾構	A111	(6)	(10)	(3)	(19)	亀裂補修(1) TYPE-A1
3	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(0)	(22)	亀裂補修(1) TYPE-A1
8	中間対傾構	A111	(8)	(10)	(7)	(25)	亀裂補修(1) TYPE-A1
10	中間対傾構	A111	(7)	(10)	(4)	(21)	亀裂補修(1) TYPE-A1
11	中間対傾構	A111	8	10	5	23	亀裂補修(3) TYPE-A3
	中間対傾構	A111	0	3	-	3	
	中間対傾構	A111	3	2	-	5	
12	中間対傾構	A111	(3)	(10)	(0)	(13)	亀裂補修(3) TYPE-A3
13	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(7)	(17)	亀裂補修(3) TYPE-A3
14	中間対傾構	A111	(6)	(10)	(3)	(19)	亀裂補修(1) TYPE-A1
17	分配横桁	A111	7	10	10	27	亀裂補修(2) TYPE-A2
	分配横桁	A111	0	8	5	13	
18	分配横桁	A111	3	5	0	8	亀裂補修(2) TYPE-A2
19	中間対傾構	A111	(3)	(10)	(5)	(18)	亀裂補修(3) TYPE-A3
20	中間対傾構	A111	(5)	(10)	(15)	(30)	亀裂補修(3) TYPE-A3
21	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(0)	(10)	亀裂補修(1) TYPE-A1
23	中間対傾構	A111	(0)	(10)	(3)	(13)	亀裂補修(1) TYPE-A1
24	中間対傾構	A111	(5)	(10)	(3)	(18)	亀裂補修(3) TYPE-A3
25	中間対傾構	A111	(12)	(10)	(3)	(25)	亀裂補修(3) TYPE-A3
27	中間対傾構	A111	(3)	(10)	(5)	(18)	亀裂補修(1) TYPE-A1

- 注記：
- 上図は、過年度補修設計成果や、最新の点検調書および現地調査に基づき作成した。
 - 図中の補修計画は、「既存点検データ」、「現地調査」等に基づくものであるが、工事に際しては現地状況を十分把握し、併せて監督職員の了承を得た上で実施すること。
 - 施工数量については、現地再確認を行ったうえ監督職員の承諾を得て決定すること。
 - 施工に際し障害となる構造物が確認された場合は、管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
 - 施工に際しては、工事着手前に道路管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
 - 桁補修材の接触面は素地調整を行い、既設主桁の腐食部分には硬質樹脂を充填すること。
 - 高力ボルト孔径は、既設部材に対してはφ24.5孔とし、新設部材に対してはφ26.5孔とする。
 - 塗膜割れ箇所においては、磁粉探傷試験を行い、き裂が確認された場合は補修を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)き裂補修詳細図(4)		
縮 尺	S=1:20	図面番号	40 の 16
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り) 亀裂補修数量表

亀裂補修(1) (TYPE-A1) 数量表

1.0箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	7	
当て板	SS400	kg	5	
TCB	M22×65	組	4	
TCB	M22×80	組	2	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.047	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	kg	0.078	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂中塗	kg	0.027	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂上塗	kg	0.023	
素地調整		m2	0.328	
現場孔明		孔	5	
当て板取付		箇所	1	
本締め		本	6	
硬質樹脂充填		m3	0.001	当初計上無し
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.109	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.109	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.109	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.109	
現場塗装	RC-Ⅱ	m2	0.197	

亀裂補修(2) (TYPE-A2) 数量表

1.0箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	6	
当て板	SS400	kg	4	
TCB	M22×65	組	4	
TCB	M22×80	組	2	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.043	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	kg	0.072	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂中塗	kg	0.025	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂上塗	kg	0.021	
素地調整		m2	0.295	
現場孔明		孔	6	
当て板取付		箇所	1	
本締め		本	6	
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.091	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.091	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.091	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.091	
現場塗装	RC-Ⅱ	m2	0.182	

亀裂補修(3) (TYPE-A3) 数量表

1.0箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	13	
当て板	SS400	kg	10	
TCB	M22×80	組	4	
TCB	M22×85	組	4	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.047	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	kg	0.078	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂中塗	kg	0.027	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂上塗	kg	0.023	
素地調整		m2	0.386	
現場孔明		孔	6	
当て板取付		箇所	1	
本締め		本	8	
硬質樹脂充填		m3	0.001	当初計上無し
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.146	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.146	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.146	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.146	
現場塗装	RC-Ⅱ	m2	0.196	

亀裂補修(4) (TYPE-A4) 数量表

1.0箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	12	
当て板	SS400	kg	4	
TCB	M22×80	組	4	
TCB	M22×85	組	4	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.042	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	kg	0.070	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂中塗	kg	0.024	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂上塗	kg	0.021	
素地調整		m2	0.341	
現場孔明		孔	8	
当て板取付		箇所	1	
本締め		本	8	
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.122	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.122	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.122	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.122	
現場塗装	RC-Ⅱ	m2	0.175	

亀裂補修(5) (ソールプレート) 数量表

3.0箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
当て板	SM400A	kg	67	
TCB	M22×65	組	12	
TCB	M22×80	組	27	
下塗り材	有機ジンクリッチペイント	kg	0.085	
下塗り材	弱溶剤形変性エポキシ樹脂下塗	kg	0.143	
中塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂中塗	kg	0.050	
上塗り材	弱溶剤形ふっ素樹脂上塗	kg	0.042	
素地調整		m2	1.165	
現場孔明		孔	39	
当て板取付		箇所	3	
本締め		本	39	
現場溶接	6mmすみ肉溶接	m	8.366	当初計上無し
下塗り	ミストコート 変性エポキシ樹脂塗料(1層)	m2	0.807	
下塗り	超厚膜形エポキシ樹脂塗料(2回)	m2	0.807	
中塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.807	
上塗り	ふっ素樹脂塗料	m2	0.807	
現場塗装	RC-Ⅱ	m2	0.358	

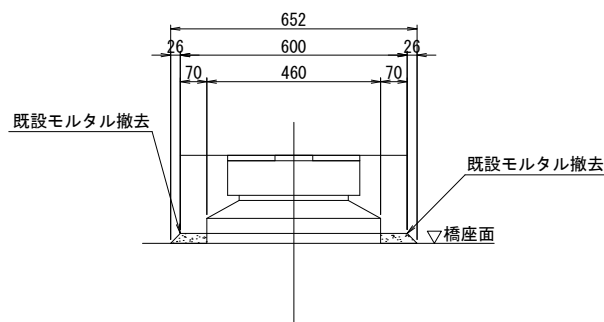
※. き裂補修詳細図(1)(4)の数量については、全塗膜割れ箇所の数量であり、発注時の数量については想定数量で見込んでいるため、
現地を確認の上施工すること

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)亀裂補修数量表		
縮 尺	—	図面番号	40 の 17
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

S=1:10

沓座モルタル補修(1)
P1橋脚G6桁(1箇所)

側面図



寸法表

	L1	L2	L3	L4	L5	H
P1橋脚 A1側 G2桁	63	41	1054	52	694	52
P1橋脚 P2側 G4桁	59	38	1046	48	686	48
P1橋脚 P2側 G5桁	59	38	1046	48	686	48
P2橋脚 P1側 G3桁	63	41	1054	52	694	52
P2橋脚 P1側 G5桁	63	41	1054	52	694	52
P2橋脚 P3側 G1桁	59	38	1046	48	686	48
P2橋脚 P3側 G5桁	59	38	1046	48	686	48

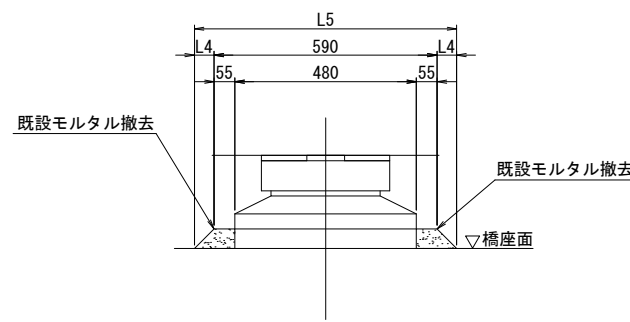
数量表

	T
P1橋脚 A1側 G2桁	0.467
P1橋脚 P2側 G4桁	0.454
P1橋脚 P2側 G5桁	0.454
P2橋脚 P1側 G3桁	0.467
P2橋脚 P1側 G5桁	0.467
P2橋脚 P3側 G1桁	0.454
P2橋脚 P3側 G5桁	0.454

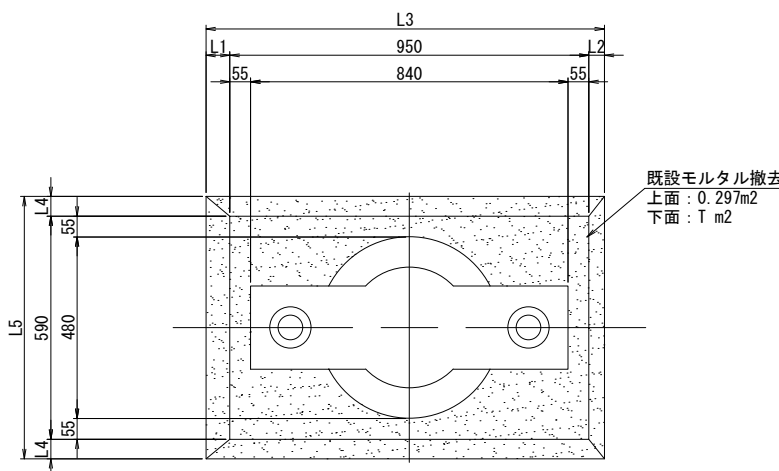
既設モルタル撤去
上面 : 0.148m²
下面 : 0.214m²

沓座モルタル補修(2)(3)
P1<P2>橋脚(3<4>箇所)

側面図

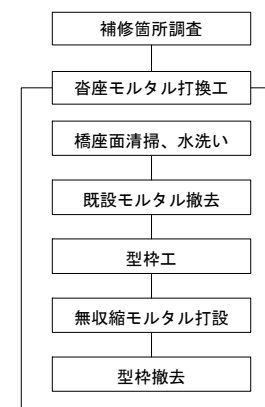


平面图

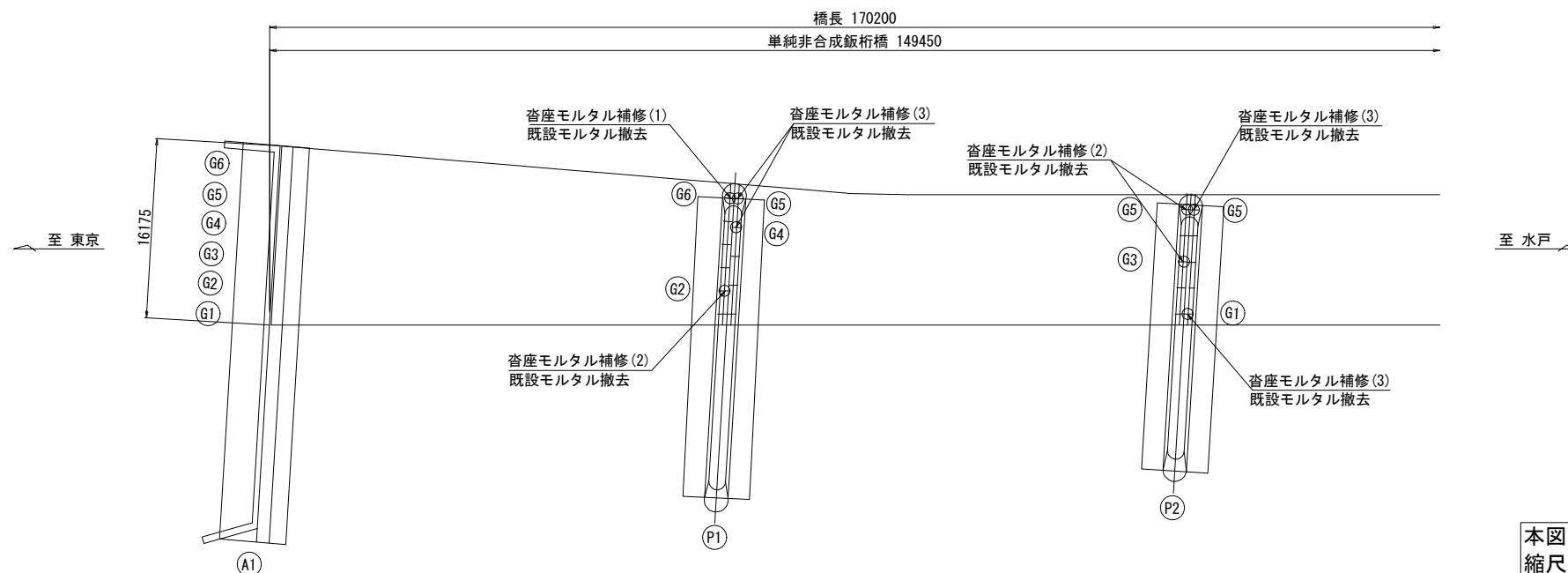


既設モルタル撤去
上面 : 0.297m²
下面 : 1 m²

施工手順



S=1 : 300



注記：

1. 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
3. 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
4. 支承と無収縮モルタルの接触面には、無収縮モルタル打設前に必ず支承の防錆処理を行うこと。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）沓座モルタル補修詳細図(Ⅰ)		
縮 尺	S=1:10	図面番号	40 の 18
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

桜川橋(下り)沓座モルタル補修詳細図(2) S=1:10

沓座モルタル復旧

沓座モルタル補修(1)
P1橋脚(1箇所)

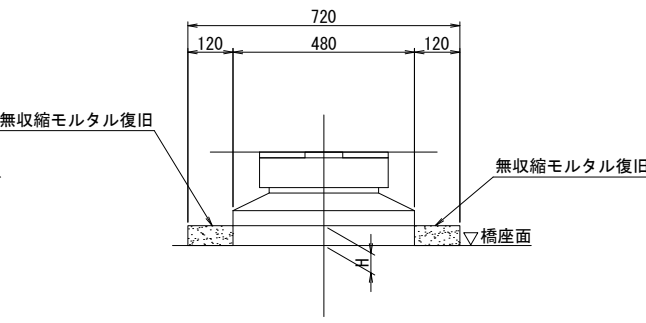
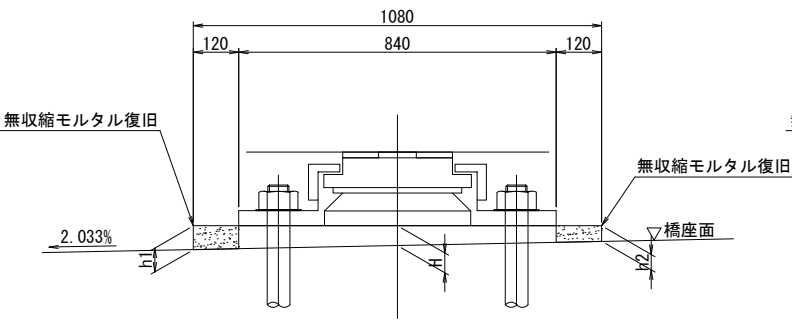
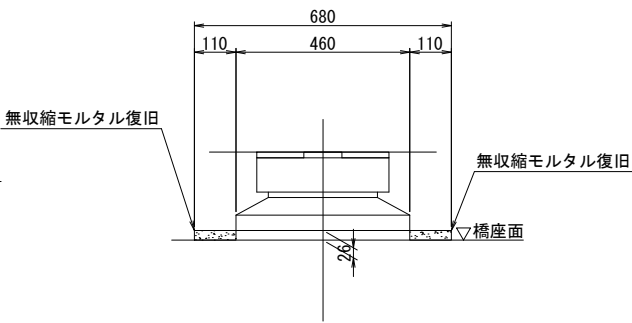
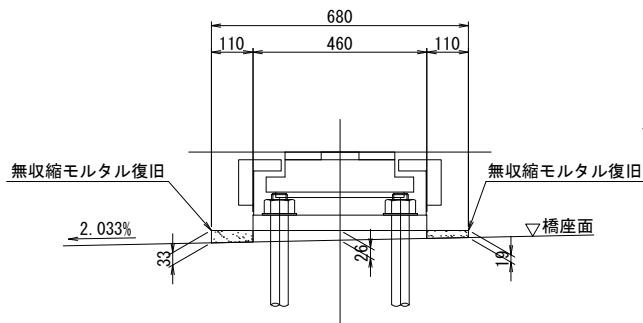
正面図

側面図

沓座モルタル補修(2)(3)
P1<P2>橋脚(3<4>箇所)

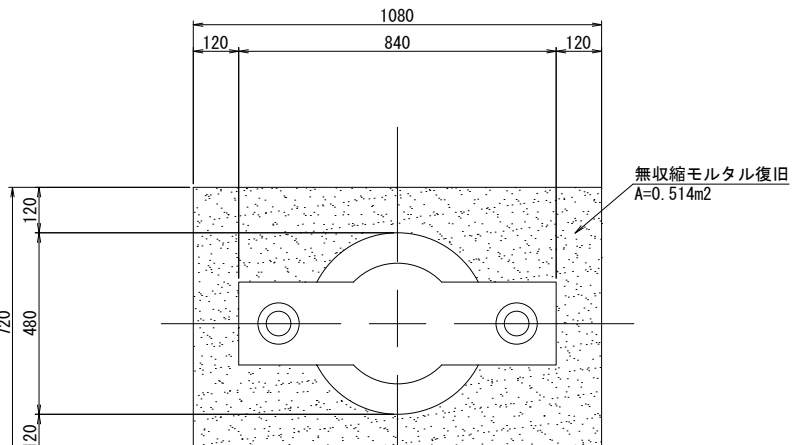
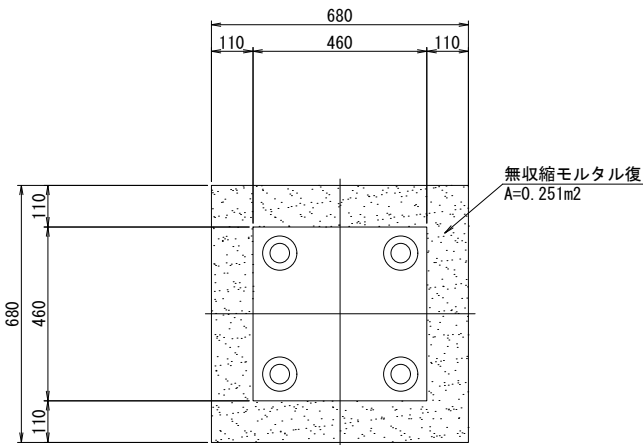
正面図

側面図



平面図

平面図



寸法表

	h1	h2	H
P1橋脚 A1側 G2桁	63	41	52
P1橋脚 P2側 G4桁	59	37	48
P1橋脚 P2側 G5桁	59	37	48
P2橋脚 P1側 G3桁	63	41	52
P2橋脚 P1側 G5桁	63	41	52
P2橋脚 P3側 G1桁	59	37	48
P2橋脚 P3側 G5桁	59	37	48

沓座モルタル補修数量表(1)

1箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
はつり	コンクリート構造物取壊し(人力)	m3	0.004	
無収縮モルタル打設		m3	0.006	
型枠		式	1	

沓座モルタル補修数量表(2)

1箇所当り

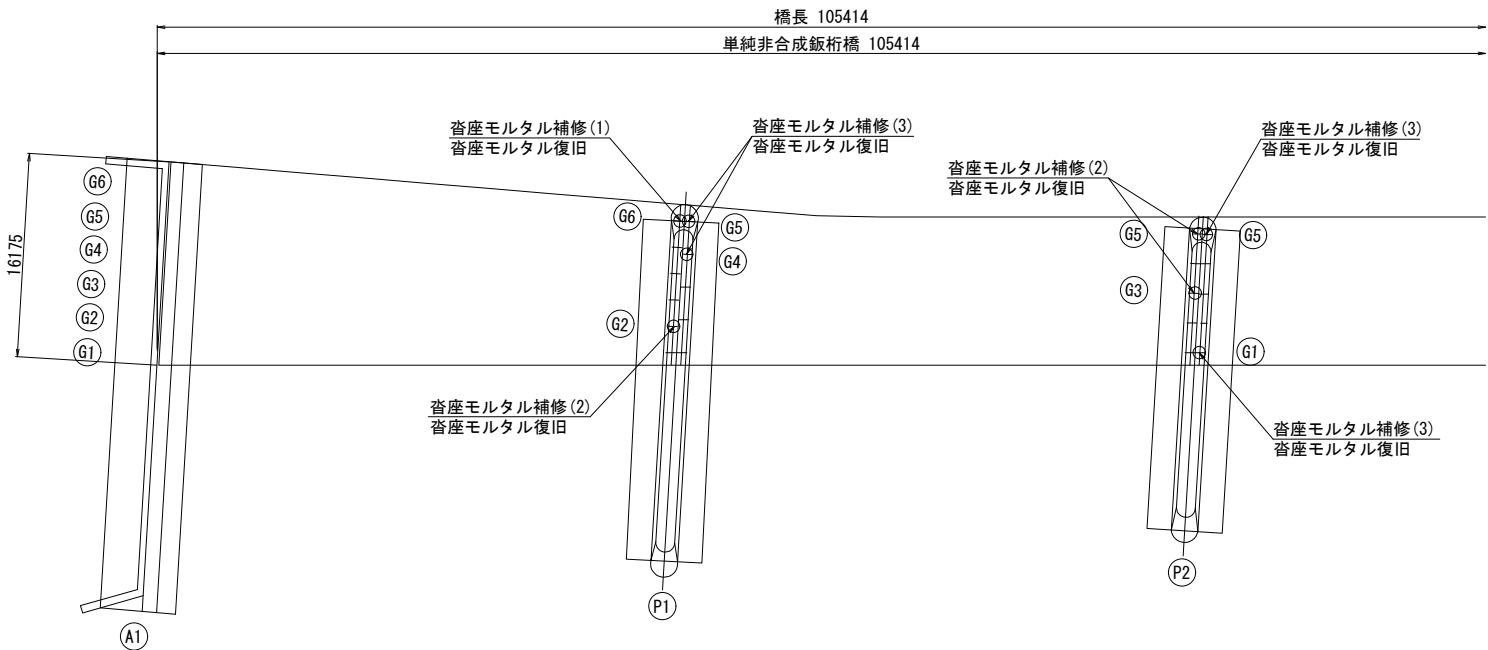
名称	規格	単位	数量	摘要
はつり	コンクリート構造物取壊し(人力)	m3	0.019	
無収縮モルタル打設		m3	0.026	
型枠		式	1	

沓座モルタル補修数量表(3)

1箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
はつり	コンクリート構造物取壊し(人力)	m3	0.018	
無収縮モルタル打設		m3	0.024	
型枠		式	1	

配置図 S=1:300



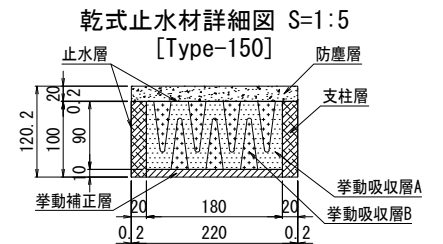
- 注記:
- 補修箇所は、必ず現場実測確認の上で施工を行うこと。
 - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び寸法・数量を確認の上行うこと。
 - 本図に示した箇所以外で同様の損傷が確認された場合、監督職員と協議の上同様の対策を実施すること。
 - 支承と無収縮モルタルの接触面には、無収縮モルタル打設前に必ず支承の防錆処理を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	桜川橋(下り)沓座モルタル補修詳細図(2)		
縮尺	図示	図面番号	40の19
年月日	令和8年	4月	日
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

S=1:30

16174



Technical drawing of a rectangular plate with the following dimensions and features:

- Overall width: 16103
- Overall height: 220 (製作幅)
- Left side thickness: 10
- Right side thickness: 10
- Inner width of the central cutout: 16103
- Distance from the left edge to the start of the cutout: 16103
- Distance from the end of the cutout to the right edge: 16103
- Total distance from the left edge to the right edge of the cutout: 16113

Technical drawing of a water stop rubber (止水ゴム) with dimensions and labels:

- Labels: 止水ゴム付属 (Water stop rubber attached), 漏水防止材 (Leakage prevention material), (施工時に圧着) (Pressing during construction).
- Dimensions: 130 (total width), 40 (width of each side), 50 (width of the center), 723 (total length), 1430 (length of the long hole), 61 (height of the main body), 2530 (height of the main body), 6 (height of the base), R35 (radius of the main body), R3 (radius of the base).

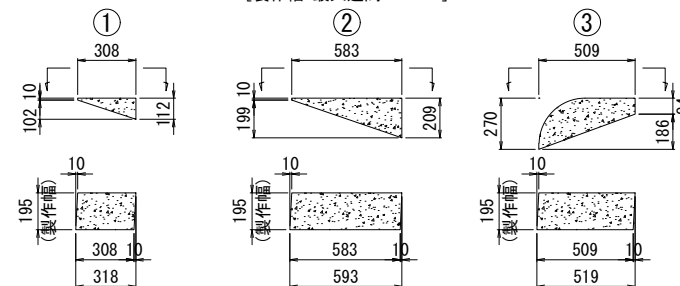
排水パイプ継手バンド
25A用 (SUS304)

排水パイプ継手管
25A用 (SUS304)

端部ジャバラ蓋
タイプ-S (CR)

- 1. 特記なき鋼材の材質は全てSS400とする。
- 2. ※1印部材は溶融亜鉛メッキ処理を施す。膜厚はJIS H 8641 HDZ777とする。ただしボルト類はHDZ749とする。
- 3. ※2印部材は現場溶接であるので熱影響部の既設塗装の剥離を行って溶接後、溶接後はタッチアップ塗装を行なうこと。
- 4. 金具に溶接されたボルトは工場出荷時にビニールパイプ等で養生すること。
- 5. 各種止水材を設置する際、伸縮装置本体の止水材接着面の下地処理を確実に行なうこと。
- 6. 接着剤(τ=3)に接する両部材面及び各種シーリングに接する部材面にはそれらの施工の前プライマー(0.1kg/m²)を塗布すること。
- 7. 止水ゴムパッキンの導水用排水パイプの流末処理方法は協議の上決定すること。
- 8. 施工及び部材製作に際しては現地調査を行ない、本図面との照合を行なうこと。

(ポリエチレンフォーム)
[製作幅=最大遊間+10=195]



配置図

5m
5m
50-300m
至東京
施工位置
A1
P1
P2
P3
P4
A2
至水戸
本図面縮尺に

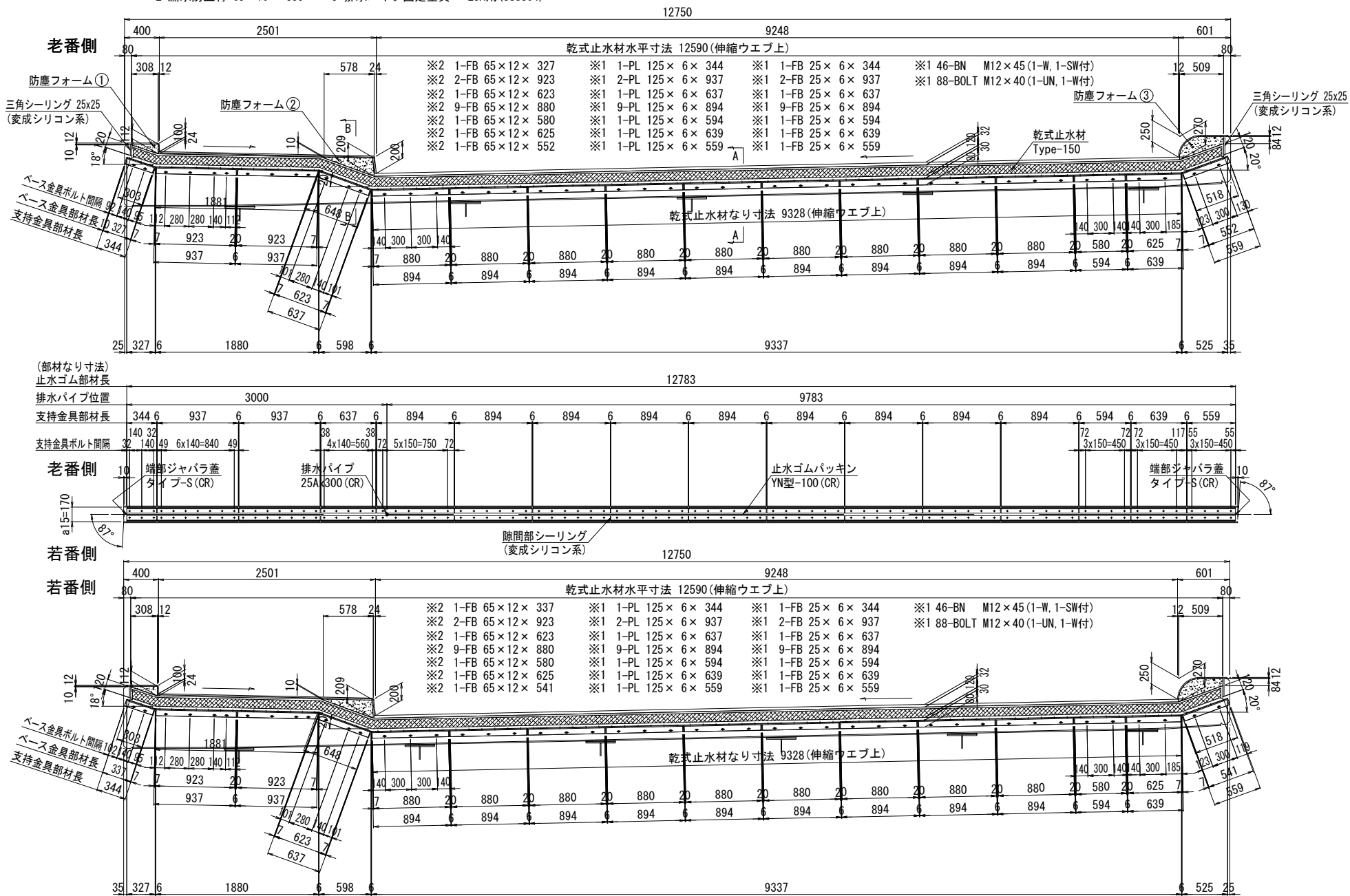
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）伸縮装置止水構造図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 20
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

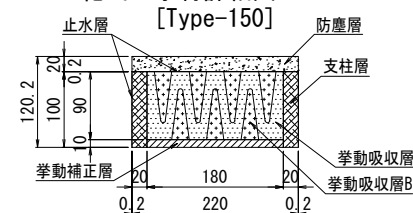
桜川橋(下り)伸縮装置止水構造図(2) S=1:20

- 1-乾式止水材 Type-150×12688 2-漏水防止材 65×10× 344 1-止水ゴムパッキン YN型-100×12783 (CR)
- ① 1-防塵フォーム 195×112×318 4-漏水防止材 65×10× 937 2-端部ジャバラ蓋 タイプ-S (CR)
- ② 1-防塵フォーム 195×209×588 2-漏水防止材 65×10× 637 1-排水パイプ 25A× 300 (CR) [止水ゴム付]
- ③ 1-防塵フォーム 195×270×519 18-漏水防止材 65×10× 894 1-排水パイプ 25A×3000 (CR) [導水用]
- 2-漏水防止材 65×10× 594 1-排水パイプ継手管 25A用 (SUS304)
- 2-漏水防止材 65×10× 639 2-排水パイプ継手バンド 25A用 (SUS304)
- 2-漏水防止材 65×10× 559 3-排水パイプ固定金具 25A用 (SUS304)

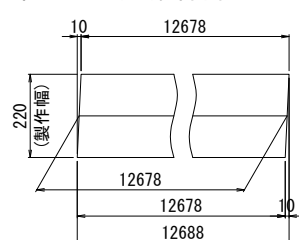
P1橋脚



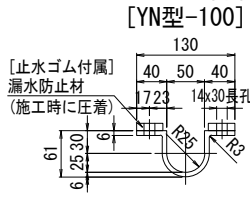
乾式止水材詳細図 S=1:5



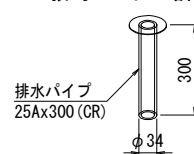
乾式止水材端部詳細図 S=1:10



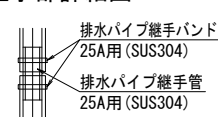
止水ゴムパッキン詳細図 S=1:5



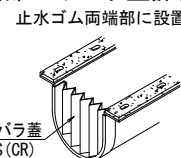
排水パイプ詳細図



排水パイプ継手部詳細図 S=1:5



端部ジャバラ蓋詳細図

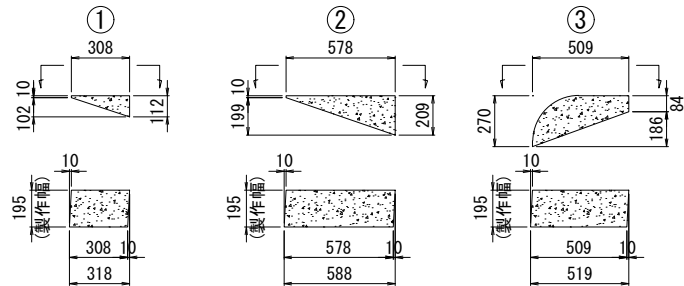


注記)

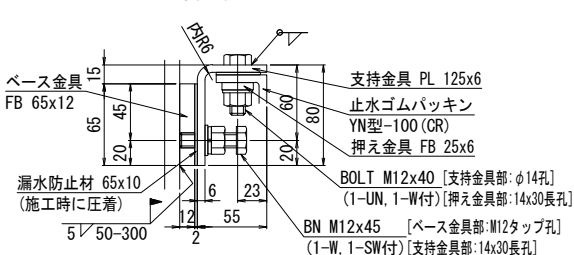
- 特記なき鋼材の材質は全てSS400とする。
- ※1印部材は溶融亜鉛メッキ処理を施す。膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。ただしボルト類はHDZT49とする。
- ※2印部材は現場溶接であるので熱影響部の既設塗装の剥離を行なって溶接し、溶接後はタッチアップ塗装を行なうこと。
- 金具に溶接されたボルトは工場出荷時にビニールパイプ等で養生すること。
- 各種止水材を設置する際、伸縮装置本体の止水材接着面の下地処理を確実に行なうこと。
- 接着剤(t=3)に接する両部材面及び各種シーリングに接する部材面にはそれらの施工の前にプライマー(0.1kg/m2)を塗布すること。
- 止水ゴムパッキンの導水用排水パイプの流末処理方法は協議の上決定すること。
- 施工及び部材製作に際しては現地調査を行ない、本図面との照合を行なうこと。

防塵フォーム詳細図 S=1:20

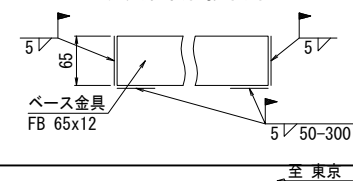
(ポリエチレンフォーム)
[製作幅=最大遊間+10=195]



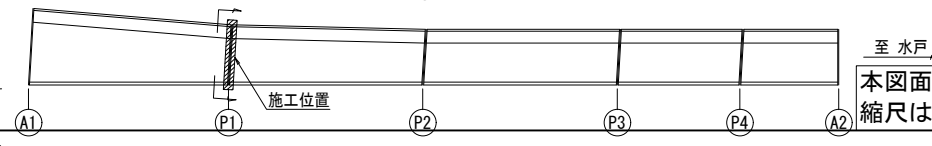
“a”部詳細図 S=1:3



ベース金具端部溶接詳細図 S=1:5



配置図



至水戸
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

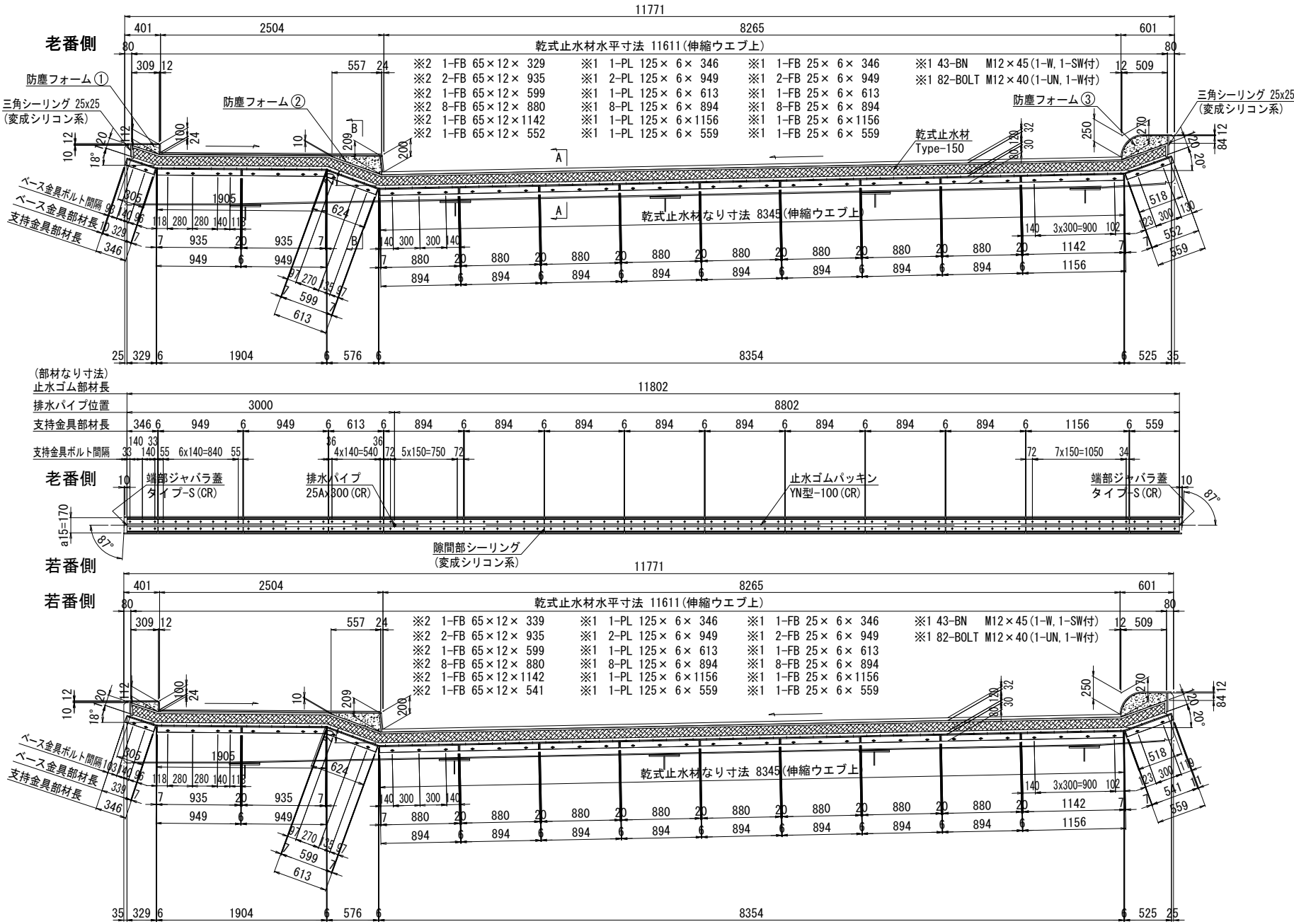
工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	桜川橋(下り)伸縮装置止水構造図(2)		
縮尺	図示	図面番号	40の21
年月日	令和8年4月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)伸縮装置止水構造図(3)

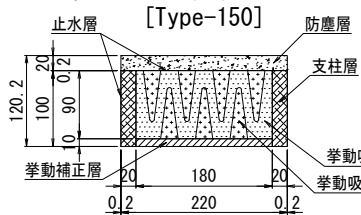
S=1:20

- 1-乾式止水材 Type-150×11707
① 1-防塵フォーム 195<189>×112×319
② 1-防塵フォーム 195<189>×209×567
③ 1-防塵フォーム 195<189>×270×519
2-漏水防止材 65×10× 346
4-漏水防止材 65×10× 949
2-漏水防止材 65×10× 613
16-漏水防止材 65×10× 894
2-漏水防止材 65×10×1156
2-漏水防止材 65×10× 559
1-止水ゴムパッキン YN型-100×11802(CR)
2-端部ジャバラ蓋 タイプ-S(CR)
1-排水パイプ 25A× 300(CR) [止水ゴム付]
1-排水パイプ 25A×3000(CR) [導水用]
1-排水パイプ継手管 25A用(SUS304)
2-排水パイプ継手バンド 25A用(SUS304)
3-排水パイプ固定金具 25A用(SUS304)

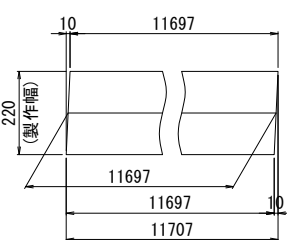
P2<P3>橋脚



乾式止水材詳細図 S=1:5

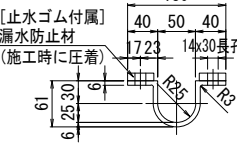


乾式止水材端部詳細図 S=1:10

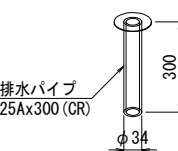


止水ゴムパッキン詳細図 S=1:5

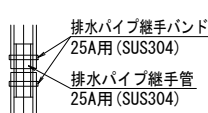
[YN型-100]



排水パイプ詳細図

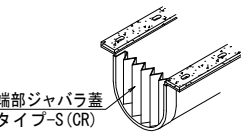


排水パイプ継手部詳細図 S=1:5



端部ジャバラ蓋詳細図

止水ゴム両端部に設置



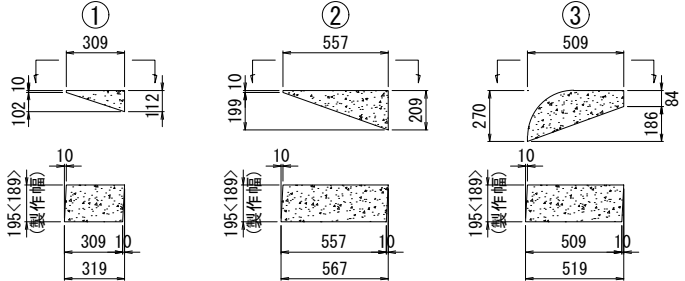
注記)

- 特記なき鋼材の材質は全てSS400とする。
- ※1印部材は溶融亜鉛メッキ処理を施す。膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。ただしボルト類はHDZT49とする。
- ※2印部材は現場溶接であるので熱影響部の既設塗装の剥離を行なって溶接し、溶接後はタッチアップ塗装を行なうこと。
- 金具に溶接されたボルトは工場出荷時にビニールパイプ等で養生すること。
- 各種止水材を設置する際、伸縮装置本体の止水材接着面の下地処理を確実にすること。
- 接着剤(t-3)に接する両部材面及び各種シーリングに接する部材面にはそれらの施工の前にプライマー(0.1kg/m2)を塗布すること。
- 止水ゴムパッキンの導水用排水パイプの流末処理方法は協議の上決定すること。
- 施工及び部材製作に際しては現地調査を行ない、本図面との照合を行なうこと。
- ◇内はP3橋脚を示す

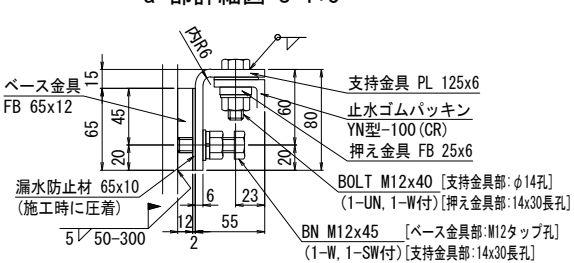
防塵フォーム詳細図 S=1:20

(ポリエチレンフォーム)

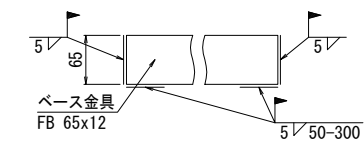
[製作幅=最大道間+10=195<189>]



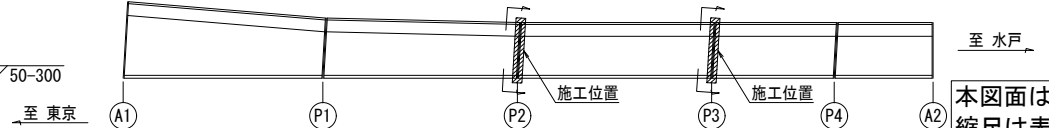
“a”部詳細図 S=1:3



ベース金具端部溶接詳細図 S=1:5



配置図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7 国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)伸縮装置止水構造図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 22
年 月 日	令和 8 年 4 月	日	
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

桜川橋(下り)伸縮装置止水数量表

伸縮装置非排水化数量表					1m当り
名称	規格	単位	数量	摘要	
乾式止水材	TYPE-150	m	1.0		
既設排水樋撤去工		m	1.0		
下地処理工		m	1.0		
支持金具設置工		m	1.0		
乾式式止水材設置工		m	1.0		
止水ゴム設置工		m	1.0		
仕上げ工		m	1.0		

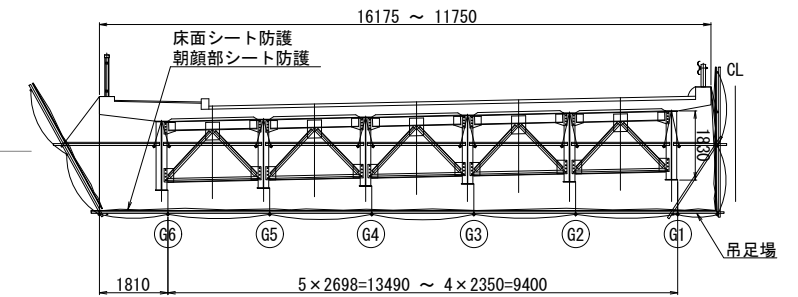
名称	規格				
	A1	P1	P2	P3	計
伸縮装置非排水化	16.113m	12.688m	11.707m	11.707m	52.215m

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)伸縮装置止水数量表		
縮 尺	一	図面番号	40 の 23
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

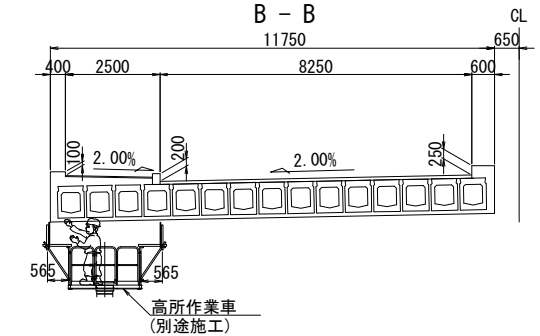
S=1 : 400

断面图 S=1:100

S=1 : 100



B - B



足場工数量計算表						
細別	足場規格	橋脚	算出	単位	数量	摘要
足場(1) 足場(2) 防護	吊足場 両側朝顔 シート	A1~P1	$(16.175m + 13.95m) \times 40.4m \div 2$	m2	608.5	
		P1~P2	$(13.95m + 12.973m) \times 40.4m \div 2$	m2	543.8	
		P2~P3	$12.973m \times 40.4m$	m2	524.1	
		P3~P4	$(12.973m + 12.95m) \times 23.075m \div 2$	m2	299.0	
		計		m2	1975.4	
登り桟橋		P1橋脚(終点側)	H=6.6m	箇所	1	

(注)
1. 上記の現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を明示しているものであり、工事着手にあたっては、設計審査会等において、受発注者間で厳格に確認する。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋（下り）足場図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 24
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	株式会社エイト日本技術開発		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

桜川橋(下り)数量総括表

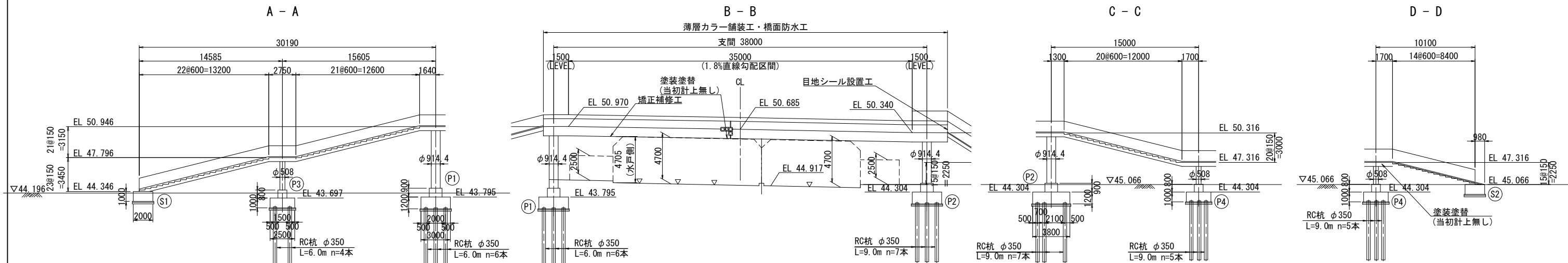
桜川橋(下り)数量総括表

工事区分・工種・種別・再別	規格	単位	数量								計	計上値	摘要
			A1	P1	P2	P3	P4	A2					
			A1～P1	P1～P2	P2～P3	P3～P4	P4～A2						
橋梁保全工事		式	1								1	1	
橋梁付属物工		式	1								1	1	
伸縮継手工		式	1								1	1	
伸縮装置非排水化	TYPE-150	m	16.113	12.688	11.707	11.707				52.215	52.2		
橋梁補修工		式	1								1	1	
亀裂補修工		式	1								1	1	
亀裂補修(1)	TYPE-A1	箇所		8	5	3	7			23	23		
亀裂補修(2)	TYPE-A2	箇所		4	5	5	2			16	16		
亀裂補修(3)	TYPE-A3	箇所		2	2	6	4			14	14		
亀裂補修(4)	TYPE-A4	箇所		3	4	3				10	10		
亀裂補修(5)	ソーல்プレート補修	箇所		1	2					3	3		
当て板補修工		式	1								1	1	
当て板補修(1)	SM400A SS400	箇所				1				1	1		
当て板補修(2)	SM400A SS400	箇所					1			1	1		
当て板補修(3)	SM400A SS400	箇所					1			1	1		
支承補修工		式	1								1	1	
沓座モルタル補修(1)	無収縮モルタル	箇所		1						1	1		
沓座モルタル補修(2)	無収縮モルタル	箇所		1	2					3	3		
沓座モルタル補修(3)	無収縮モルタル	箇所		2	2					4	4		
ひび割れ補修工		式	1								1	1	
低圧注入工法	25m未満 エポキシ	構造物(m)	3.2		3.05	0.7				11.85	1(11.85)		
				3.9		1							
断面修復工		式	1								1	1	
左官工法(1)	1構造物当り修復延べ体積 0.087m3 ポリマーセメントモルタル鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理無	構造物(m3)	0.031	0.0201	0.0075	0.0075	0.0018			0.0877	1(0.087)		
左官工法(2)	1構造物当り修復延べ体積 0.005m3 ポリマーセメントモルタル鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有	構造物(m3)		0.0011	0.003		0.0157			0.0054	1(0.005)		
コンクリート殻積込・運搬(断面修復工)	コンクリート殻(無筋)	m3	0.092								0.092	0.09	
殻処分	コンクリート殻(無筋)	m3	0.092								0.092	0.09	
紫外線硬化型FRPシート工		式	1								1	1	
紫外線硬化型FRPシート(1)	0.01㎡以上0.07㎡未満／枚	m2				0.1582	0.1182			0.2764	0.27		
紫外線硬化型FRPシート(2)	0.07㎡以上0.15㎡未満／枚	m2		0.12	0.12	0.12	0.24	0.12		0.72	0.72		
紫外線硬化型FRPシート(3)	0.15㎡以上／枚	m2		1.144		2.1969				3.3409	3.34		
部分塗装	RC-Ⅱ 素地調整 中塗り 上塗り	m2		1.032	0.154	2.784	0.503	0.154		4.627	4		
仮設工		式	1								1	1	
足場工		式	1								1	1	
足場	吊足場 両側朝顔 シート防護	m2		608.5	543.8	524.1	299			1975.4	1975		
登り栈橋		箇所		1						1	1		

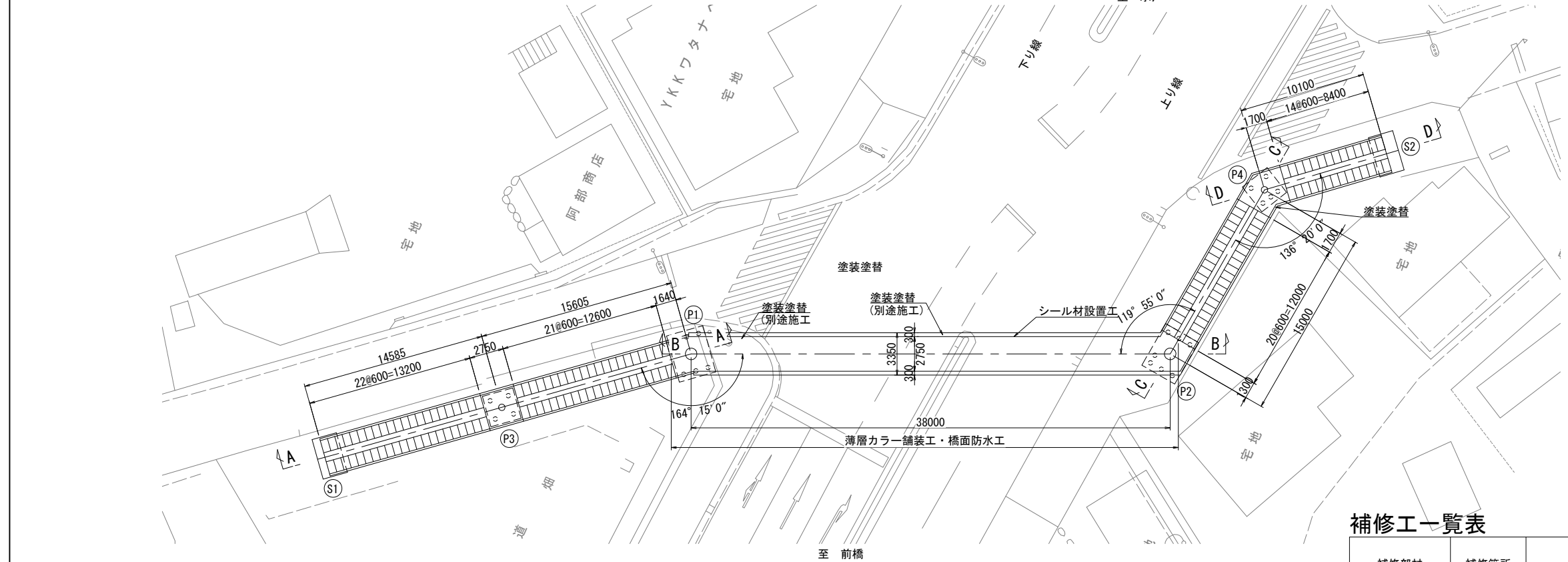
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	桜川橋(下り)数量総括表		
縮 尺	一	図面番号	40 の 25
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鍬田歩道橋補修一般図(1)

側面図 S=1:200



平面図 S=1:200



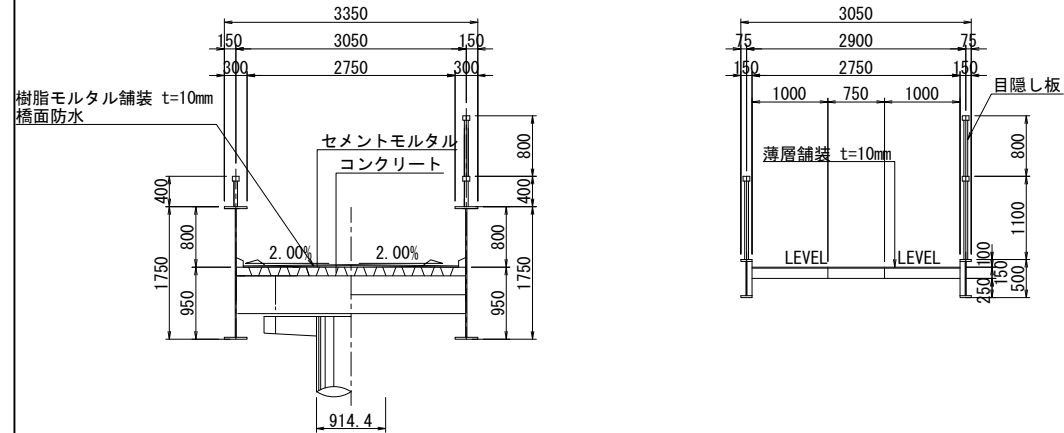
現況橋梁諸元

項目	内容
路線名	一般国道50号
所在地	自 茨城県桜川市鍬田
	至 茨城県桜川市鍬田
構造形式	上部構造 下路式単純板桁
	下部構造 橋台 2基 鋼円柱式橋脚 4基
橋長	40.900m
全幅員	3.300m
径間数	5径間
竣工年	1980年(昭和55年)
適用基準書(点検調書参照)	歩道橋指針(1965年)
補修履歴	1994年度(平成6年度) ・舗装打替工 2002年度(平成14年度) ・照明取替工 2007年度(平成19年度) ・排水管補修工 ・階段、桁穴補修工 ・鳩害防止工 ・防護柵工 ・塗装塗替工

補修工一覧表

補修部材	補修箇所	対象損傷	対策区分		対策工
			点検	本業務	
主桁	第1径間	変形・欠損	R2	R6	
横桁	第1径間	腐食、漏水、滞水、防食機能の劣化	C1	C1	矯正補修工(当初計上無し)
床版	第1径間	腐食、防食機能の劣化	C2	C2	橋面防水工
接合部	第2・3径間	腐食	C1	C1	橋面防水工
排水受け	第1径間	腐食	C1	C1	目地シール設置工
高欄・支柱	第1・2径間	腐食、漏水、滞水、変形・欠損	C1	C1	目地シール設置工
地覆	第1径間	腐食	C1	C1	塗装塗替工(別途施工)
舗装	第1径間	舗装の異常	C1	C1	シール材設置工
			C1	C1	薄層カラー舗装工、橋面防水工

断面図 S=1:50



【特記事項】

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

現場制約事項	・関係機関協議：道路(桜川市道(小栗街道))公安委員会[桜川警察署](国道50号) ・地元関係機関：民地借地 ・交通規制：車線規制(夜間：有) ・橋梁添加物：信号機、計器、照明、管路、立入防護柵、防鳥ネット ・支障物件：防鳥ネット(一時撤去) ・架空線：なし ・作業スペース：作業ヤード・資材仮置き場の確保 ・近隣住民：騒音・振動への配慮
有	無

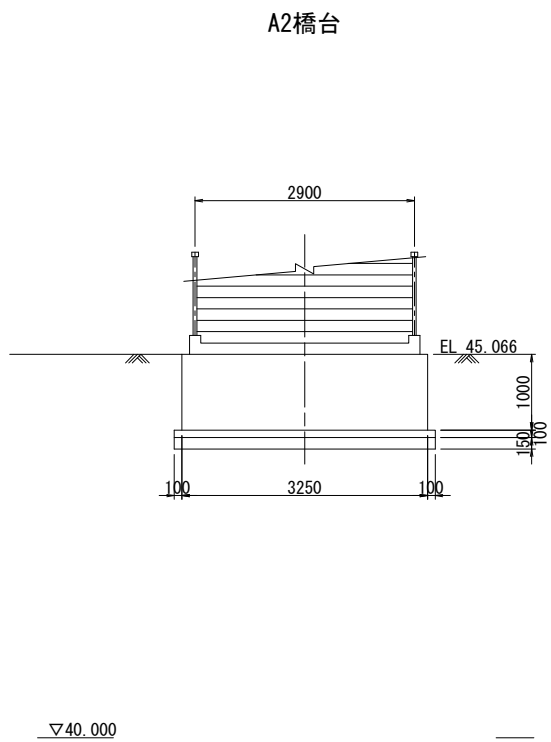
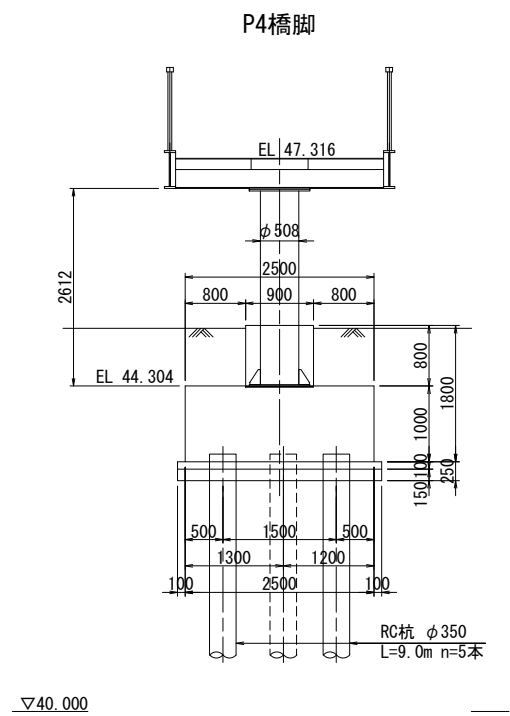
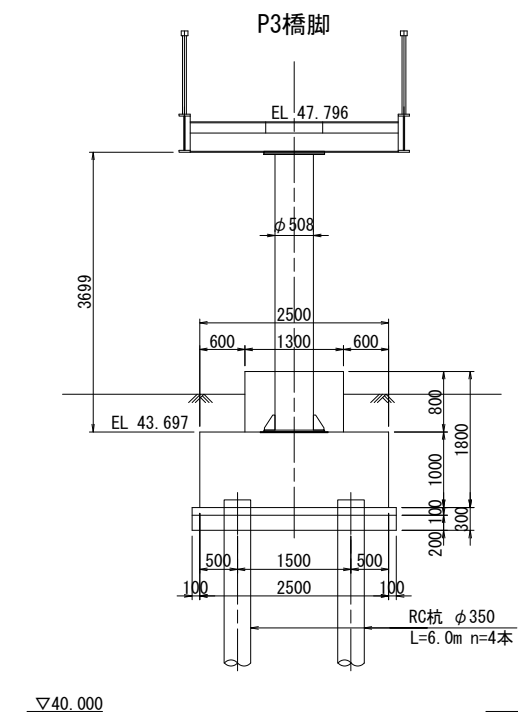
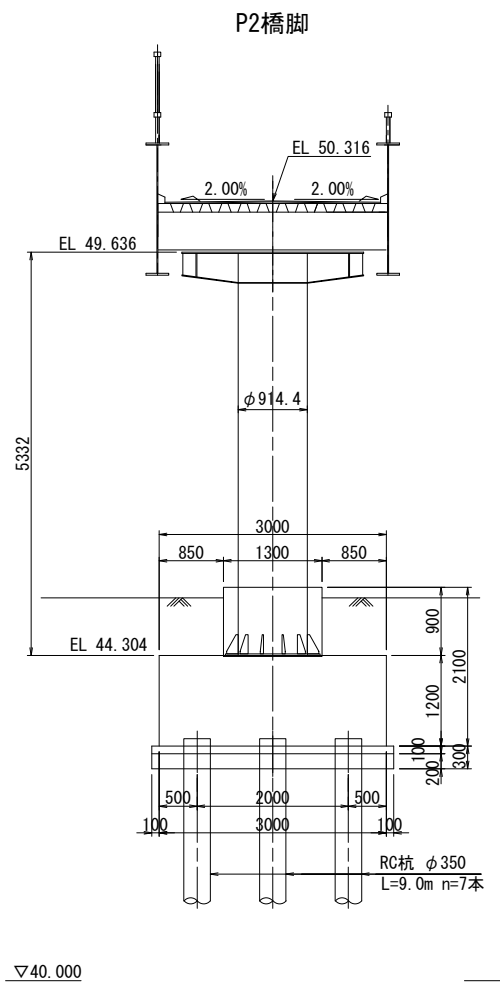
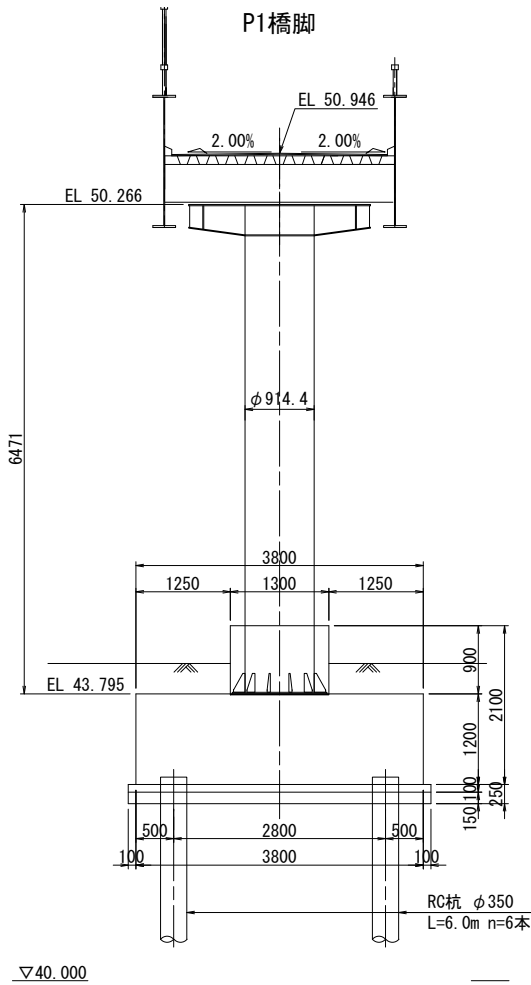
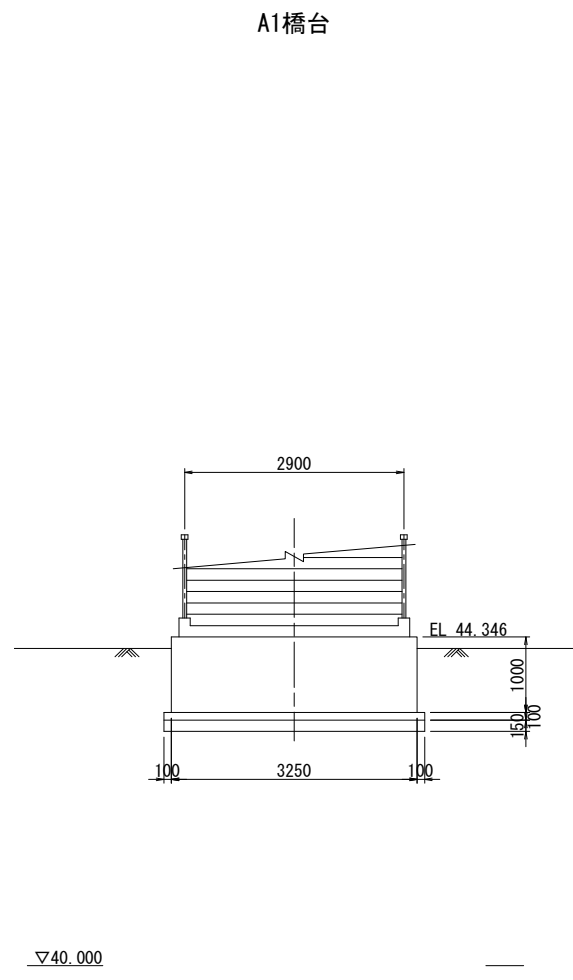
※ 上記、現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を記載しているものであり、工事着手にあたり、受発注者で厳格に確認する。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	鍬田歩道橋補修一般図(1)		
縮尺	図示	図番番号	40の26
年月日	令和8年	4月	日
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鍬田歩道橋補修一般図(2)

下部工正面図 S=1:50

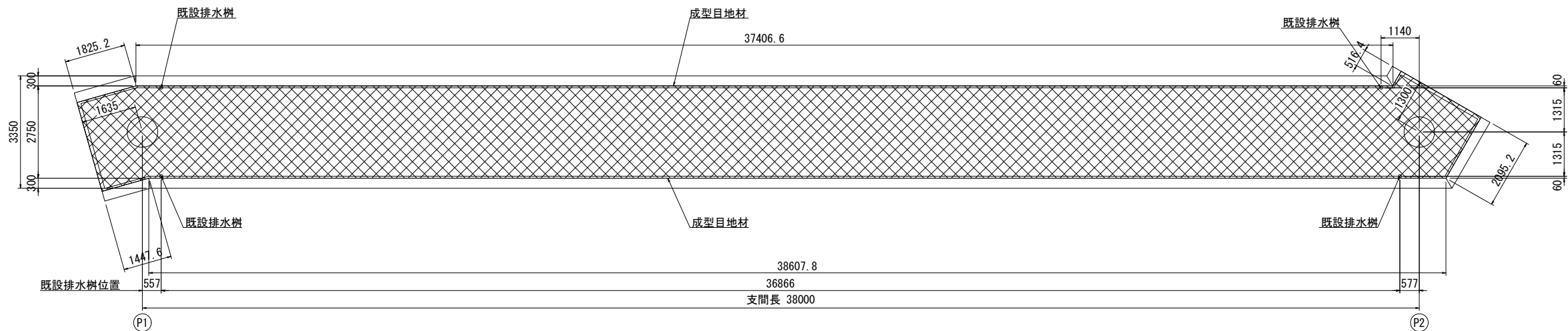


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

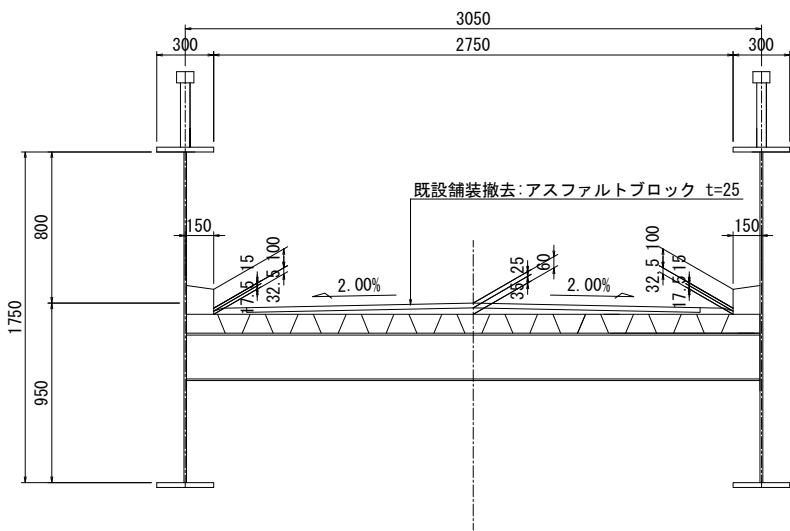
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	鍬田歩道橋補修一般図（2）		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 27
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鍬田歩道橋舗装打換図

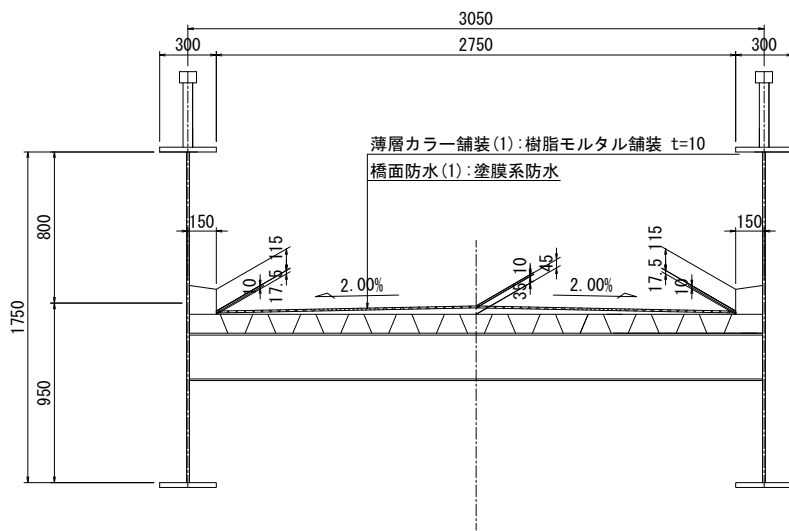
平面図 S=1:75



現況断面図 S=1:20



打換後断面図 S=1:20



橋面防水(1)数量表

規格	規格	単位	数量	摘要
塗膜防水	導水パイプ無 成型目地 10×5 72.73m/100m2	m2	112.5	成型目地 当初計上無し

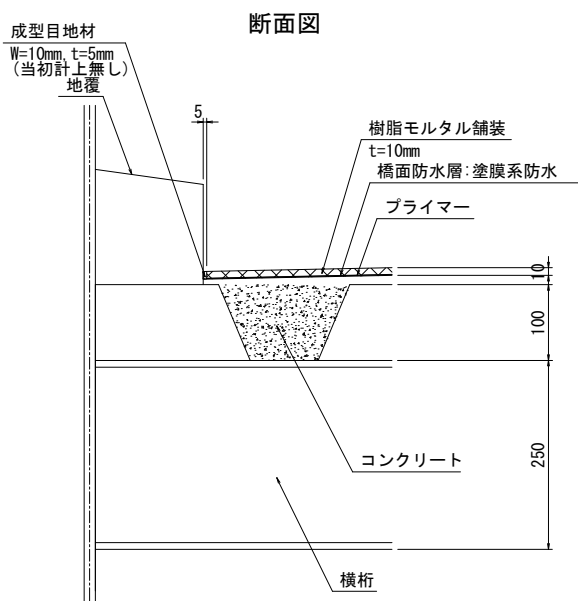
既設舗装剥ぎ取り(1)数量表

規格	規格	単位	数量	摘要
既設舗装剥ぎ取り	t≤60mm	m2	112.5	

薄層カラー舗装(1)数量表

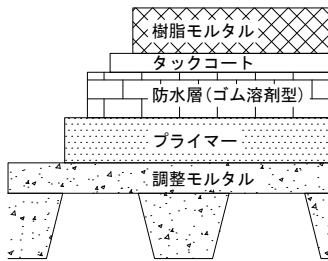
規格	規格	単位	数量	摘要
薄層カラー舗装	t=10mm	m2	112.5	

橋面防水工詳細図 S=1:5



防水層の層構成

(新設)



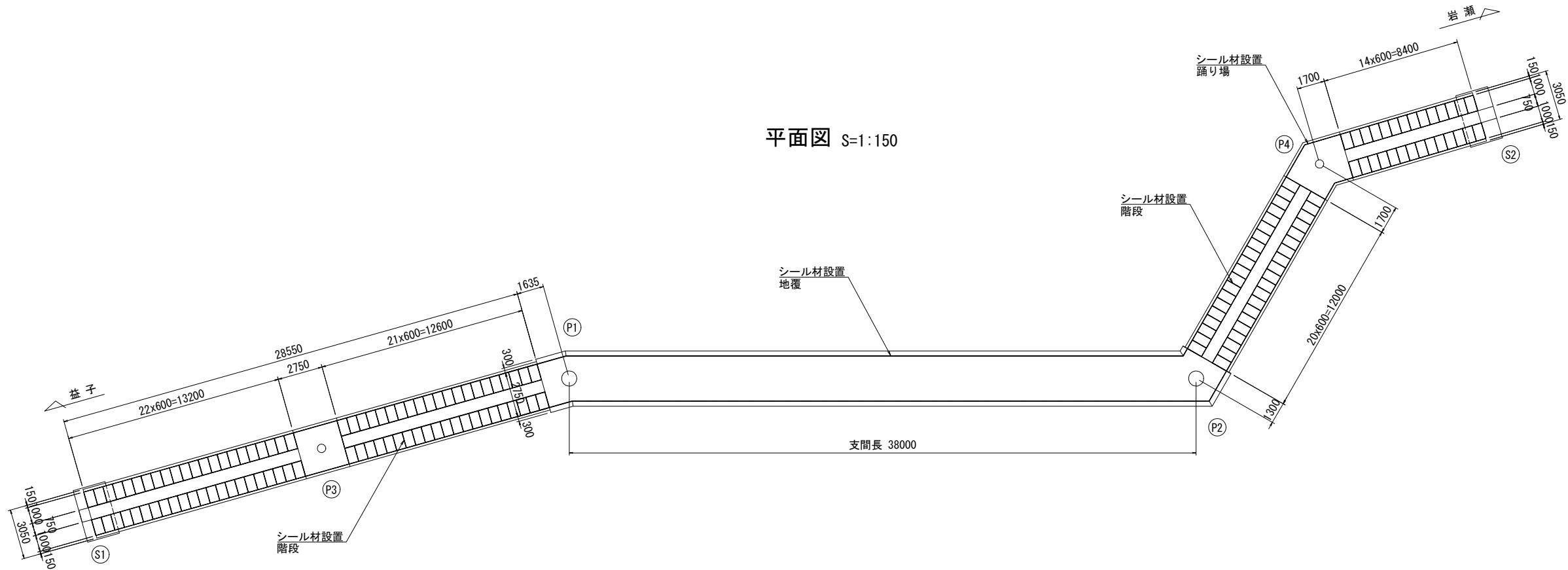
注記)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

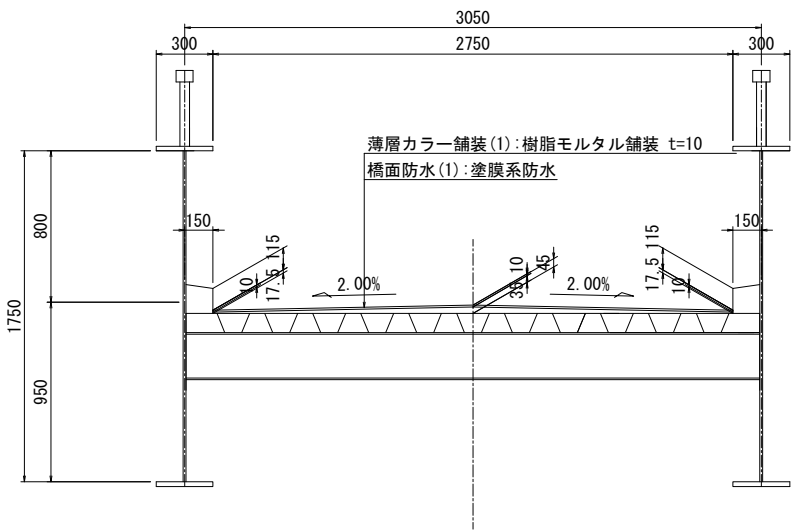
工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	鍬田歩道橋舗装打換図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 28
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鍬田歩道橋シール材設置図

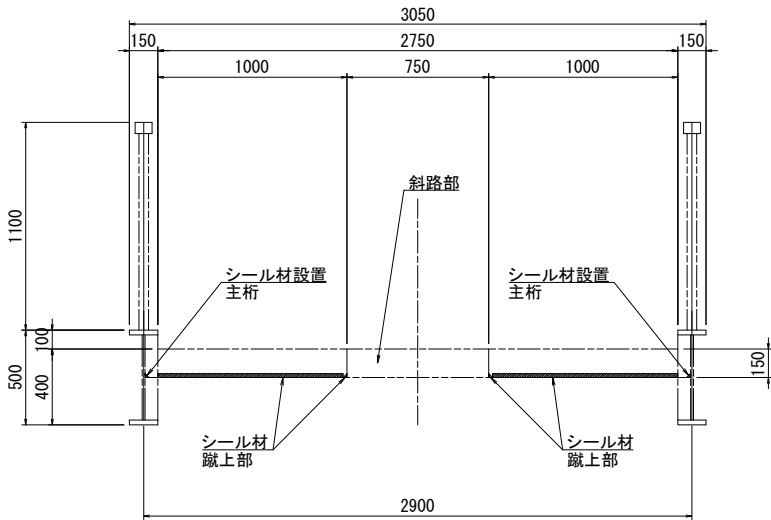
平面図 S=1:150



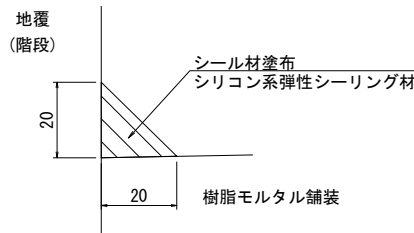
打換後断面図 S=1:20



階段部断面図 S=1:20



シール材設置詳細図 S=1:1



シール材設置(通路部)数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
シーリング設置	シーリング材 0.24L/m(ロス含む)	m	81.87	

シール材設置(階段部)数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
シーリング設置	シーリング材 0.24L/m(ロス含む)	m	360.6	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	鍬田歩道橋シール材設置図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 29
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

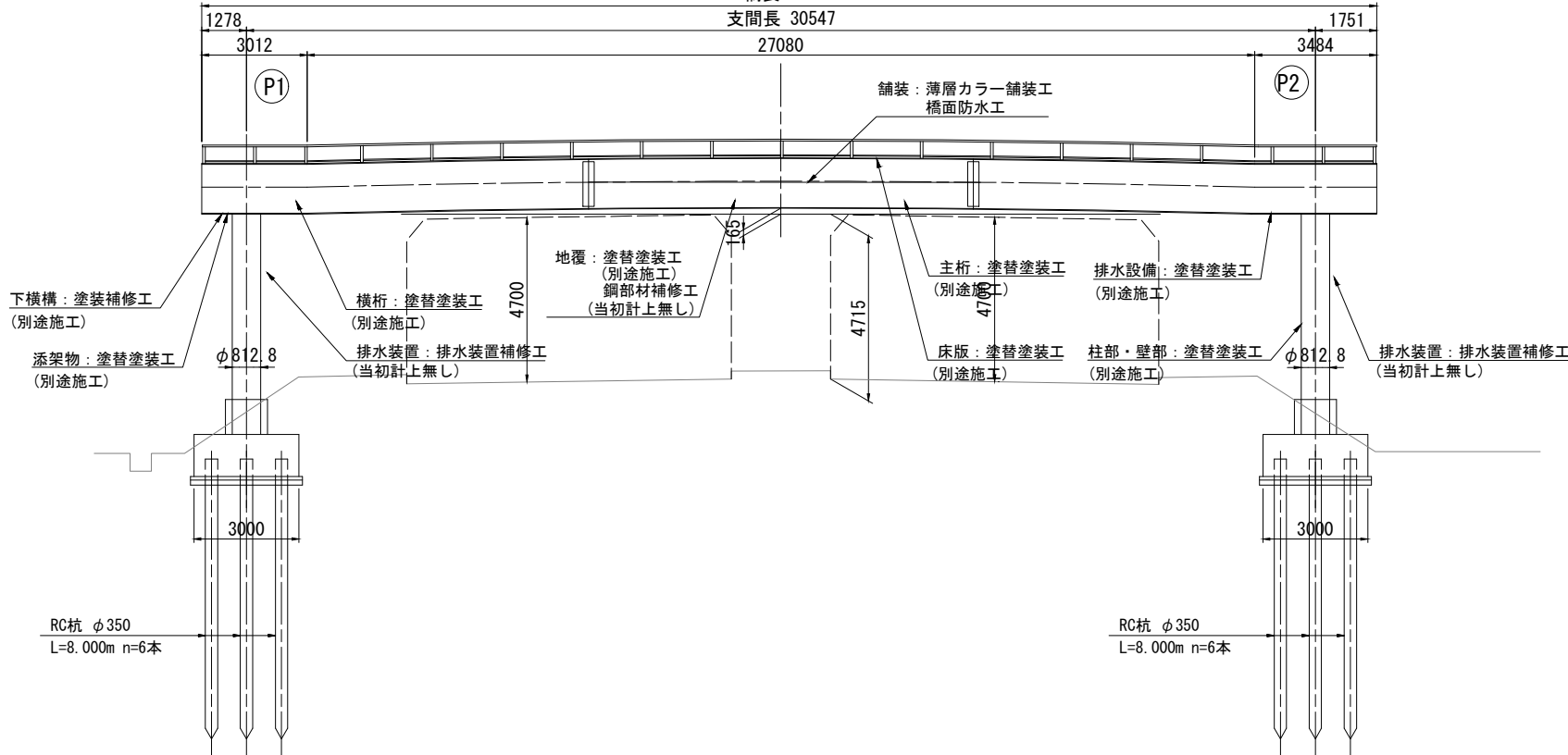
若宮歩道橋補修一般図(1)

側面図 S=1:100

跨道部

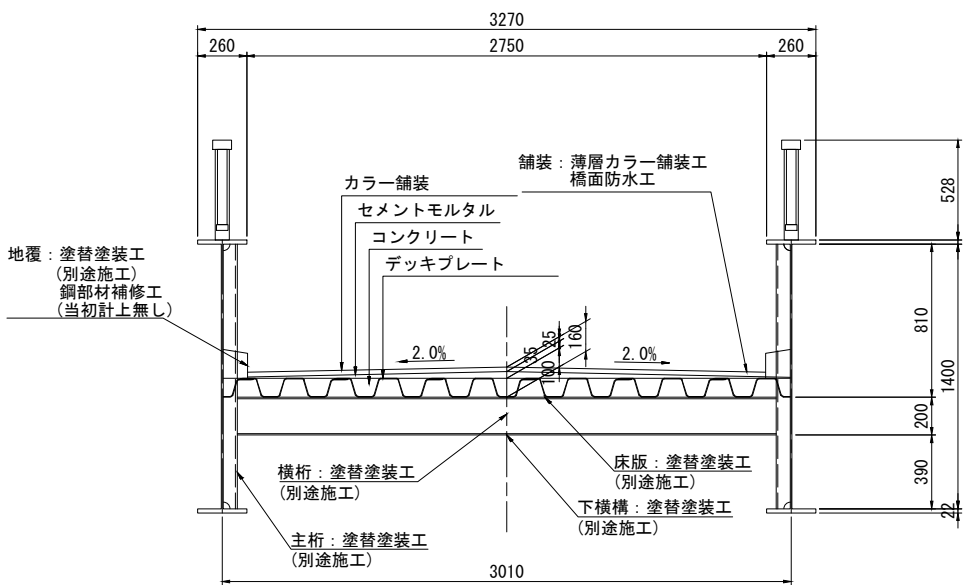
橋長 33576

支間長 30547

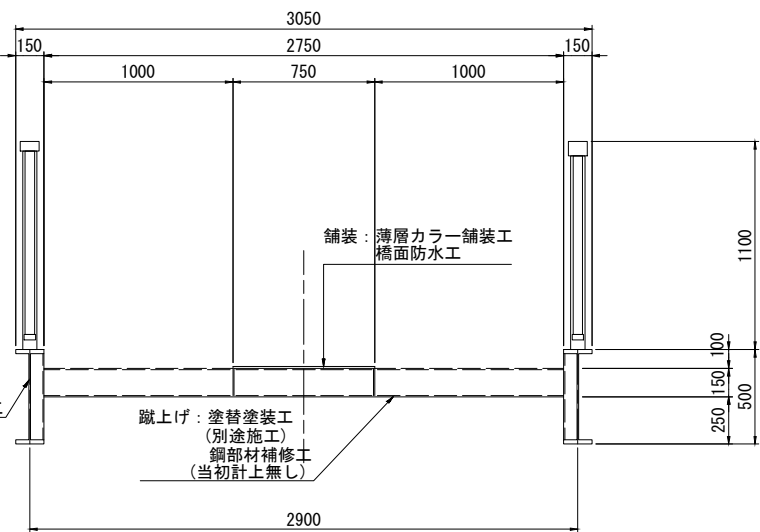


上部構造断面図 S=1:20

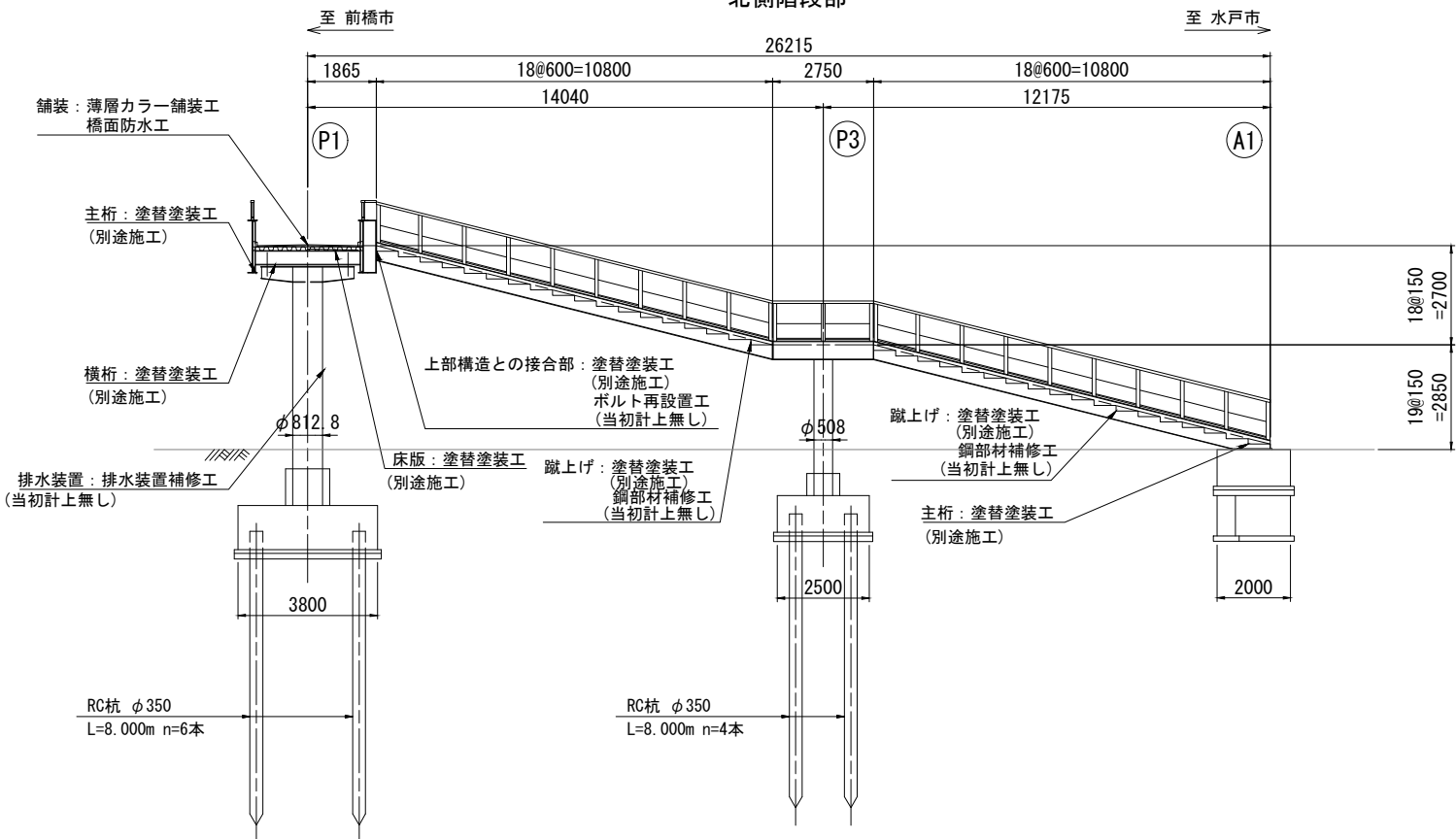
跨道部



階段部



北側階段部



補修項目一覧表

種別	対象部材	補修内容
塗替塗装工(別途施工)	主桁、横桁、下横構、床版、地覆、蹴上げ 柱部・壁部、接合部、添架物、アンカーボルト	Rc-II 塗装系
鋼部材補修工(当初計上無し)	地覆、蹴上げ	金属パテ
排水装置補修工(当初計上無し)	排水装置	支持金具取替
薄層カラー舗装工、橋面防水工	舗装	塗膜系防水
ボルト再設置工	接合部	

現場制約事項	文庫物件 一般国道50号
	重要物流道路 占用物件 案内標識板 (118) 2枚 並設の有害物質あり (鉛)
有	無

※上記、現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を記載しているものであり、工事着手にあたり、受発注者で厳格に確認する。

設計条件

橋梁名	若宮歩道橋
路線名	一般国道50号
所在地	自 茨城県桜川市岩瀬 至 茨城県桜川市岩瀬
交差物件	一般国道50号
形式	上部工 下路式単純鋼桁 下部工 重力式橋台2基、鋼円柱式橋脚4基 基礎工 直接基礎2基、RC杭基礎4基
橋長	33.58m
支間長	—
幅員構成	全幅員：3.27m、有効幅員：2.75m
総径間数	—
活荷重	500kg/m2
完成年度	1980年(昭和55年) (西暦(和暦))
設計基準	1978年(昭和53年)歩道橋指針

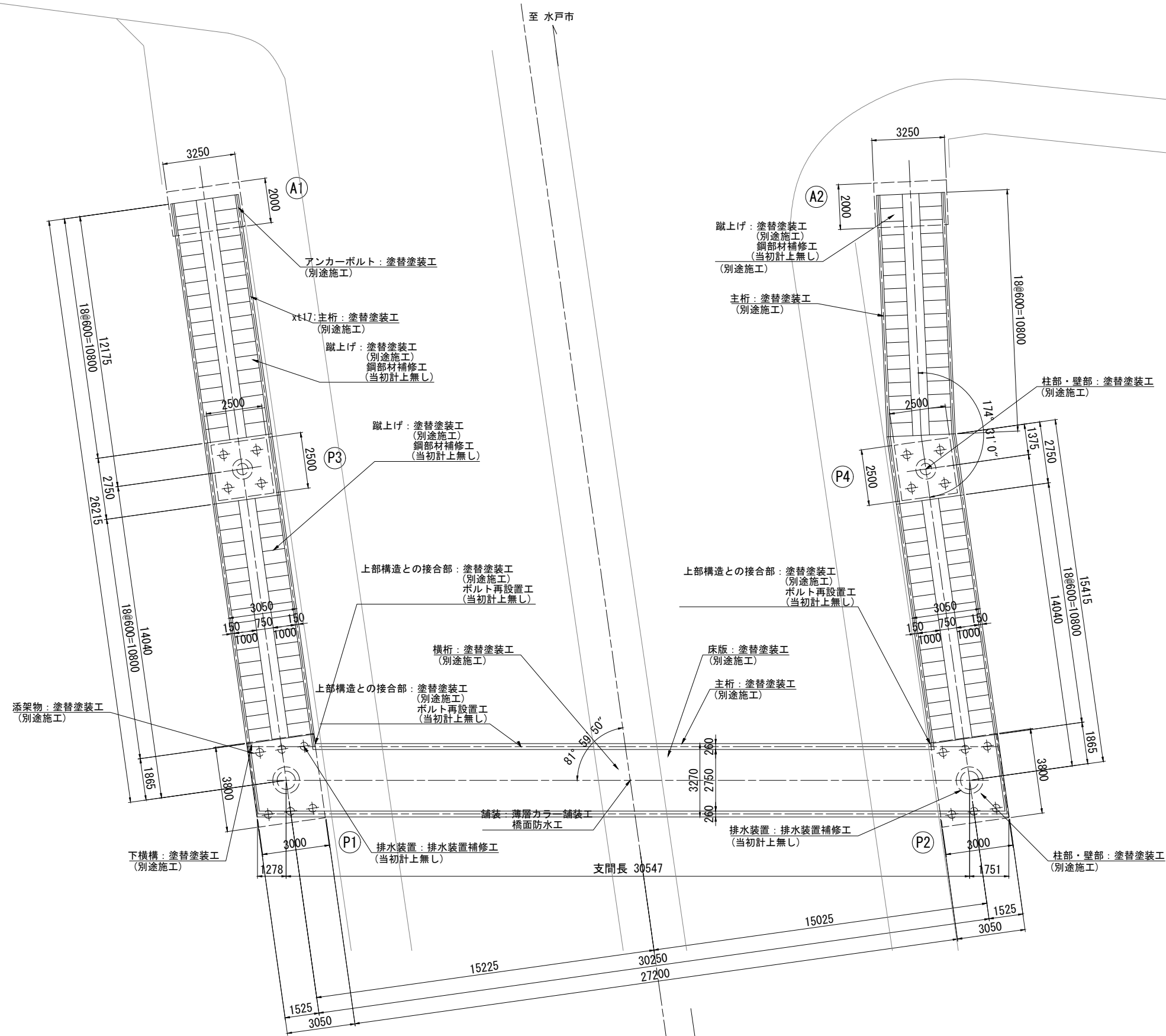
- 注記
- 各部寸法は現場実測後、適宜調整変更の上、製作施工のこと。
 - 本図書は設計計画図であり製作施工図ではない。現地状況にあわせ、調整変更の際には必要時には取付位置、部材および加工寸法や数量変更、応力度照査等をおこない協議の上、決定のこと。
 - 施工時の交通規制は、可能な限り供用可能とすること。
 - 資材搬入・搬出時、仮設工法等については、関係諸機関と協議を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図面名	若宮歩道橋補修一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	40の30
年月日	令和8年	4月	日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

若宮歩道橋補修一般図(2)

平面图 S=1:100



至 前橋市

注記)

1. この図面はS55_岩瀬バイパス横断歩道橋その2工事完成図(昭和55年度)をCAD化したものであり、
脚附番号を整合させて作成している。
2. 舗装厚は推定であり、補修工事の際は改めて詳細調査を行い、舗装厚を確認した上で補修工事を行う事

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

現場制約事項		・ 交差物件：一般国道50号
		・ 重要物流道路
☒ 有 ☐ 無	・ 占用物件：案内標識版（118）2枚	
	・ 塗膜の有害物質あり（鉛）	

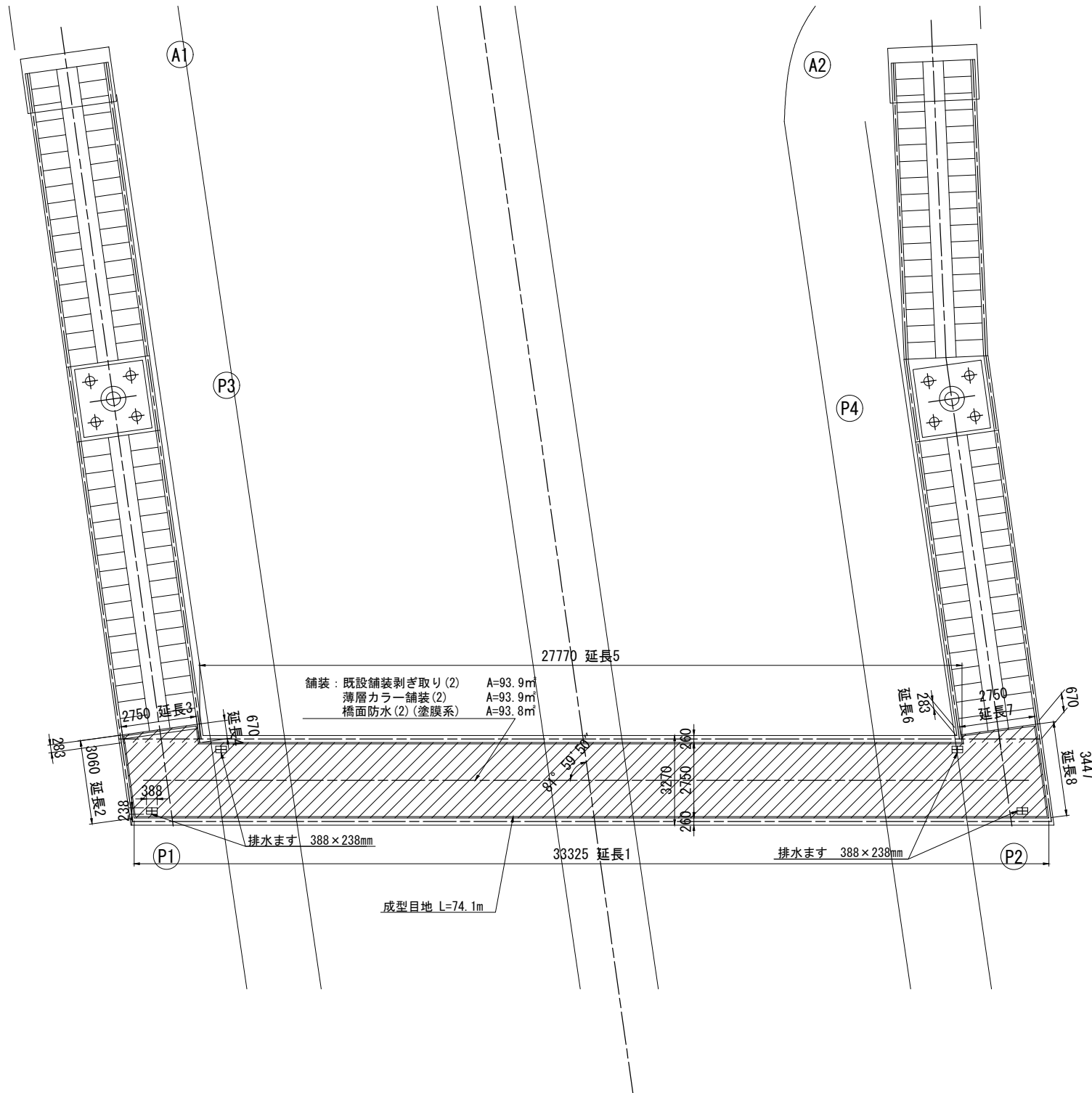
※上記、現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を記載しているものであり、工事着手にあたり、受発注者で厳格に確認する。

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	若宮歩道橋補修一般図(2)		
縮 尺	S=1:100	図面番号	40 の 31
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

若宮步道橋舗装打換区

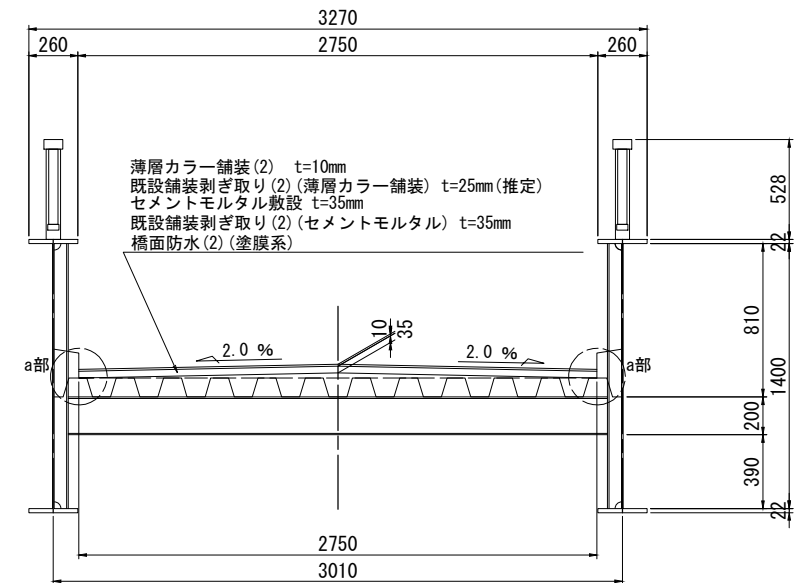
平面图

$S=1:100$



上部構造断面図 S=1:20

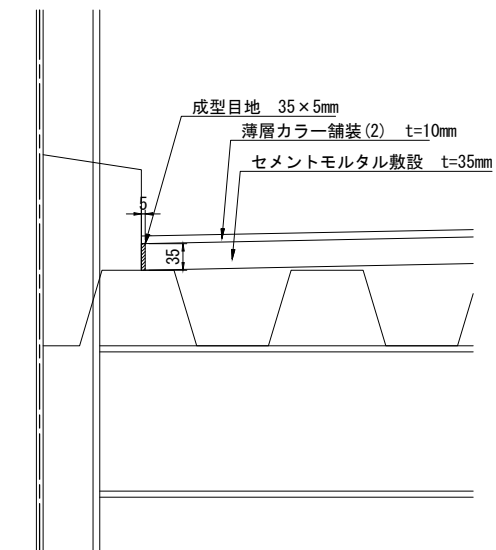
P1 - P2間



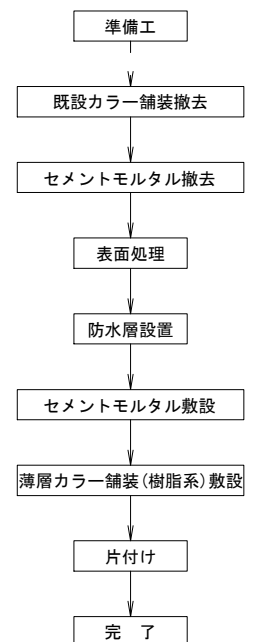
a 部 詳 細 S=1:5

S=1:5

施工フローチャート



※ シール材は舗装端部全てに設置するものとする。



現場制約事項	文庫物件：一般国道50号 ・重要物流道路 ・占用物件：案内標識版（118）2枚 ・壁面の有害物質あり（鉛）
	☒ 有 ☐ 無

※上記、現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を記載しているものであり、工事着手にあたり、受発注者で厳格に確認する。

橋面防水(2)数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
塗膜防水	導水パイプ無 成型目地 35×5 78.88m/100m ²	m ²	93.8	

既設舗装剥ぎ取り(2)数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
既設舗装剥ぎ取り	t ≤ 60mm	m ²	93.8	

薄層カラー舗装(2)数量表

1樁当1

規格	規格	単位	数量	摘要
薄層カラー舗装	t=10mm	m2	93.8	

ヤメント千ルタル敷設数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
セメントモルタル敷設	普通 t=35mm	m2	93.8	

特記事項

1. 図中の補修計画は、「既存点検データ」、「現地調査」等に基づくものであり、工事に際しては現地再確認を行い、発注者と協議の上、施工方法、数量を決定すること。
2. 施工に際し障害となる構造物が確認された場合は、管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
3. 施工に際しては、工事着手前に道路管理者と協議を行い承諾を得た上で実施すること。
4. 舗装厚については推定の手前設計しているが、施工前には十分に調査等で確認し、必要に応じ舗装厚を修正すること。
5. 橋面施工時には雨水の滞水に留意し、現場にて調整し水勾配を確保のこと。
6. 遮断線防水は、養生不足による層の凹み、接合不良に十分注意のこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	若宮歩道橋舗装打換図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 32
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鍬田歩道橋及び若宮歩道橋数量総括表

鍬田歩道橋及び若宮歩道橋数量総括表																
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量													
			鍬田歩道橋							若宮歩道橋						
			S1	P3	P1	P2	P4	S2	計	A1	P3	P1	P2	P4	A2	計
橋梁保全工事		式							1							1
舗装工		式							1							1
橋面防水工		式							1							1
橋面防水(1)	塗膜防水	m2				112.571			112.571							0
橋面防水(2)	塗膜防水	m2							0				93.895			93.895
薄層カラー舗装工		式							1							1
薄層カラー舗装(1)	樹脂モルタル舗装 舗装版厚 10mm	m2				112.571			112.571							0
薄層カラー舗装(2)	樹脂モルタル舗装 舗装版厚 10mm	m2							0				93.895			93.895
セメントモルタル敷設	普通 1：3	m2							0				93.895			93.895
橋梁補修工		式							1							1
ｼｰﾙ材設置工		式							1							1
ｼｰﾙ材設置(通路部)	ｼｰﾘﾝｸﾞ系	m				81.87			81.87							0
ｼｰﾙ材設置(階段部)	ｼｰﾘﾝｸﾞ系	m				360.6			360.6							0
構造物撤去工		式							1							1
構造物取壊し工		式							1							1
既設舗装剥ぎ取り(1)	舗装版厚 60mm以下	m2				112.571			112.571							0
既設舗装剥ぎ取り(2)	舗装版厚 60mm以下	m2							0				93.895			93.895
応急処理工		式							1							1
応急作業処理工		式							1							1
応急作業(1)		式							1							0
応急作業(1)-1【夜間】		式							1							0
応急作業(2)		式							0				1			1
応急作業(2)-1【夜間】		式							0				1			1

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	鍬田歩道橋及び若宮歩道橋数量総括表		
縮 尺	—	図面番号	40 の 33
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

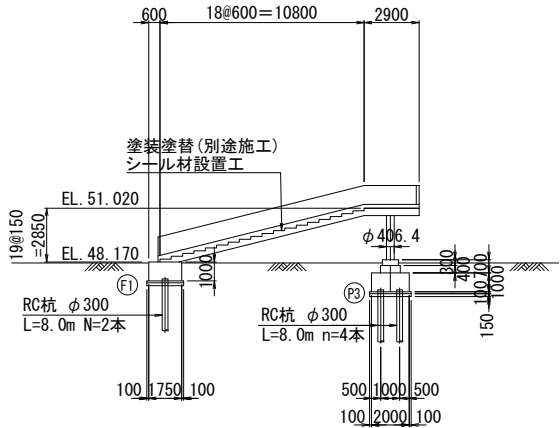
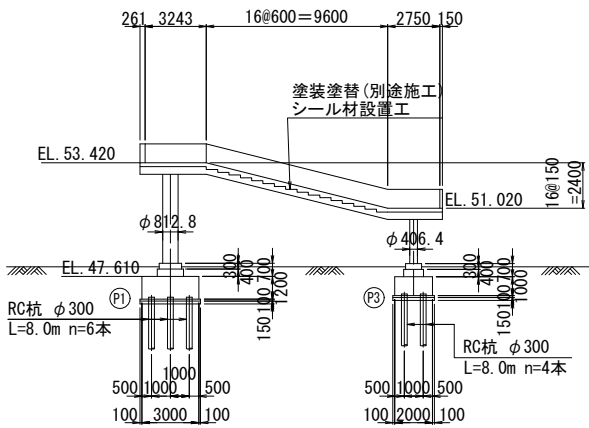
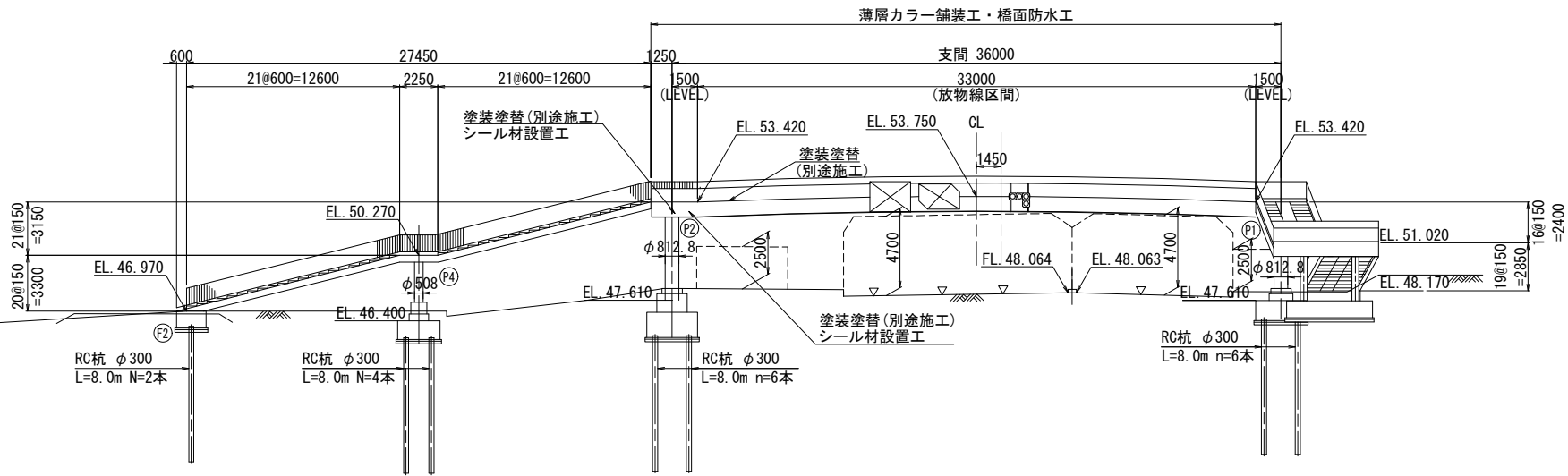
山王歩道橋補修一般図(1)

側面図 S=1:200

A - A

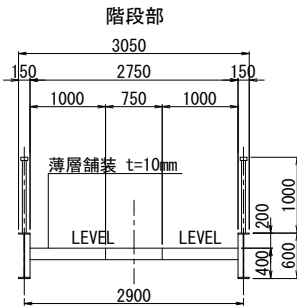
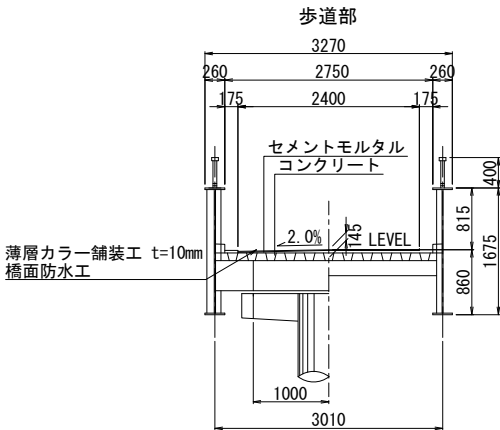
B - B

C - C



平面図 S=1:200

断面図 S=1:50



補修工一覧表

補修部材	補修箇所	対象損傷	対策区分		対策工
			点検 R2	本業務 R6	
主桁	第1径間	変形・欠損	C2	C2	シール材設置工
横桁	第1径間	腐食、漏水、滞水、防食機能の劣化	C2	C2	シール材設置工
床版	第1径間	腐食、防食機能の劣化	C1	C1	橋面防水工
主桁	第2・3径間 第4・5径間	腐食	C1	C1	シール材設置工
蹴上げ	第2・3・4径間	腐食	C1	C1	シール材設置工
接合部	第2・3・4径間	腐食、ゆるみ、脱落	C2	C1	シール材設置工
アンカーボルト	第2径間	腐食	C1	C1	塗装塗替工(別途施工)
排水受け	第1径間	腐食	C1	C1	橋面防水工
地覆	第1径間	腐食	C1	C1	シール材設置工
添加物	第1径間	変形、欠損	C1	C1	部材取替(当初計上無し)、橋面防水工
舗装	第1径間	舗装の異常	C1	C1	薄層カラー舗装工、橋面防水工

【特記事項】

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

現場制約事項		・関係機関協議：公安委員会[桜川警察署](国道50号) ・地元関係機関：なし ・交通規制：車線規制(夜間：有) ・橋梁添加物：信号機、看板、照明、管路、立入防護柵、防鳥ネット ・支障物件：防鳥ネット(一時撤去) ・架空線：なし ・作業スペース：作業ヤード・資材仮置き場の確保 ・近隣住民：騒音・振動への配慮
有	無	

※ 上記、現場制約事項は、施工条件のうち、特に留意すべき事項を記載しているものであり、工事着手にあたり、工事監理連絡会等において受発注者間で厳格に確認する。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

現況橋梁諸元

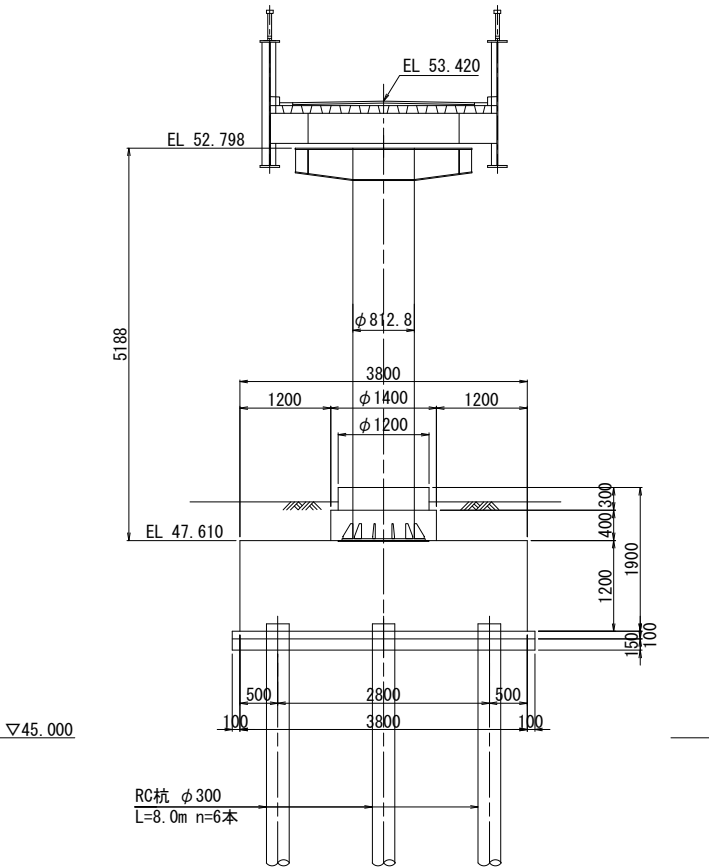
項目	内容	
路線名	一般国道50号	
所在地	自	茨城県桜川市岩瀬
	至	茨城県桜川市岩瀬
構造形式	上部構造	下路式単純鈑桁
	下部構造	橋台 2基 鋼円柱式橋脚 4基
橋長	38.700m	
全幅員	3.200m	
径間数	5径間	
竣工年	1979年(昭和54年)	
適用基準書(点検調書参照)	歩道橋指針(1965年)	
補修履歴	2002年度(平成14年度) ・照明灯 2007年度(平成19年度) ・主桁変形補修工 ・排水管補修工 ・階段桁穴補修工 ・橋面補修工 ・鳩害防止工 ・塗装塗替工	

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋補修一般図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 34
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

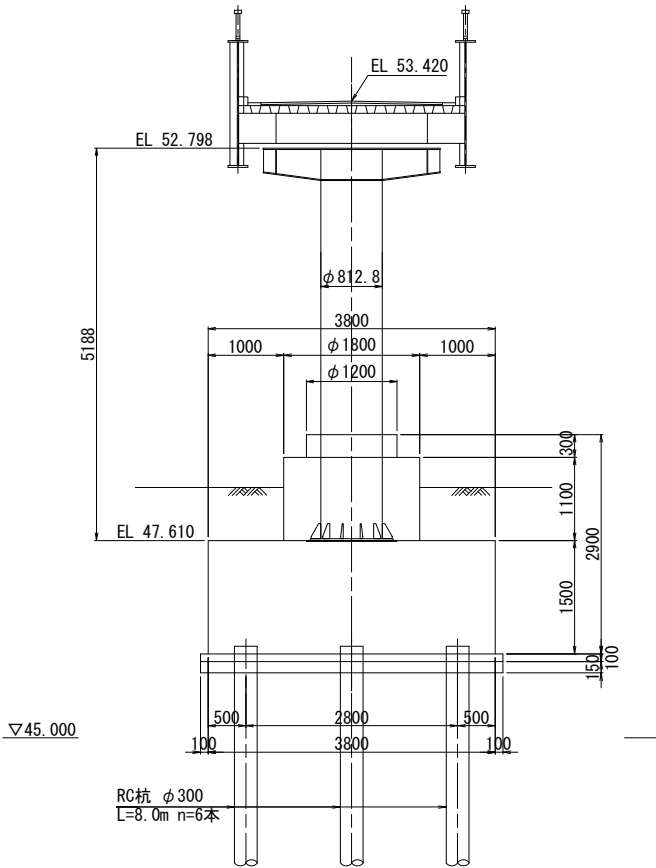
山王歩道橋補修一般図(2)

下部工正面図 S=1:50

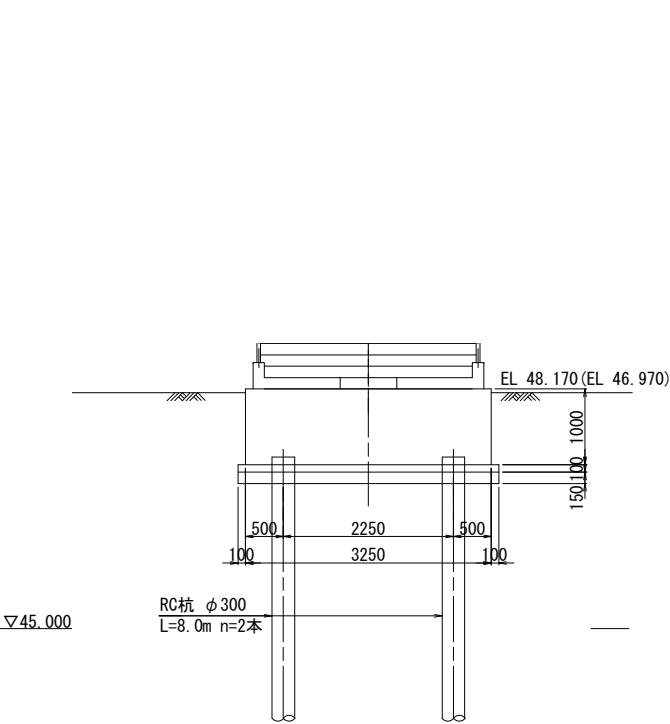
P1橋脚



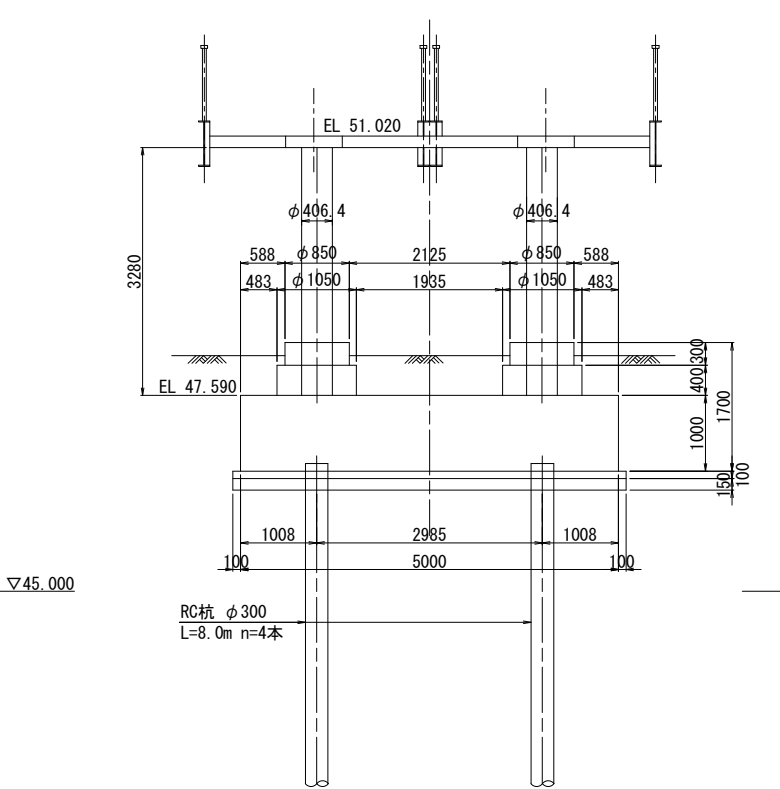
P2橋脚



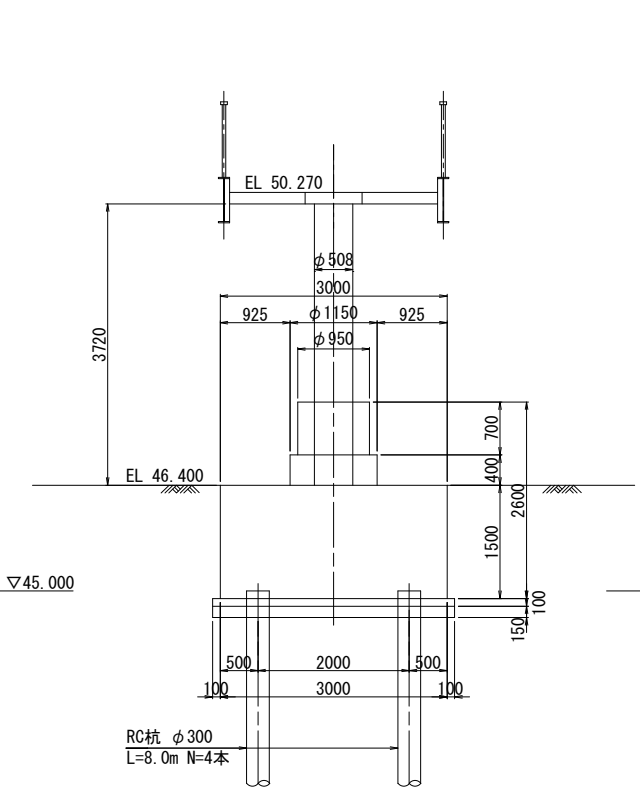
F1橋台・F2橋台



P3橋脚



P4橋脚

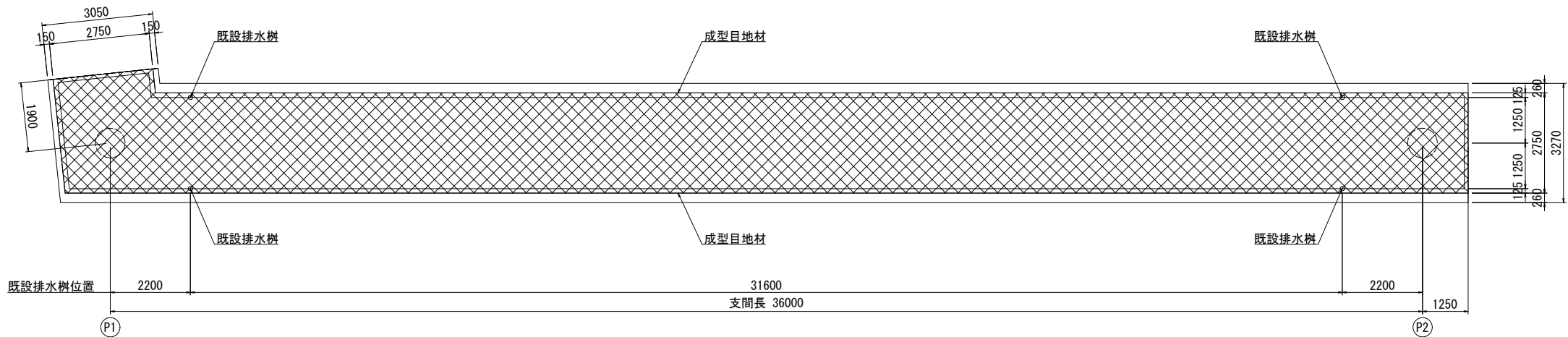


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

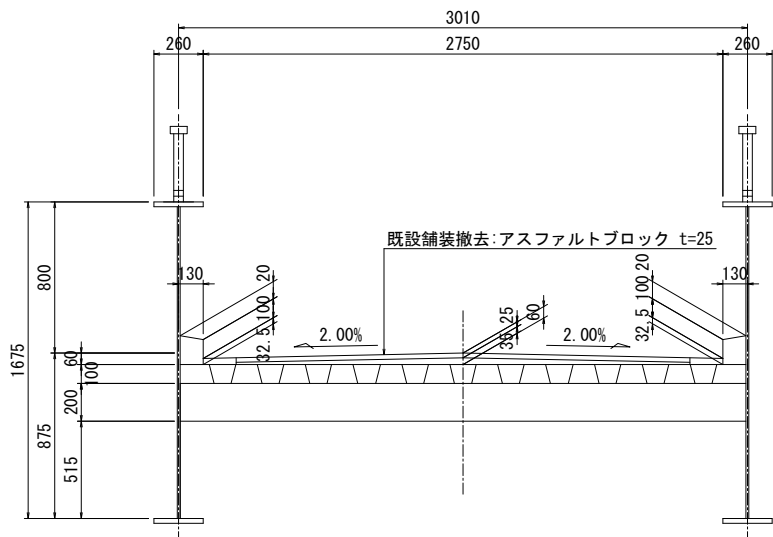
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋補修一般図(2)		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 35
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

山王歩道橋橋舗装打換図

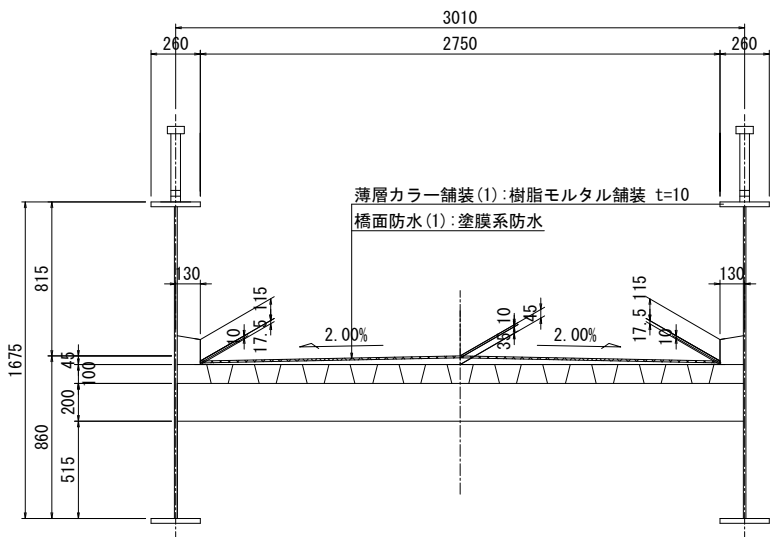
平面図 S=1:75



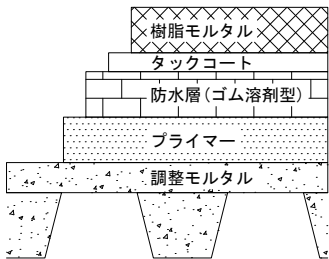
現況断面図 S=1:20



打換後断面図 S=1:20

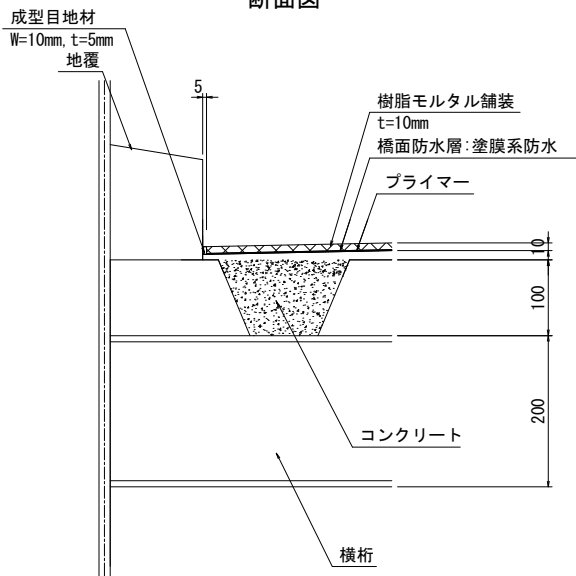


防水層の層構成 (新設)



橋面防水工詳細図 S=1:5

断面図



橋面防水数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
塗膜防水	導水パイプ無 成型目地 10×5 72.73m/100m2	m2	107.6	成型目地 当初計上無し

既設舗装剥ぎ取り数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
既設舗装剥ぎ取り	t≤60mm	m2	107.6	

薄層カラー舗装数量表

1橋当り

規格	規格	単位	数量	摘要
薄層カラー舗装	t=10mm	m2	107.6	

注記)

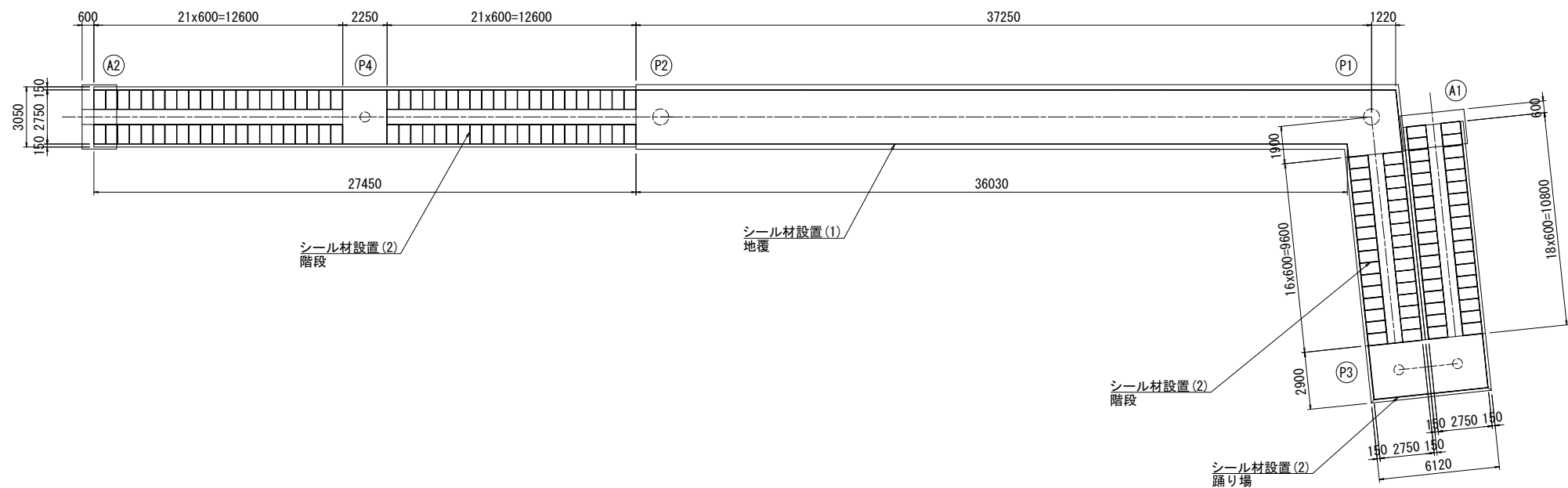
1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

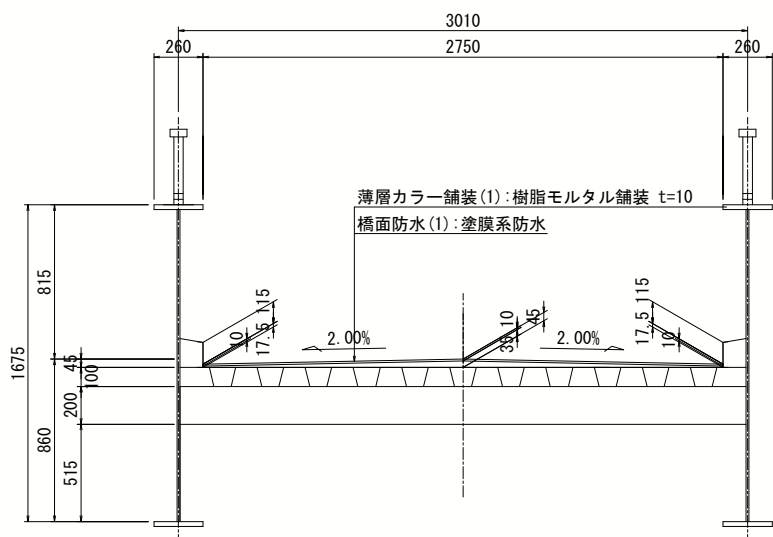
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋橋舗装打換図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 36
年 月 日	令和 8 年 4 月	日	
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

山王歩道橋シール材設置図

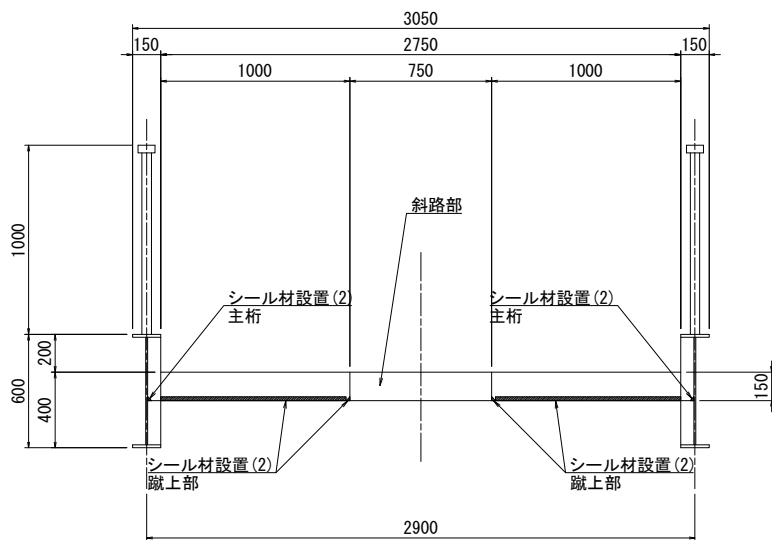
平面図 S=1:150



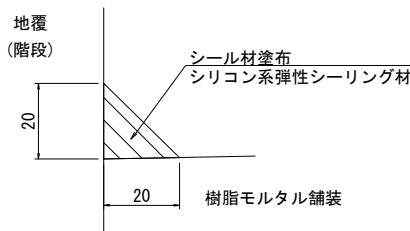
通路部断面図 S=1:20



階段部断面図 S=1:20



シール材設置(1)(2)詳細図 S=1:1



注記)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

シール材設置(1)数量表

規格	規格	単位	数量	摘要
シーリング設置	シーリング材 0.24L/m(ロス含む)	m	78.3	

1橋当り

シール材設置(2)数量表

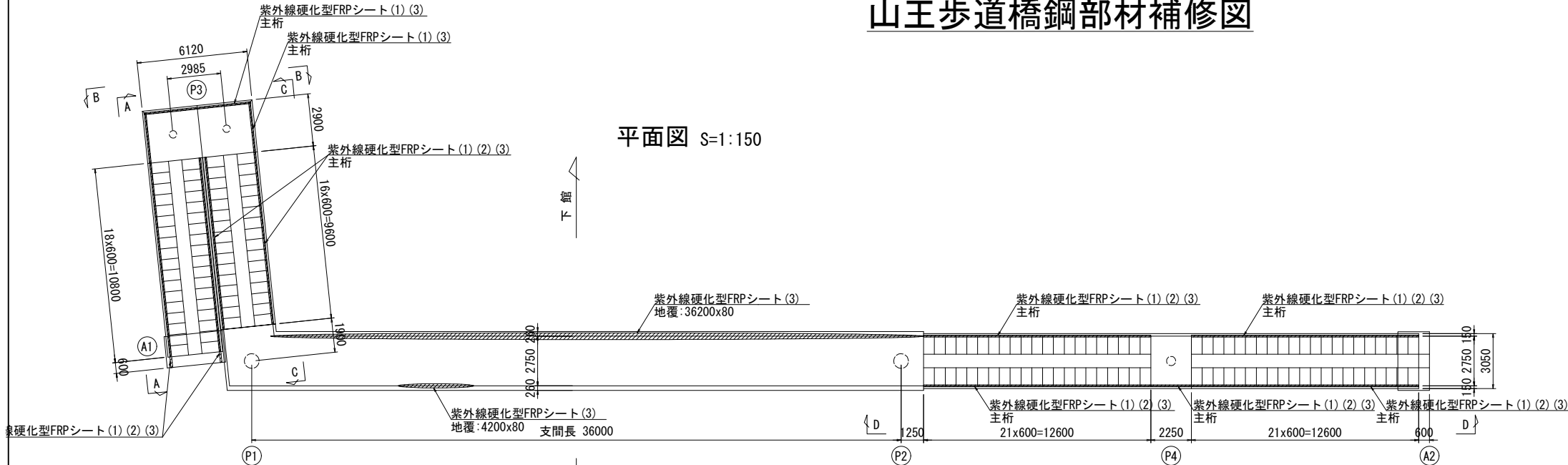
規格	規格	単位	数量	摘要
シーリング設置	シーリング材 0.24L/m(ロス含む)	m	360.3	

1橋当り

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

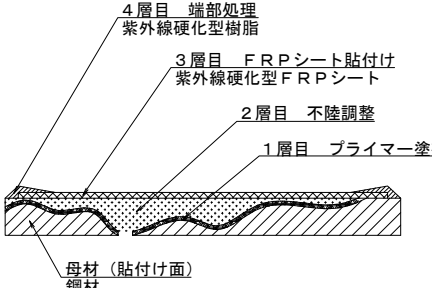
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋シール材設置図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 37
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

山王歩道橋鋼部材補修図



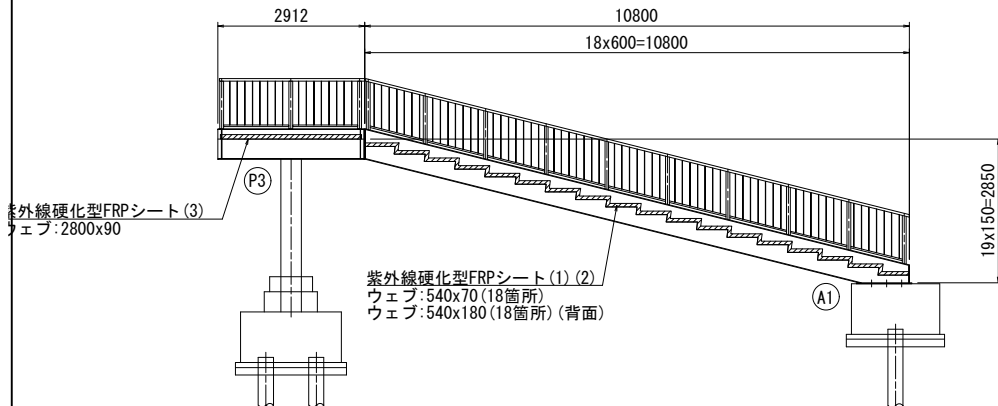
断面図

(紫外線硬化型FRPシート)



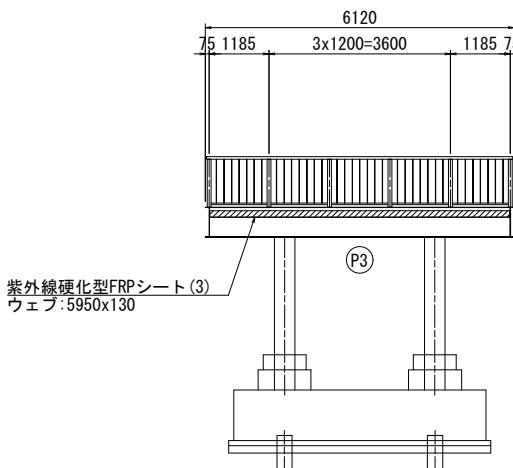
側面図 $S=1:7$

A - A



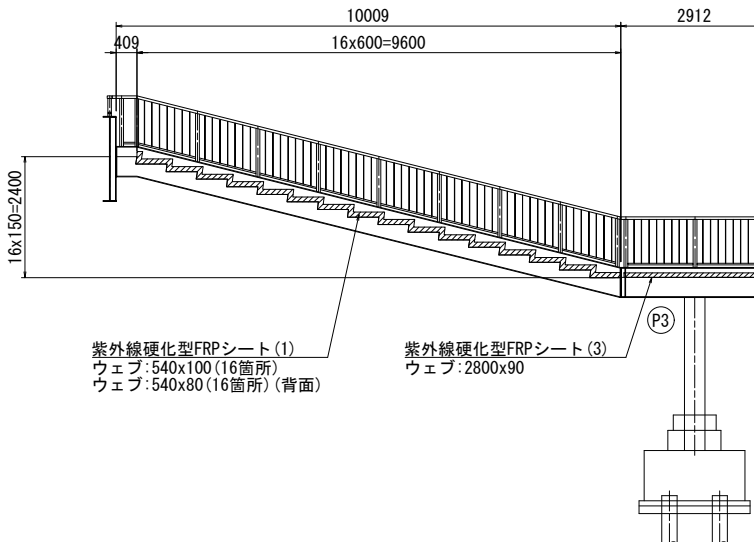
側面図 S=1:7

B -

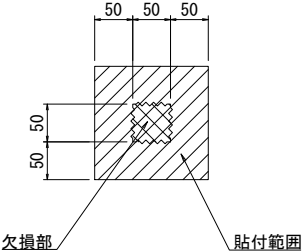


側面図 S=1:

C -

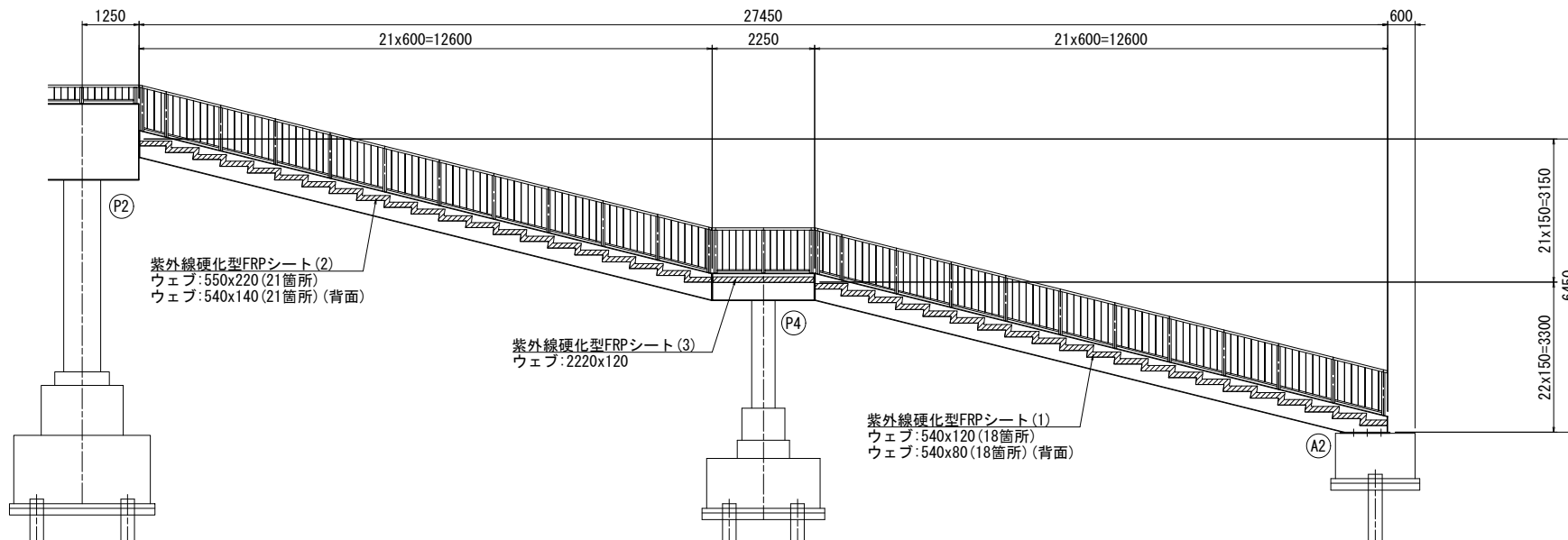


FRPシート設置工標準図 S=1:5



側面図 S=1:7

D -



FRPシート設置数量表

(1 橋当り)

使用箇所		設置寸法L×B(mm)	設置数	m ²
高欄	P1～P2	36200×80	1	2.896
		4200×80	1	0.336
	A1～P3	540×70	18	0.684
		540×180	18	1.746
		2800×90	1	0.252
		5950×130	1	0.774
	P1～P3	2800×90	1	0.252
		540×100	16	0.864
		540×80	16	0.688
	第4径間	550×220	21	2.541
		540×140	21	1.596
		2200×120	1	0.266
		540×120	18	1.170
540×80		18	0.774	
区分A 0.01m ² 以上0.07m ² 未満／箇所		合計	4.180	
区分B 0.07m ² 以上0.15m ² 未満／箇所		合計	5.883	
区分C 0.15m ² 以上／箇所		合計	4.776	

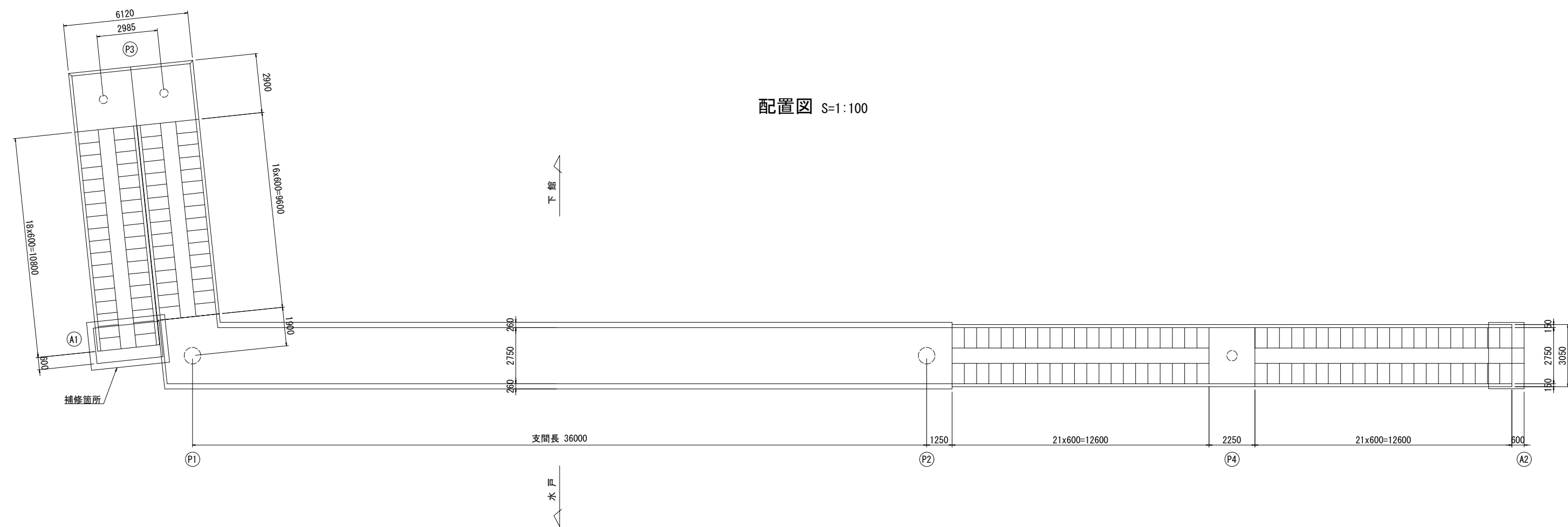
注記:

1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

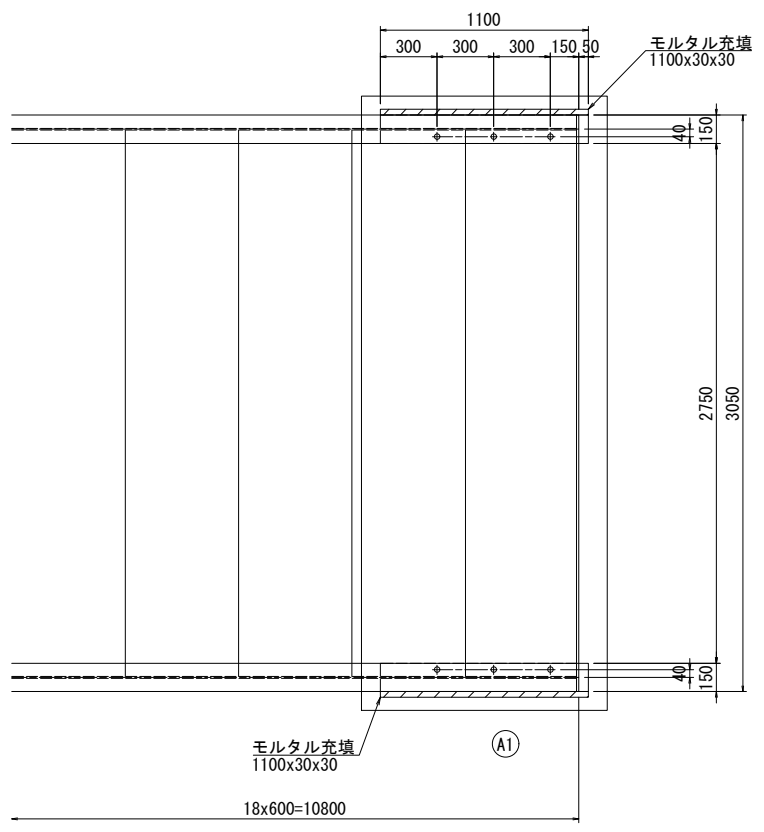
工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋鋼部材補修図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 38
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なりま

山王歩道橋モルタル充填図



平面図 S=1:20



モルタル数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

(1橋当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
コンクリート殻処理	無筋	m3	0.001	殻運搬含む
充填材	無収縮モルタル	m3	0.001	

注記)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工 事 名	R7国道6号桜川橋(下り)他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋モルタル充填図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 39
年 月 日	令和 8 年 4 月 日		
設計会社名	八千代エンジニアリング株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

山王歩道橋数量総括表

山王歩道橋数量総括表

工事区分・工程・種別・細別	規格	単位	数量								計	計上値	摘要		
			A1～P3		P3～P1		P1～P2		P2～P4					P4～A2	
			A1	P3	P1	P2	P4	A2							
橋梁保全工事		式	1								1	1			
舗装工		式	1								1	1			
橋面防水工		式	1								1	1			
橋面防水	塗膜防水	m2				107.66					107.66	107			
薄層カラー舗装工		式	1								1	1			
薄層カラー舗装	樹脂モルタル舗装 舗装厚 10mm	m2				107.66					107.66	107			
橋梁補修工		式	1								1	1			
モルタル充填工		式	1								1	1			
モルタル充填	無収縮モルタル	箇所	1								1	1			
殻運搬	コンクリート殻(無筋)	m3	0.001								0.001	0.001			
殻処分	コンクリート殻(無筋)	m3	0.001								0.001	0.001			
シール材設置工		式	1								1	1			
シール材設置(1)(通路部)	シーリング系	m	78.3								78.3	78			
シール材設置(2)(階段部)	シーリング系	m	360.32								360.32	360			
紫外線硬化型FRPシート工		式	1								1	1			
紫外線硬化型FRPシート(1)	0.01㎡以上0.07㎡未満／枚	m2		0.684	1.552		1.944				4.180	4.18			
紫外線硬化型FRPシート(2)	0.07㎡以上0.15㎡未満／枚	m2		1.746			4.137				5.883	5.88			
紫外線硬化型FRPシート(3)	0.15㎡以上／枚	m2		1.026	0.252	3.232	0.266				4.776	4.77			
構造物撤去工		式	1								1	1			
構造物取壊し工		式	1								1	1			
既設舗装剥ぎ取り	舗装版厚 60mm以下	m2				107.66					107.66	100			
応急処理工		式	1								1	1			
応急作業処理工		式	1								1	1			
応急作業(1)		式	1								1	1			
応急作業(2)【夜間】		式	1								1	1			

工 事 名	R7国道6号桜川橋（下り）他歩道橋補修工事		
図 面 名	山王歩道橋数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	40 の 40
年 月 日	令和 8 年	4 月	日
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		